

令和 6 年度  
第 5 回葛飾区区民モニターアンケート  
調査報告書

- 「里親制度について」 —
- 「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例について」 —
- 「スポーツについて」 —
- 「区民モニター調査について」 —

令和 7 年 3 月





## 目次

|      |                             |    |
|------|-----------------------------|----|
| I    | 調査概要                        | 1  |
| 1.   | 調査の目的                       | 1  |
| 2.   | 調査のテーマ                      | 1  |
| 3.   | 調査の設計                       | 1  |
| 4.   | 調査機関                        | 1  |
| 5.   | 報告書の表記について                  | 1  |
| II   | 回答者の属性                      | 2  |
| III  | 調査結果の詳細                     | 6  |
| 1.   | 里親制度について                    | 6  |
| (1)  | 子どもたちの生活の場を知っているか           | 8  |
| (2)  | 里親制度の認知度                    | 10 |
| (3)  | 里親制度をどのように知ったか              | 12 |
| (4)  | 里親制度の種類について                 | 14 |
| (5)  | 里親になれる世帯について                | 16 |
| (6)  | 里親に対するサポート                  | 18 |
| (7)  | 里親になってみたいか                  | 20 |
| (8)  | 里親になってみたい理由                 | 22 |
| (9)  | どのようなサポートが必要か               | 24 |
| (10) | 里親になりたいと思わない理由              | 26 |
| (11) | 里親制度が普及しない理由                | 28 |
| (12) | 里親制度の広報について                 | 30 |
| (13) | 広報活動のうち、見たこと、聞いたことがあるものがあるか | 32 |
| (14) | 普段の情報収集媒体は何か                | 34 |
| (15) | 里親制度についての自由意見               | 36 |
| 2.   | 葛飾区歩きスマホの防止に関する条例について       | 39 |
| (16) | 歩きスマホをしたことがあるか              | 41 |
| (17) | 歩きスマホをしてしまう理由               | 43 |
| (18) | 視聴・操作していることが多いコンテンツ         | 45 |
| (19) | 人や物にぶつかったり、危険を感じたことがあるか     | 47 |
| (20) | 歩きスマホの危険性・迷惑性について           | 50 |
| (21) | 歩きスマホをやめるための対策              | 52 |
| (22) | 歩きスマホをしている人について             | 54 |

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| (23) 「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」の認知度 | 56  |
| (24) 条例をどのような手段で知ったか         | 58  |
| 3. スポーツについて                  | 60  |
| (25) 経験したことがあるアーバンスポーツがあるか   | 62  |
| (26) どの程度の頻度で取り組んでいるか        | 64  |
| (27) アーバンスポーツの普及             | 66  |
| (28) アーバンスポーツ施設は必要か          | 68  |
| (29) どのスポーツが必要か              | 70  |
| (30) 望ましい施設                  | 72  |
| (31) 不要だと感じる理由               | 74  |
| (32) ユニバーサルスポーツの認知度          | 76  |
| (33) ユニバーサルスポーツをどこで知ったか      | 78  |
| (34) ユニバーサルスポーツの認知のために必要なこと  | 80  |
| (35) 教室やイベントに参加したことがあるか      | 82  |
| (36) 教室やイベントをどこで知ったか         | 84  |
| (37) どのようにすれば参加しやすいか         | 86  |
| (38) デフリンピックの認知度             | 88  |
| 4. 区民モニター調査について              | 90  |
| (39) 回答に際してどのような機器を使用しているか   | 90  |
| (40) メールアドレスを登録したか           | 92  |
| (41) メールでの調査案内は便利だったか        | 94  |
| (42) 調査報告書を読んでいるか            | 97  |
| (43) 調査回数は適切だったか             | 99  |
| (44) 区民モニターとして活動してみての感想      | 101 |
| (45) 区政への関心は高まったか            | 105 |
| (46) またモニターとして活動したいか         | 107 |
| (47) 改善してほしい点や要望など           | 109 |
| (48) 取り上げてほしいテーマ、全体を通しての感想   | 111 |

# I 調査概要

## 1. 調査の目的

区が実施している施策や区が発信している情報等について、無作為に選定した方から公募により決定した「区民モニター」から、適時かつ具体的なご意見を収集することにより、区政への活用を図るもの。

## 2. 調査のテーマ

- (1) 里親制度について
- (2) 葛飾区歩きスマホの防止に関する条例について
- (3) スポーツについて
- (4) 区民モニター調査について

## 3. 調査の設計

- (1) 調査対象 無作為で選定した18歳以上の区民4,000人から公募により決定した区民モニター500名
- (2) 調査方法 インターネットでの回答
- (3) 調査期間 令和7年1月10日（金）～1月31日（金）
- (4) 有効回収数 371名

## 4. 調査機関

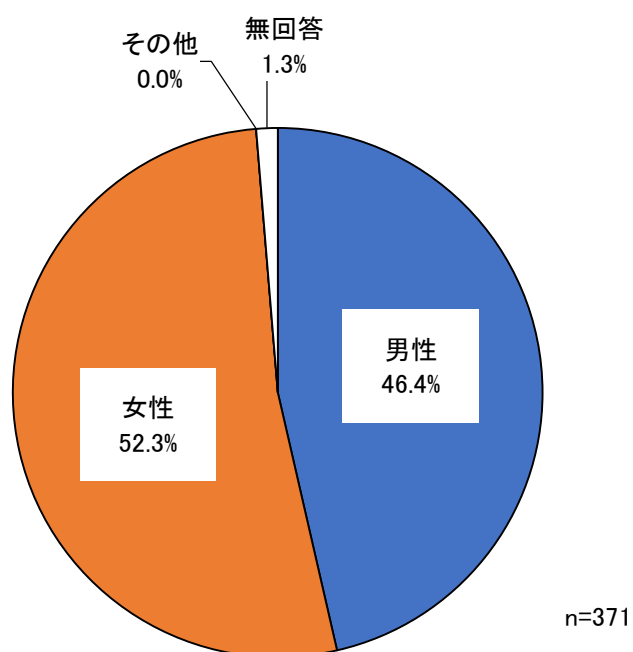
株式会社都市計画 2 1

## 5. 報告書の表記について

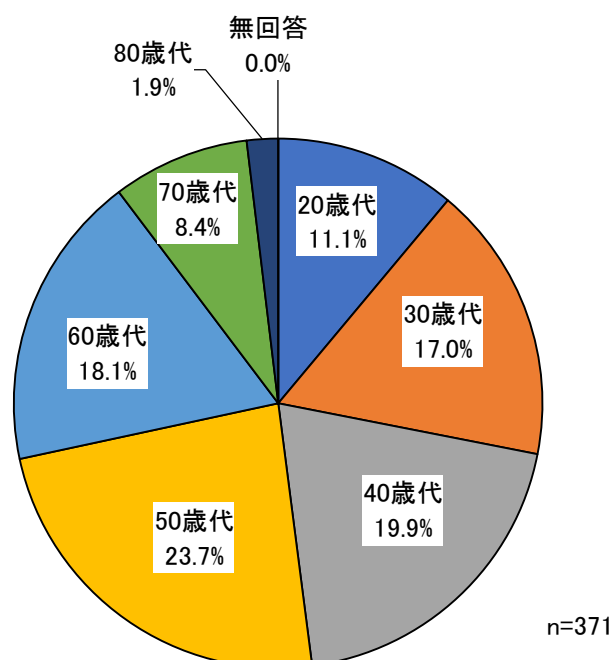
- (1) 比率は全て百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) “n”は各設問の回答数を示している。比率はnを母数として、算出している。
- (3) 複数回答の設問では、1人が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
- (4) 年齢層・年代別の20歳代には、18歳・19歳を含んでいる。
- (5) 年齢層・年代別の80歳代には、90歳以上を含んでいる。

## Ⅱ 回答者の属性

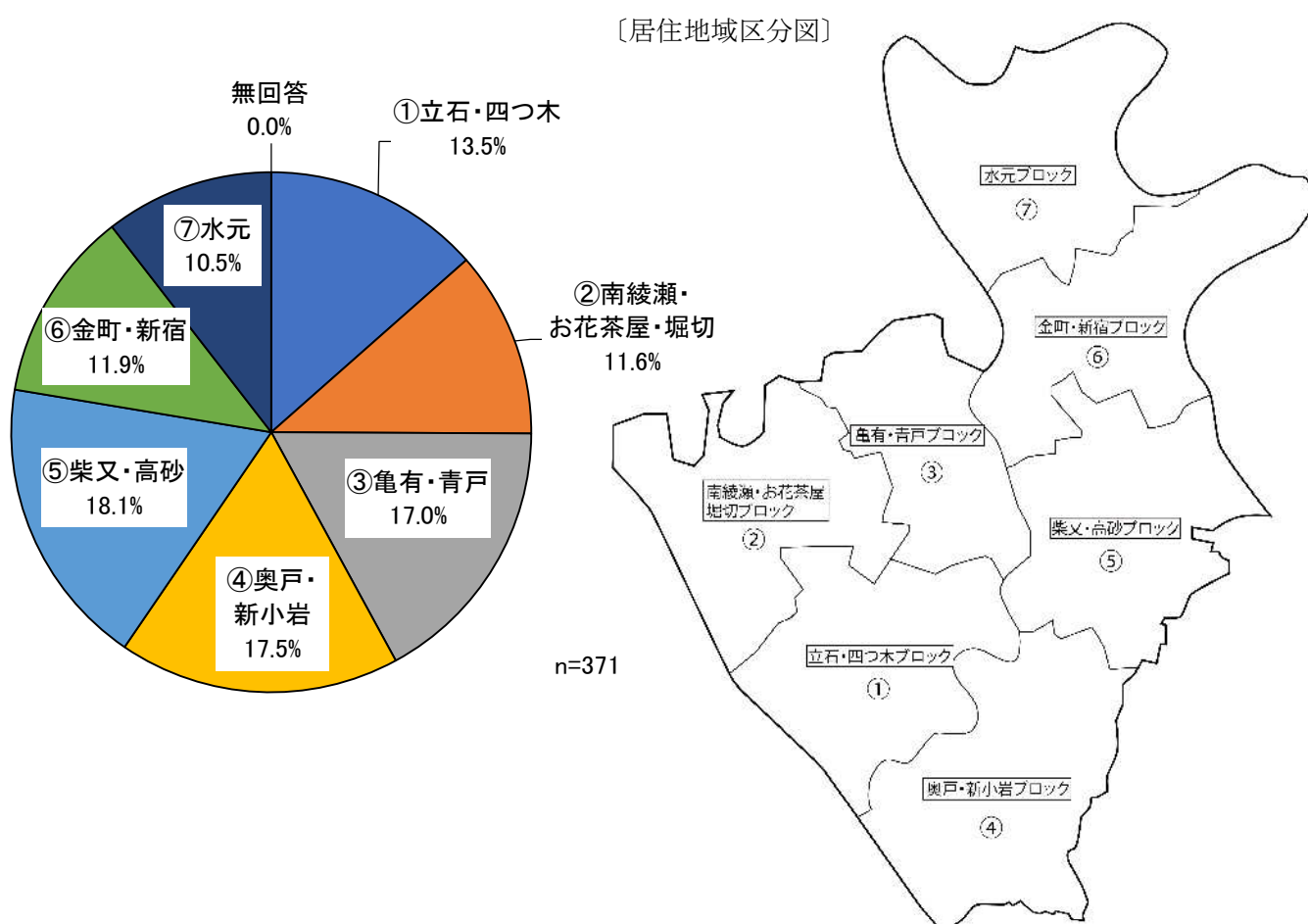
### (1) 性別



### (2) 年齢層



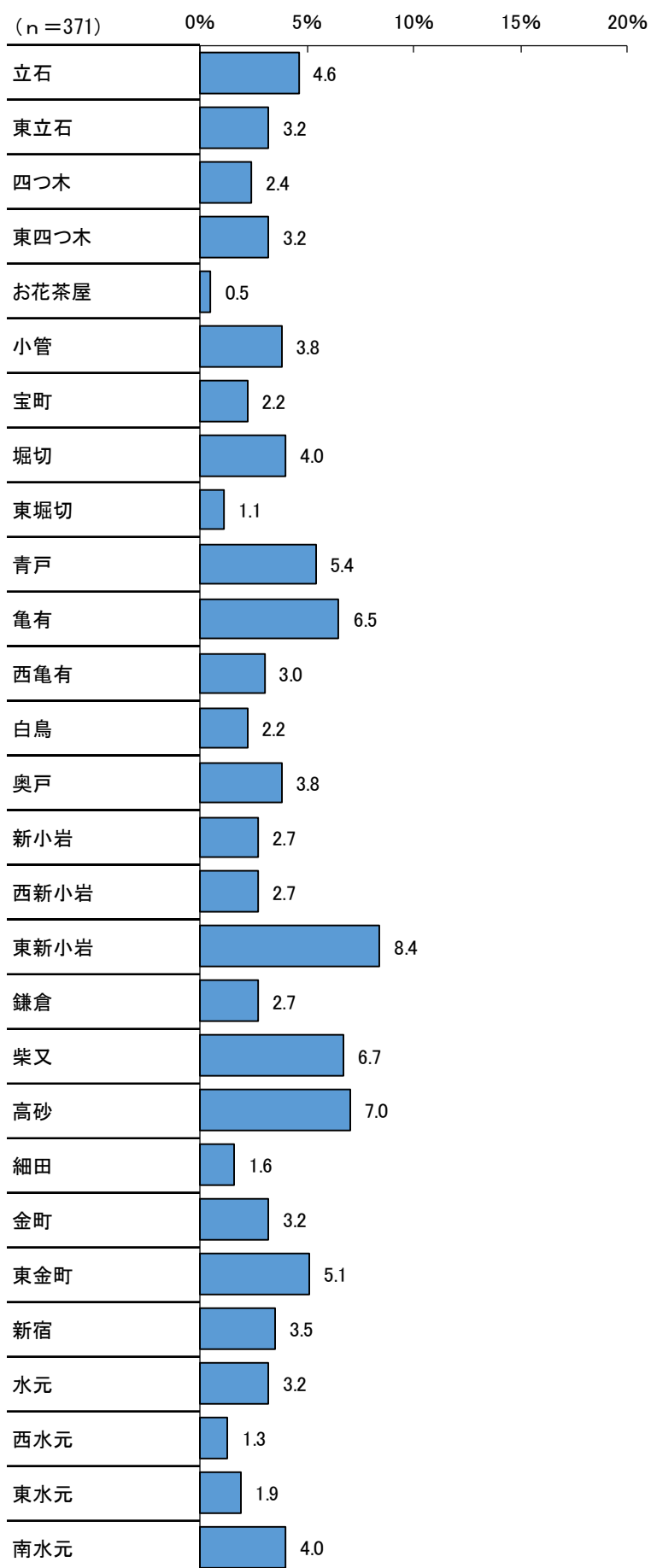
(3) 居住地域 (7 区分)



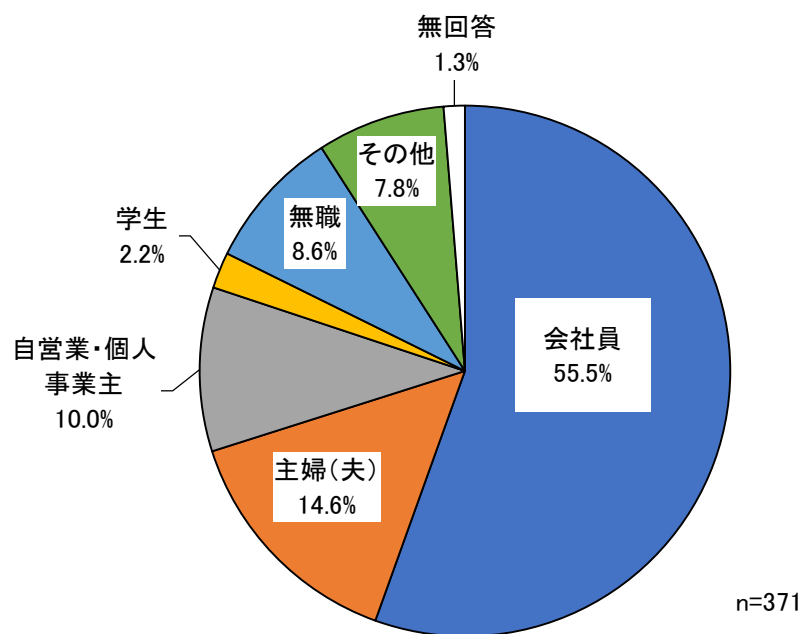
〔居住地域区分表〕

|   | ブロック名           | 町名                |
|---|-----------------|-------------------|
| 1 | 立石・四つ木ブロック      | 立石・東立石・四つ木・東四つ木   |
| 2 | 南綾瀬・お花茶屋・堀切ブロック | お花茶屋・小菅・宝町・堀切・東堀切 |
| 3 | 亀有・青戸ブロック       | 青戸・亀有・西亀有・白鳥      |
| 4 | 奥戸・新小岩ブロック      | 奥戸・新小岩・西新小岩・東新小岩  |
| 5 | 柴又・高砂ブロック       | 鎌倉・柴又・高砂・細田       |
| 6 | 金町・新宿ブロック       | 金町・東金町・新宿         |
| 7 | 水元ブロック          | 水元・西水元・東水元・南水元    |

(4) 居住地域 (28区分)

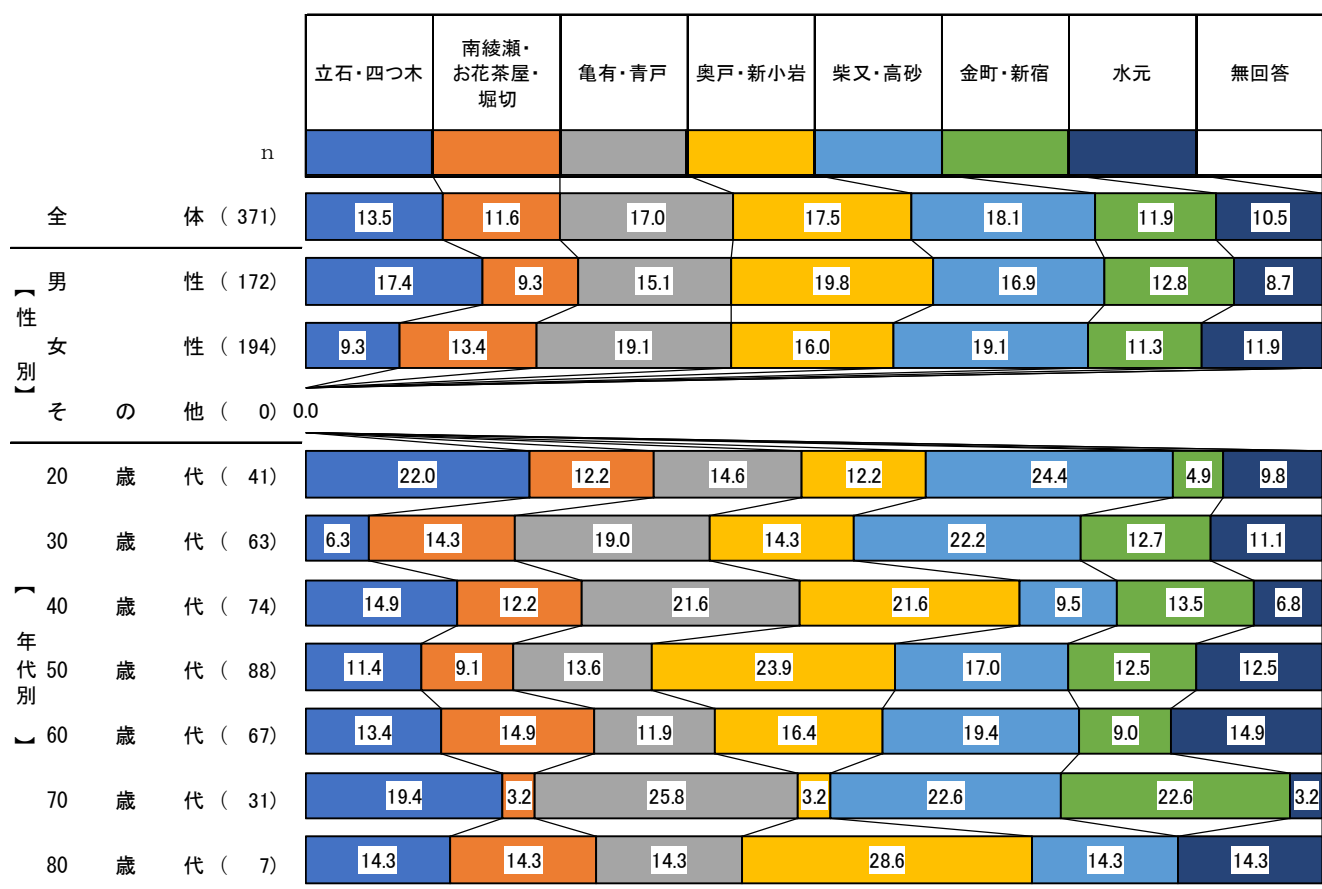


(5) 職業



(6) 居住地域別 (7 区分) × 性別・年代別

(%)



### Ⅲ 調査結果の詳細

#### 1. 里親制度について

親の離婚、疾病、虐待など様々な事情により自分の家庭を離れて暮らす子どもたちを公的に養育する仕組みが社会的養護であり、そのうちのひとつが里親制度です。

「里親」は、子どもを自らの家庭に迎え入れて、共に生活し、養育する方のことです。里親制度は必ずしも養子縁組を前提としたものだけではありません。

本区での児童相談所開設以降、里親制度がどの程度認知されているのか確認し、里親制度を更に推進していくために区民モニターの皆様のご意見を伺います。

# 子どもたちに、里親家庭という選択肢を。

いっしょだから できること かつしかで



## 葛飾区の里親制度普及活動について

葛飾区では、令和5年10月に児童相談所を開設しました。  
区内で里親制度を広く普及するため、様々な活動を行っています。

### チラシ・ポスター📄

葛飾区在住のイラストレーターの方にデザインしていただき、里親制度のチラシとポスターを作成しました。

区内の公共施設のほか、小中学校、幼稚園・保育所の全児童や、関係する機関などに配布しています。

### オリジナルグッズ✎

クリアファイル、ボールペン、マーカー、ふせん、トートバッグなどを作成し、区内のイベントなどで配布しています。

グッズに使用しているロゴマークは、青色と緑色で葛飾区の「水と緑豊かなまち」を表し、そのような環境で里親子が伸び伸びと育っていけるよう願いを込めています。

### 里親制度説明会💬

里親制度に関心のある方を対象に、毎月、制度説明会を実施しています。

令和5年度は36家庭、令和6年度は29家庭の参加がありました。

説明会への参加後、面接、研修受講、家庭訪問、調査などを経て、里親として登録されます。令和5年度は**2家庭**、令和6年度は**3家庭**の里親登録がありました。(令和7年2月末時点)

### 里親体験発表会👨👩

10・11月の里親月間に合わせて毎年実施しています。実際にお子さんを養育している里親さんから、里親ならではの体験を聞くことができる貴重な機会です。

令和6年度は、発表会以外にも、拡大里親制度説明会や映画上映イベントなどに里親さんをお呼びして、お話を伺う機会を多く設けました。

里親制度の詳細やイベント情報などは、ホームページをご覧ください。  
葛飾区職員出前講座でも、里親制度の講座を実施しています。  
葛飾区児童相談所（5698-0303）までお気軽にお問い合わせください。



区ホームページ

## （１）子どもたちの生活の場を知っているか

問１ 様々な理由から自分の家庭を離れて暮らす子どもたちの生活の場として、次のうち知っているものは何ですか。（あてはまるものを全て選択）

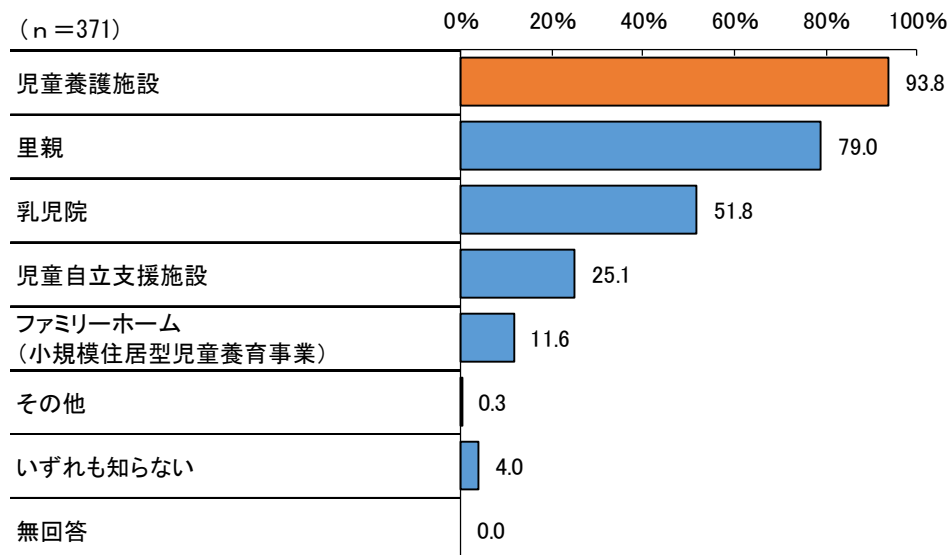
子どもたちの生活の場を知っているかについては、「児童養護施設」が 93.8%で最も高く、次いで「里親」が 79.0%、「乳児院」が 51.8%となっている。

性別でみると、「乳児院」は、女性が 60.8%で、男性の 40.1%より高くなっている。

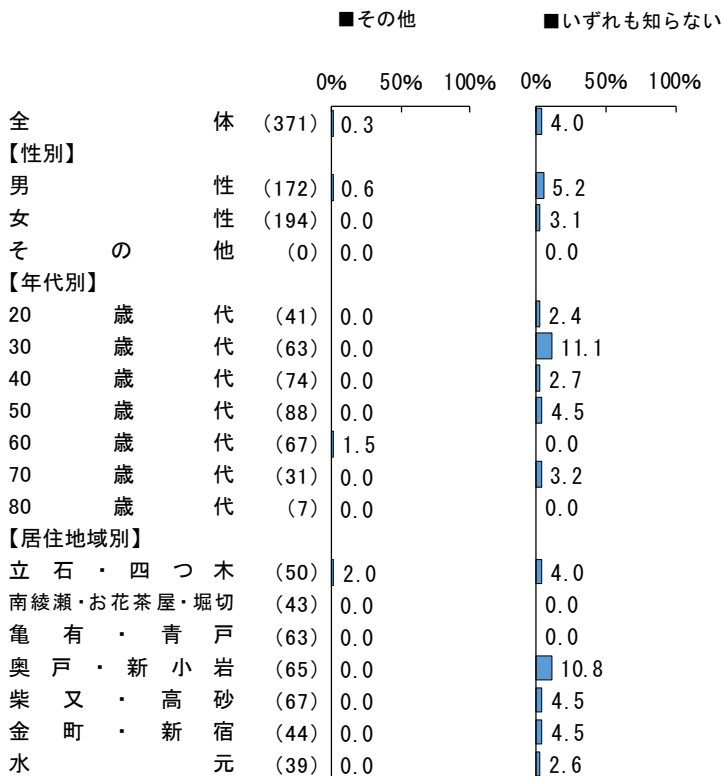
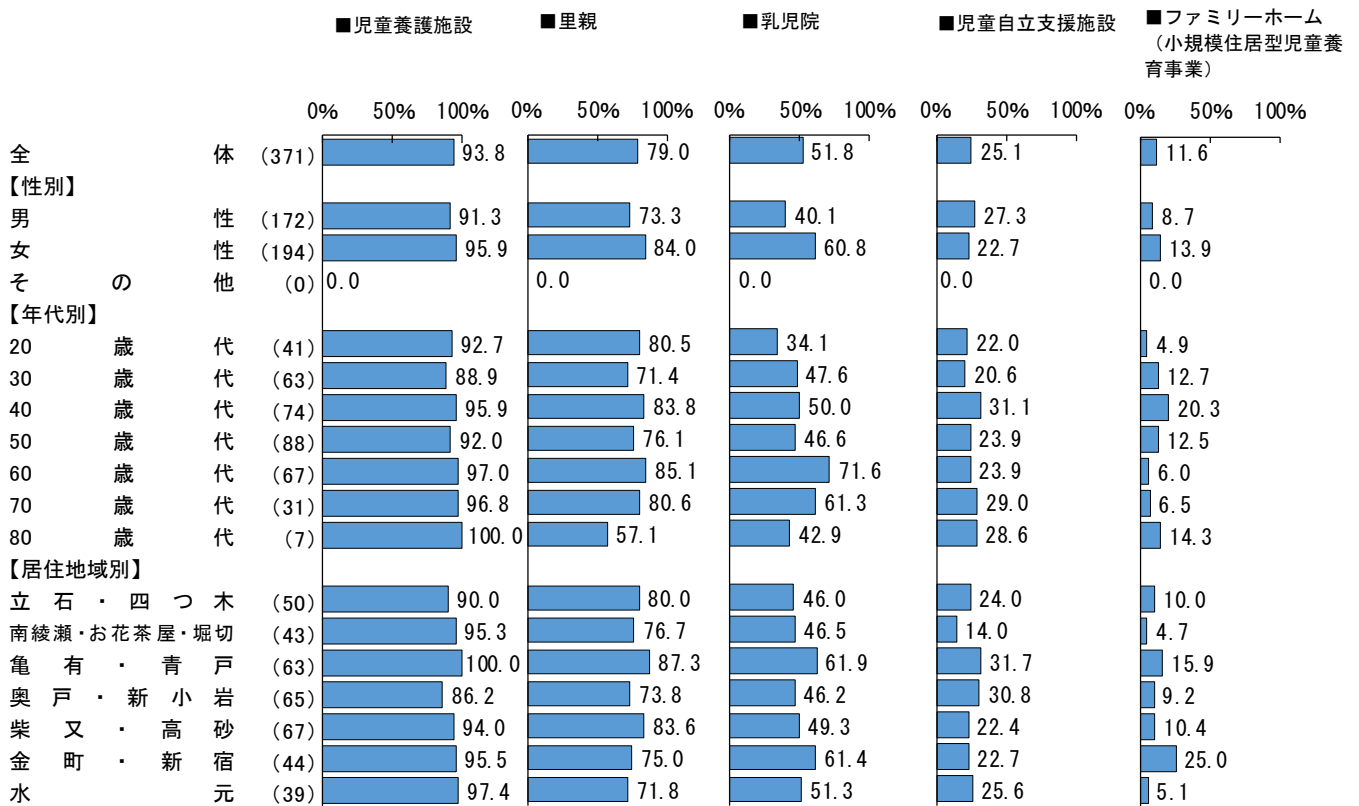
年代別でみると、「児童養護施設」は、30 歳代を除くすべての年代で 90%以上となっている。また、「乳児院」は、60 歳代と 70 歳代で 6 割以上と高くなっている。

居住地域別でみると、「児童養護施設」は、亀有・青戸で 100.0%となっており、ほかの居住地でも 8 割以上となっている。

図表－１ 子どもたちの生活の場を知っているか（全体）



図表－２ 子どもたちの生活の場を知っているか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## （２）里親制度の認知度

### 問２ 里親制度を知っていますか。（１つ選択）

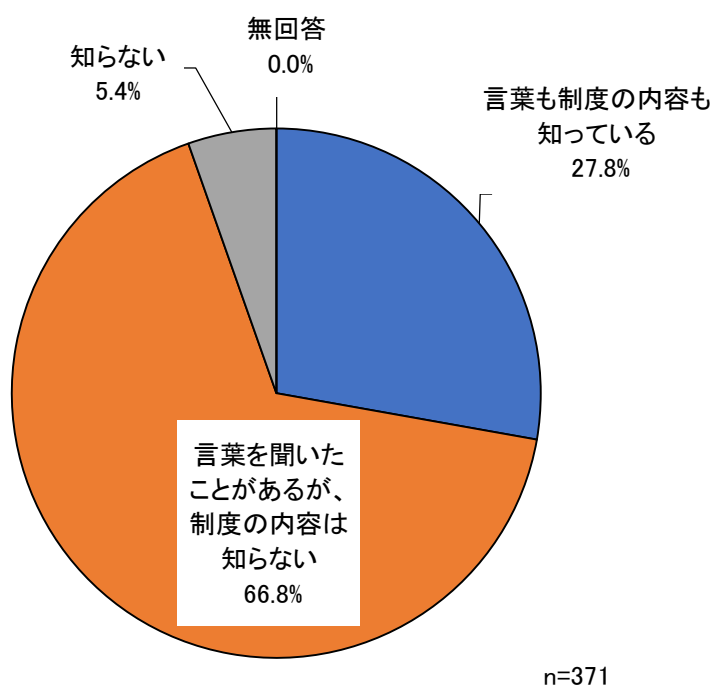
里親制度の認知度については、「言葉を聞いたことがあるが、制度の内容は知らない」が 66.8% で最も高く、次いで「言葉も制度の内容も知っている」が 27.8%、「知らない」が 5.4%となっている。

性別でみると、「言葉も制度の内容も知っている」は、女性が 32.0%で、男性の 23.3%より高くなっている。

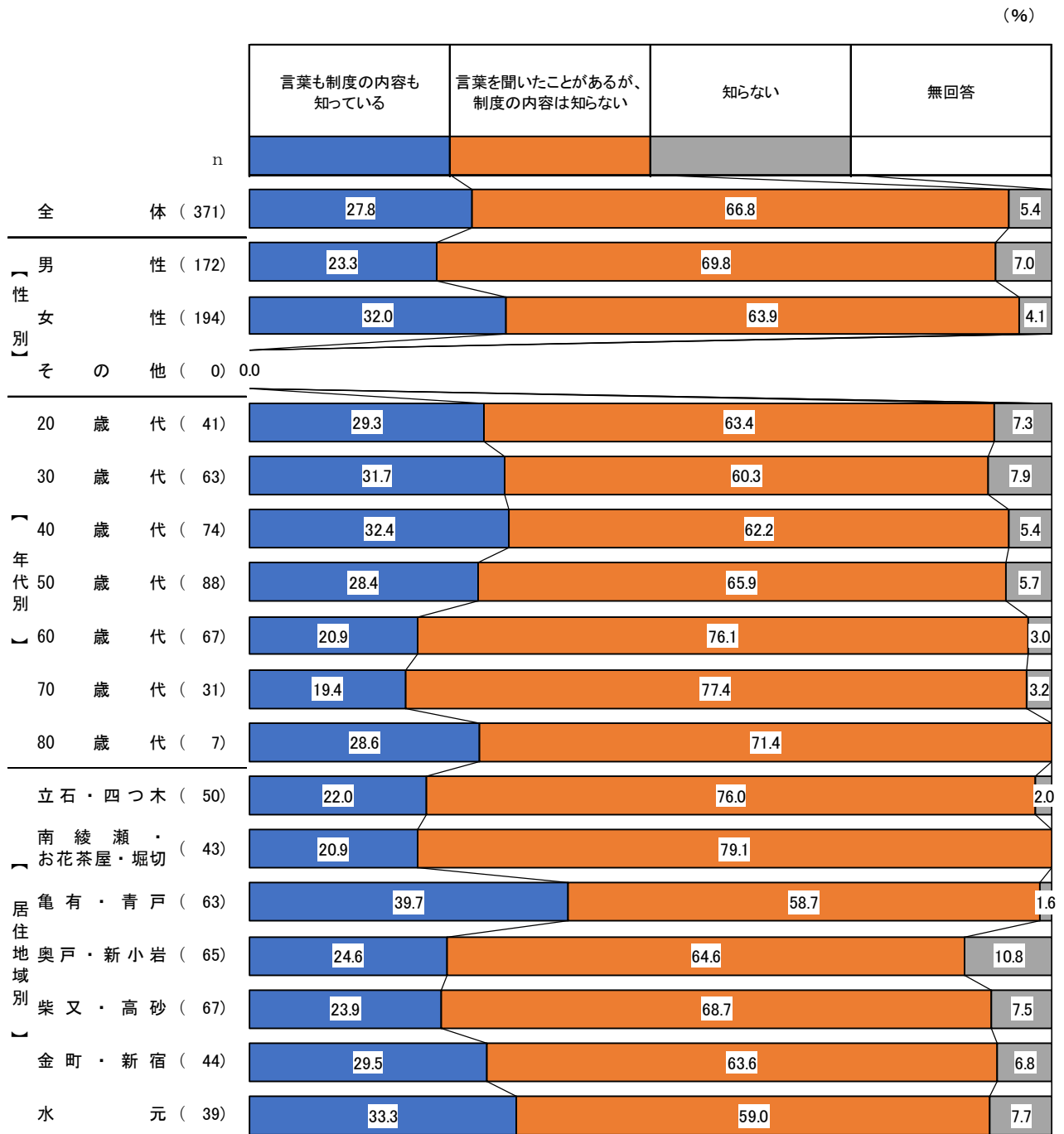
年代別でみると、「言葉も制度の内容も知っている」は、30 歳代と 40 歳代が 3 割以上と高くなっている。また、「言葉を聞いたことがあるが、制度の内容は知らない」は、60 歳代から 80 歳代で 7 割以上と高くなっている。

居住地域別でみると、「言葉も制度の内容も知っている」は、亀有・青戸が 39.7%で最も高くなっている。一方で、「知らない」は、奥戸・新小岩が 10.8%で最も高くなっている。

図表－３ 里親制度の認知度（全体）



図表－４ 里親制度の認知度  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (3) 里親制度をどのように知ったか

問3 問2で選択肢1「言葉も制度の内容も知っている」と答えた方に伺います。里親制度をどのように知りましたか。(あてはまるものを全て選択)

里親制度をどのように知ったかについては、「テレビやラジオ」が60.2%で最も高く、次いで「新聞や雑誌」が31.1%となっている。

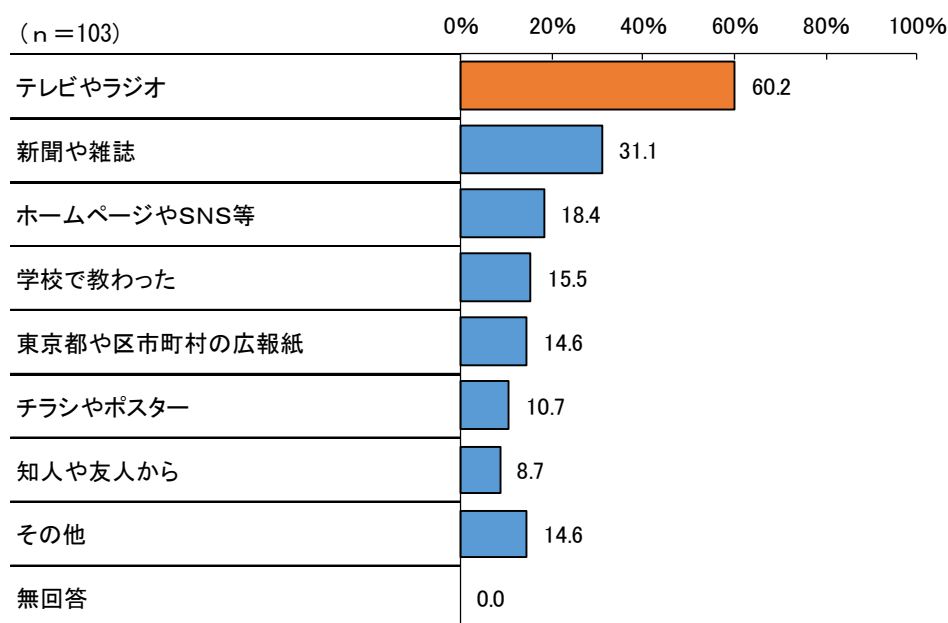
性別でみると、「テレビやラジオ」は、男性が60.0%、女性が59.7%でほとんど差がみられない。一方、「東京都や市区町村の広報紙」では、女性が17.7%、男性が7.5%で女性が高くなっている。

年代別でみると、「テレビやラジオ」は、80歳代が100%で最も高くなっており、次いで60歳代が78.6%となっている。また、「学校で教わった」は、20歳代から50歳代のみが選択しており、30歳代が30.0%と最も高くなっている。

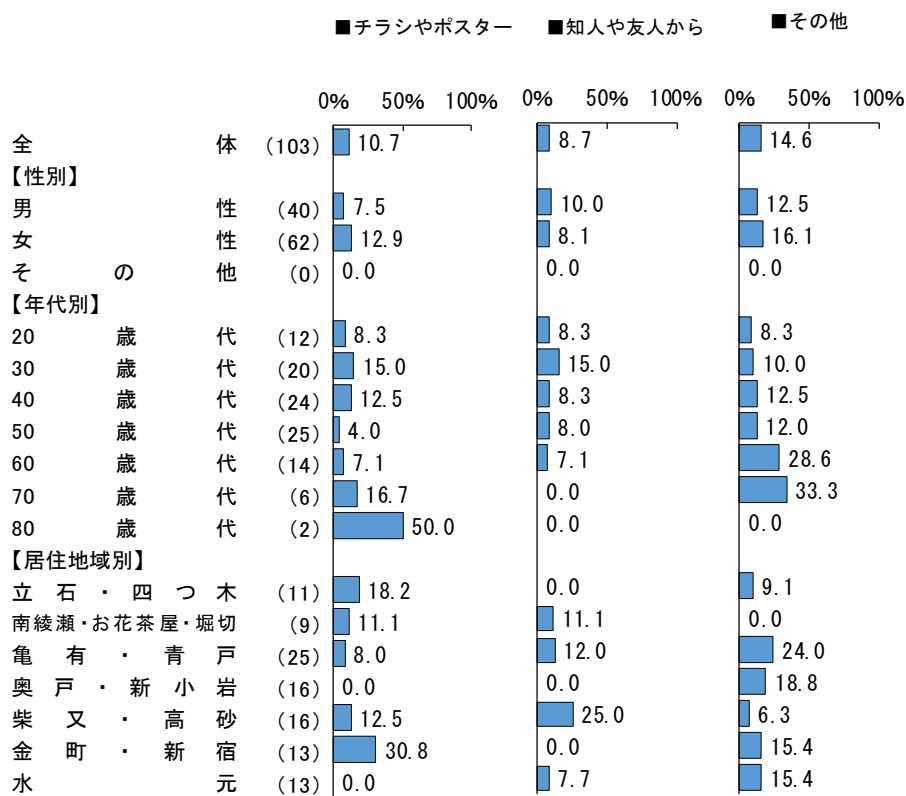
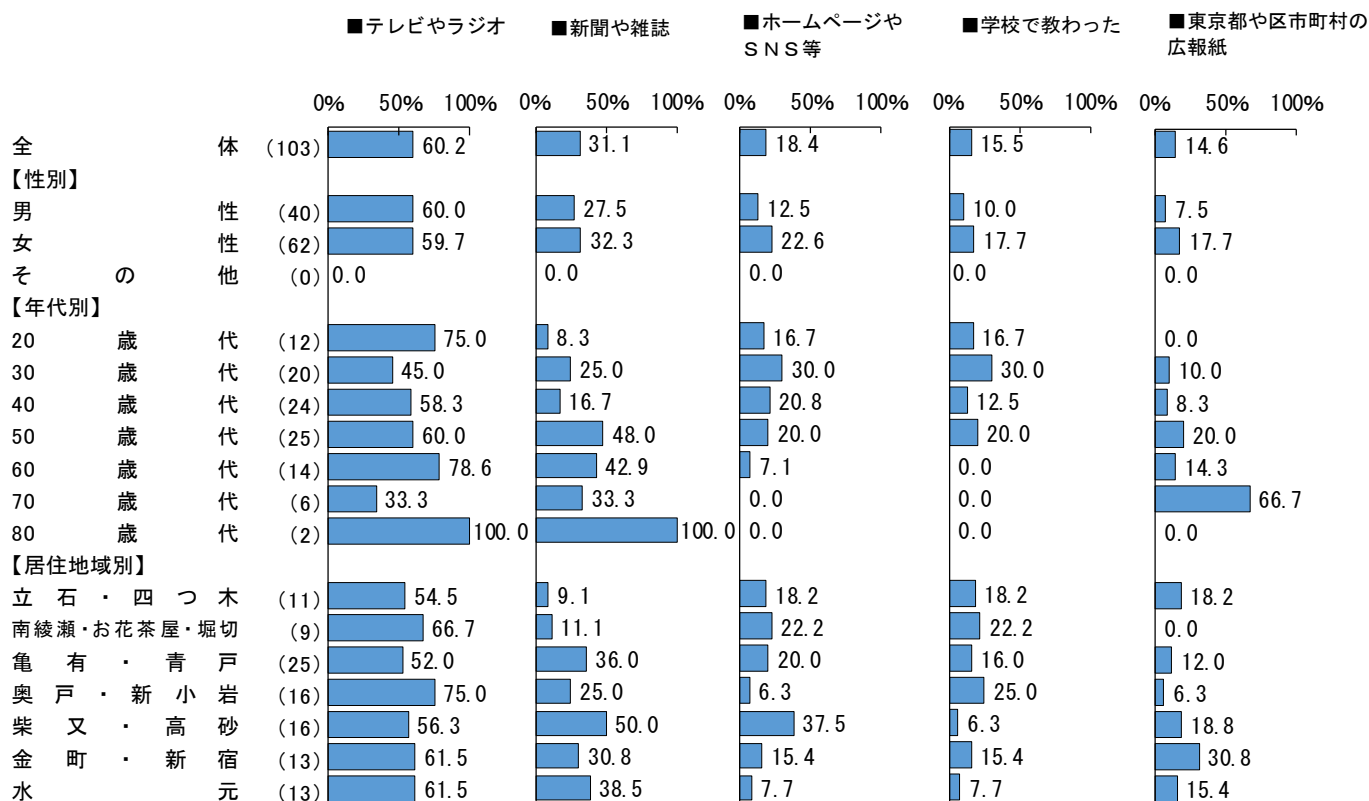
居住地域別でみると、「テレビやラジオ」は、奥戸・新小岩が75.0%で最も高く、その他の地域もすべて5割以上となっている。

「その他」の内容としては、「民生児童委員なので知っている」「社会福祉士の資格」「乳児院でのボランティア」などがあつた。

図表－5 里親制度をどのように知ったか（全体）



図表－６ 里親制度をどのように知ったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



#### (4) 里親制度の種類について

問4 里親にはいろいろな種類があります。知っている種類はありますか。(あてはまるものを全て選択)

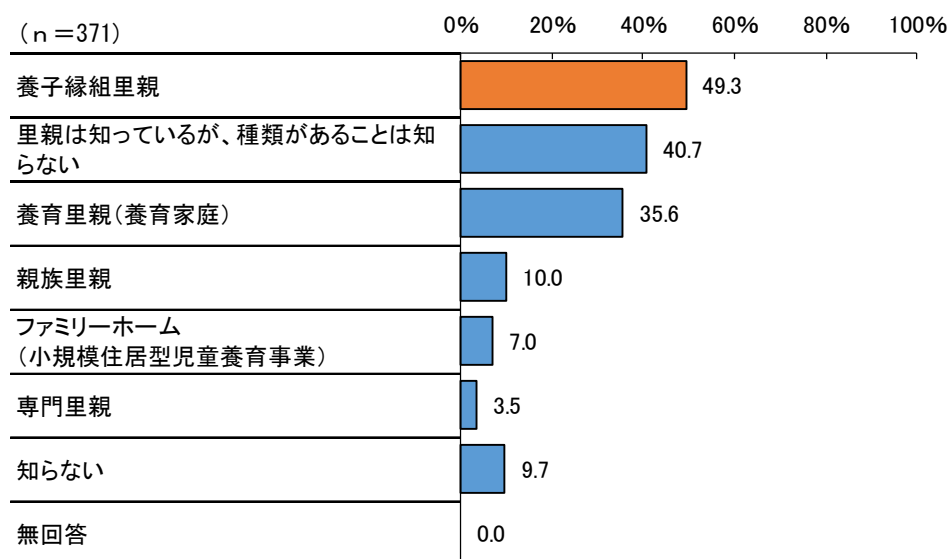
里親制度の種類については、「養子縁組里親」が49.3%で最も高く、次いで「里親は知っているが、種類があることは知らない」が40.7%、「養育里親（養育家庭）」が35.6%となっている。

性別でみると、「養子縁組里親」は、女性が50.5%、男性が47.7%で女性が高くなっている。

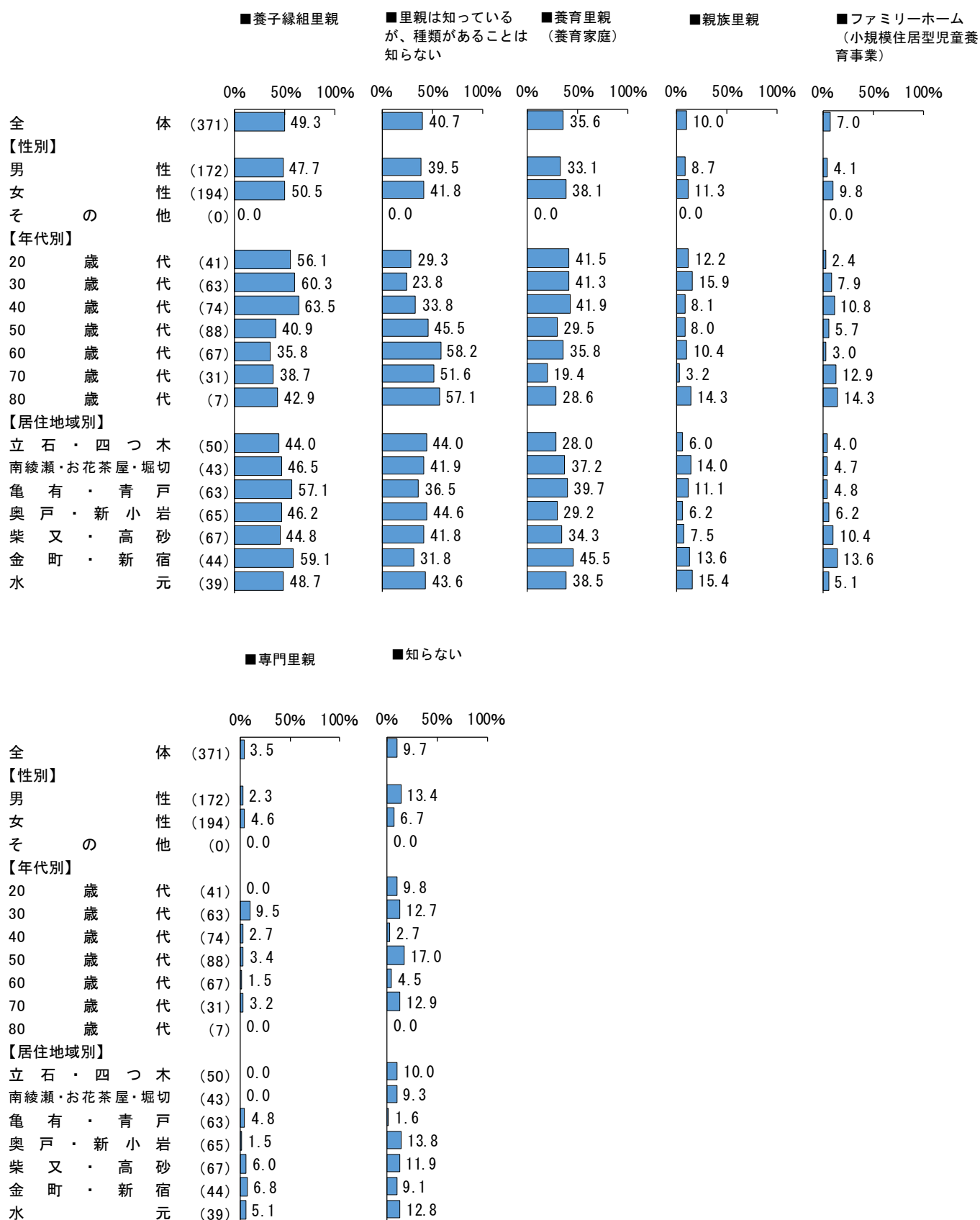
年代別でみると、「里親は知っているが、種類があることは知らない」は、60歳代以上で5割以上となっており、世代が若いほうが里親の種類を把握している傾向がうかがえる。

居住地域別でみると、「養子縁組里親」は、金町・新宿が59.1%で最も高く、次いで亀有・青戸が57.1%となっている。

図表－7 里親制度の種類について（全体）



図表－８ 里親制度の種類について  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## （５）里親になれる世帯について

問５ 様々な世帯の方が里親として活躍しています。次の世帯はいずれも里親になることができますが、里親になれることを知っていた世帯を回答してください。（あてはまるものを全て選択）

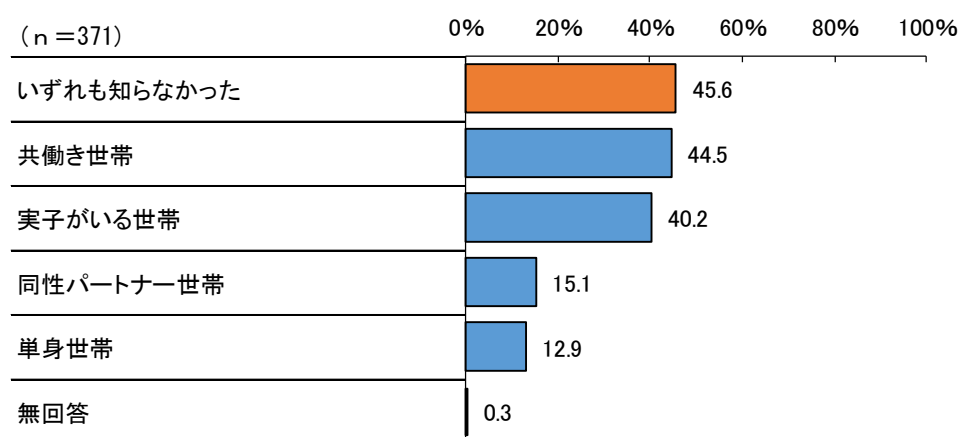
里親になれる世帯については、「いずれも知らなかった」が 45.6%で最も高く、次いで「共働き世帯」が 44.5%、「実子がいる世帯」が 40.2%となっている。

性別でみると、「いずれも知らなかった」は、男性が 50.6%、女性が 41.8%で男性のほうが高くなっている。その他の選択肢においても、男性より女性の方が里親になれる世帯について知っている人の割合が高かった。

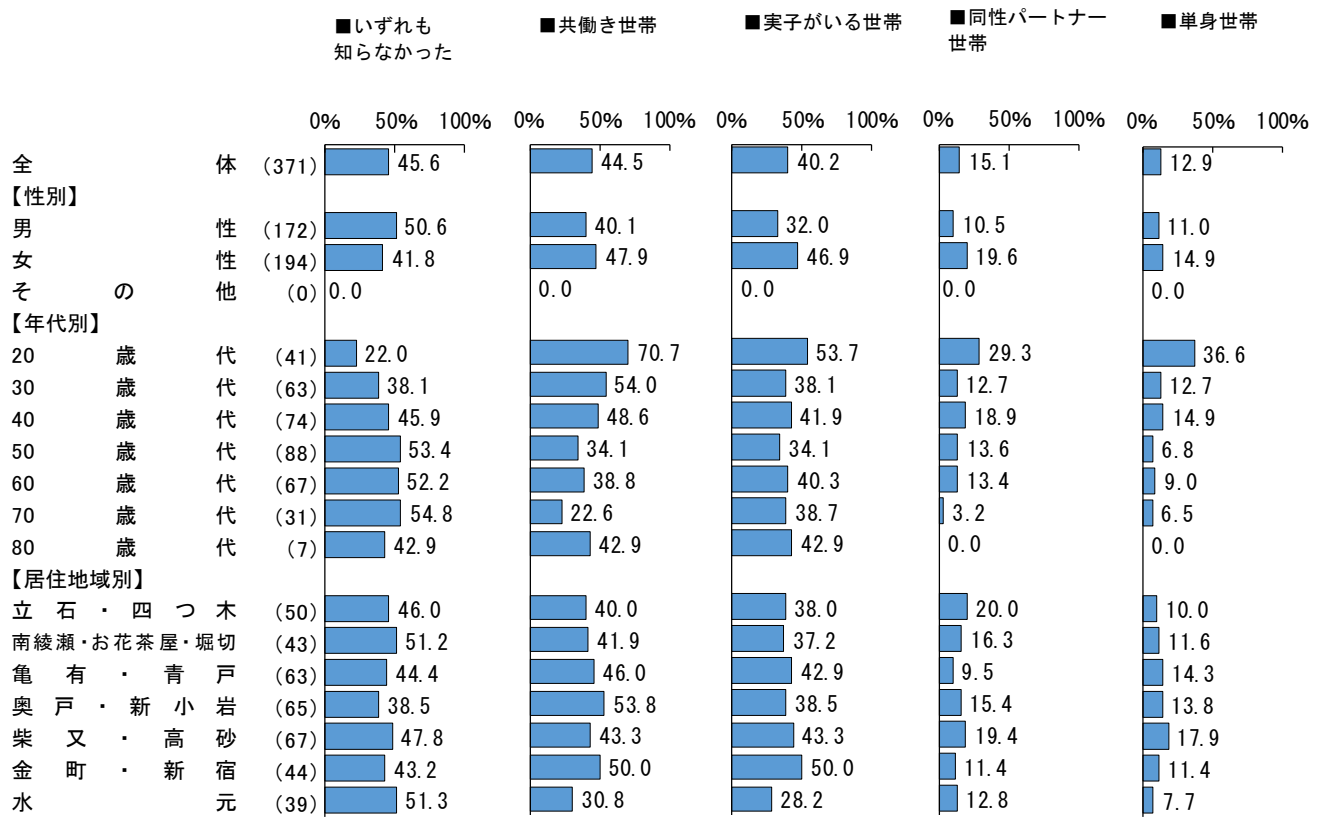
年代別でみると、「共働き世帯」は、20 歳代で 7 割以上と最も高くなっており、一方、70 歳代では 22.6%で最も低くなっている。

居住地域別でみると、「いずれも知らなかった」は、水元が 51.3%で最も高く、奥戸・新小岩が 38.5%で最も低くなっている。

図表－９ 里親になれる世帯について（全体）



図表－10 里親になれる世帯について  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## （６）里親に対するサポート

問６ 里親に対しては養育する上で様々な支援制度（サポート）があります。どのような内容を知っていますか。（あてはまるものを全て選択）

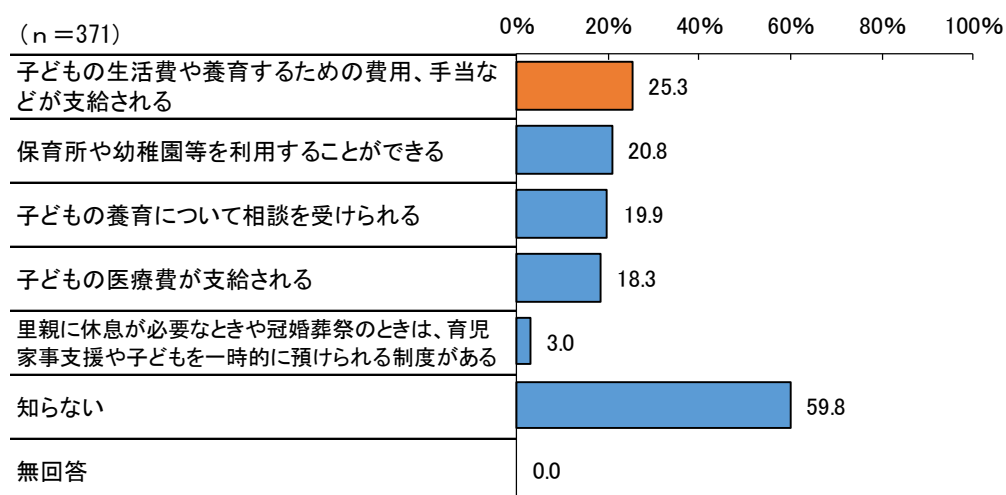
里親に対するサポートについては、「知らない」が 59.8%で最も高く、次いで「子どもの生活費や養育するための費用、手当などが支給される」が 25.3%となっている。

性別でみると、「知らない」は、男性が 62.2%、女性が 57.7%と男性が高くなっている。

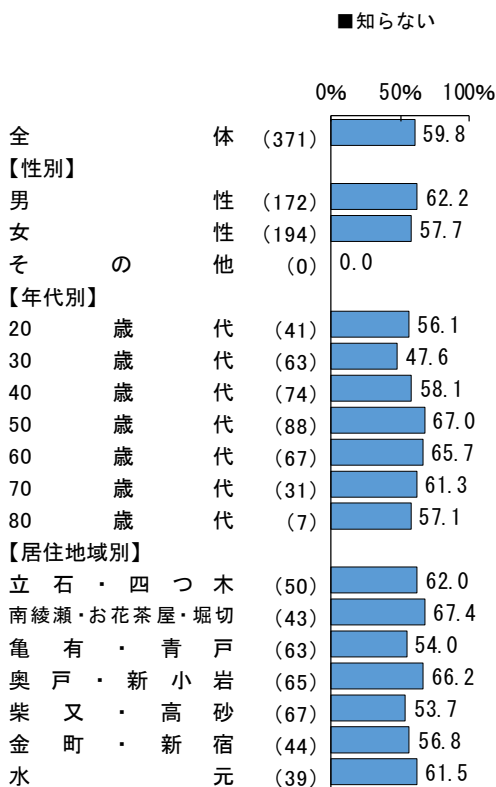
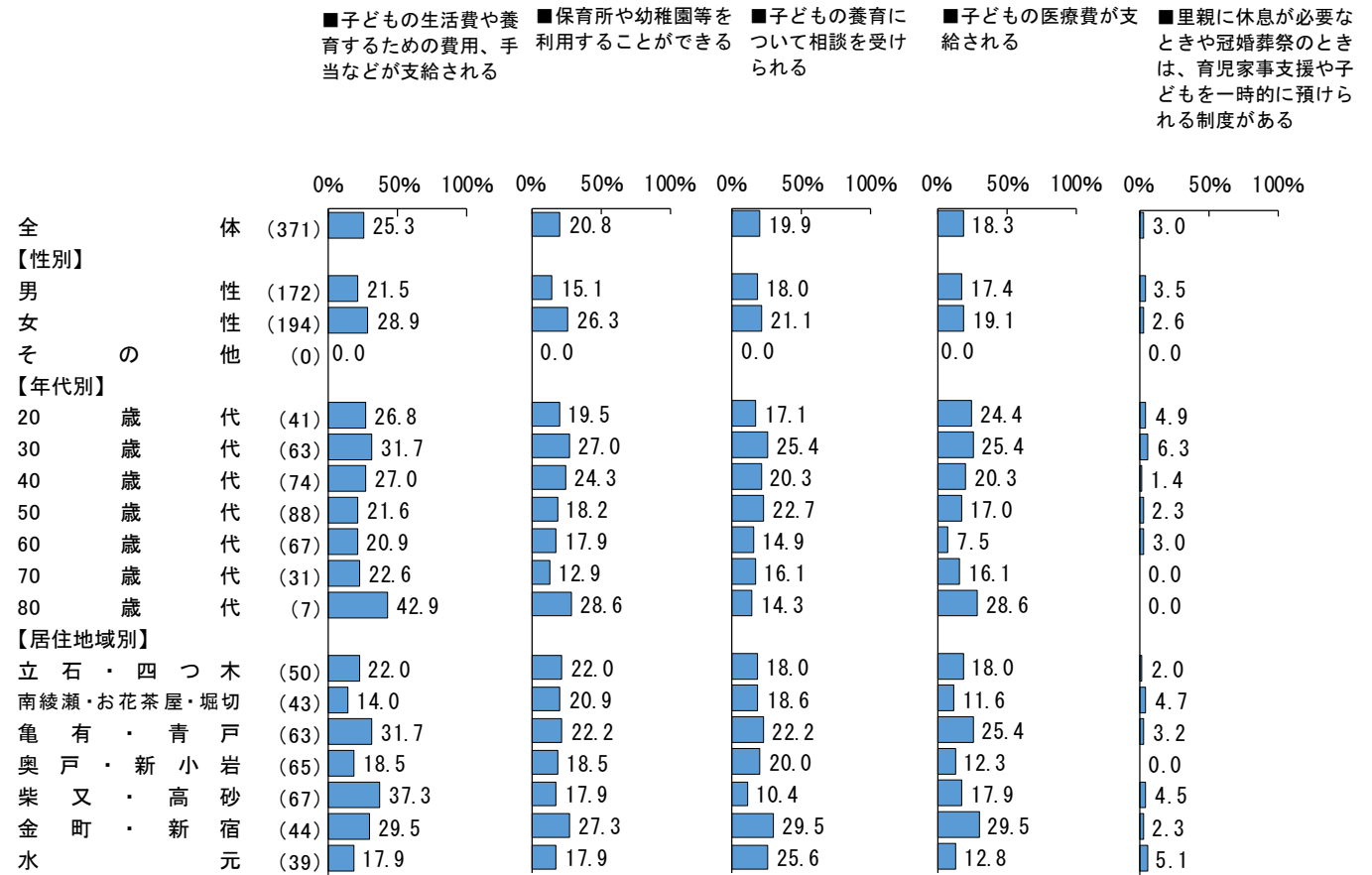
年代別でみると、「知らない」は、50 歳代が 67.0%で最も高く、次いで 60 歳代が 65.7%となっている。

居住地域別でみると、「知らない」は南綾瀬・お花茶屋・堀切が 67.4%で最も高く、その他の地域もすべて 50%以上となっている。

図表－11 里親に対するサポート（全体）



図表－12 里親に対するサポート  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (7) 里親になってみたいか

### 問7 あなたは里親になってみたい気持ちがありますか。(1つ選択)

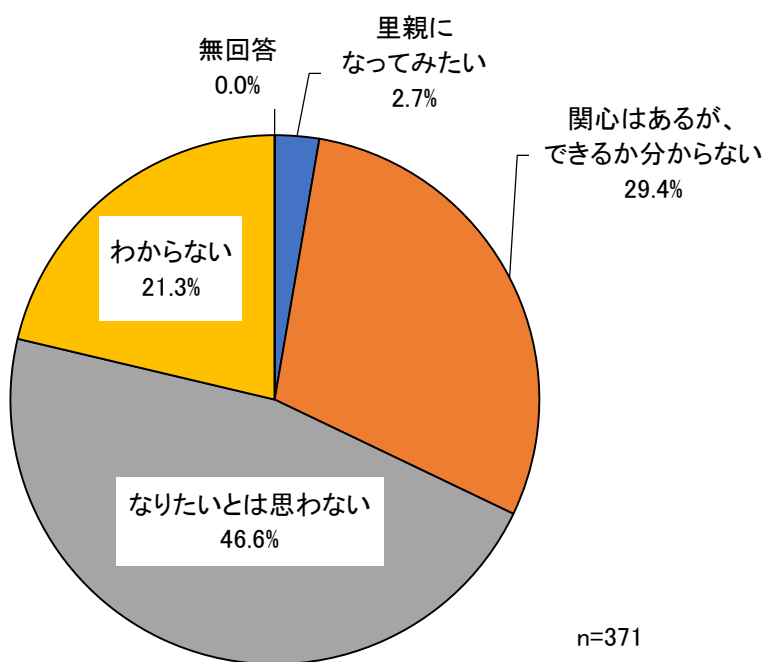
里親になってみたいかについては、「なりたいとは思わない」が46.6%で最も高く、次いで「関心はあるが、できるかわからない」が29.4%、「わからない」が21.3%となっている。

性別でみると、「なりたいとは思わない」は、男性が46.5%、女性が46.4%でほとんど差がみられない。

年代別でみると、「なりたいとは思わない」は、60歳代が58.2%で最も高く、一方で20歳代が39.0%で最も低くなっている。また、若い世代ほど里親への関心が高く、高齢世代のほうが里親になりたいと思わない人の割合が高くなっている。

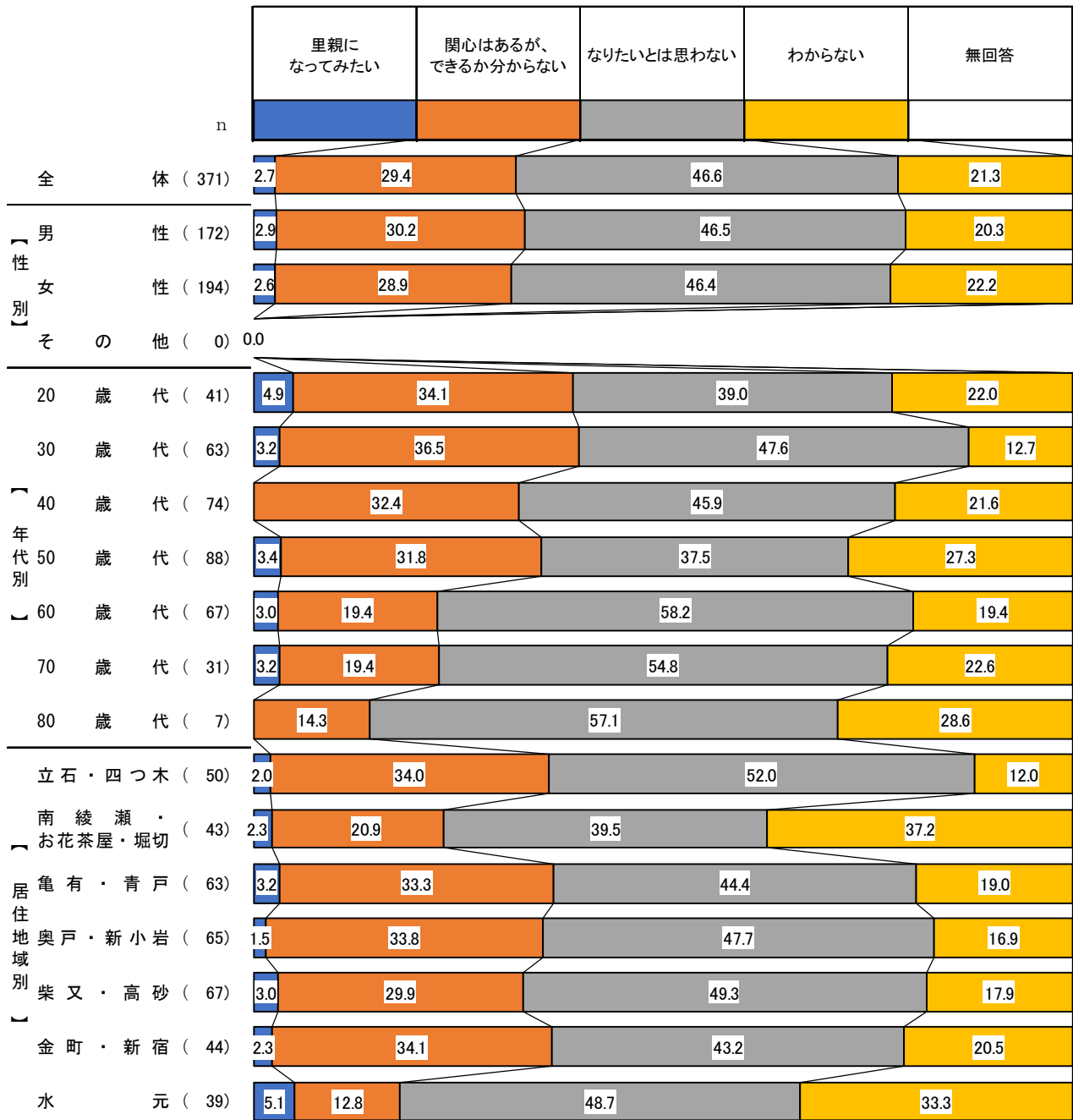
居住地域別でみると、「なりたいとは思わない」は、立石・四つ木が52.0%で最も高く、次いで柴又・高砂が49.3%、水元が48.7%となっている。

図表-13 里親になってみたいか（全体）



図表－14 里親になってみたいか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



## （８）里親になってみたい理由

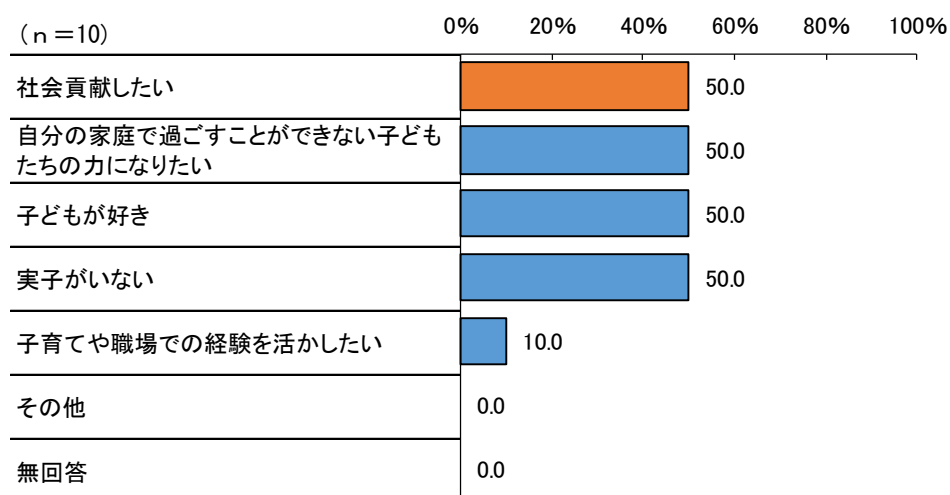
問 8 問 7 で選択肢 1 「里親になってみたい」と答えた方に伺います。あなたが里親になってみたい理由は何ですか。（あてはまるものを全て選択）

里親になってみたい理由については、「社会貢献したい」「自分の家庭で過ごすことができない子どもたちの力になりたい」「子どもが好き」「実子がない」がそれぞれ 50.0%となっている。次いで「子育てや職場での経験を活かしたい」が 10.0%となっている。

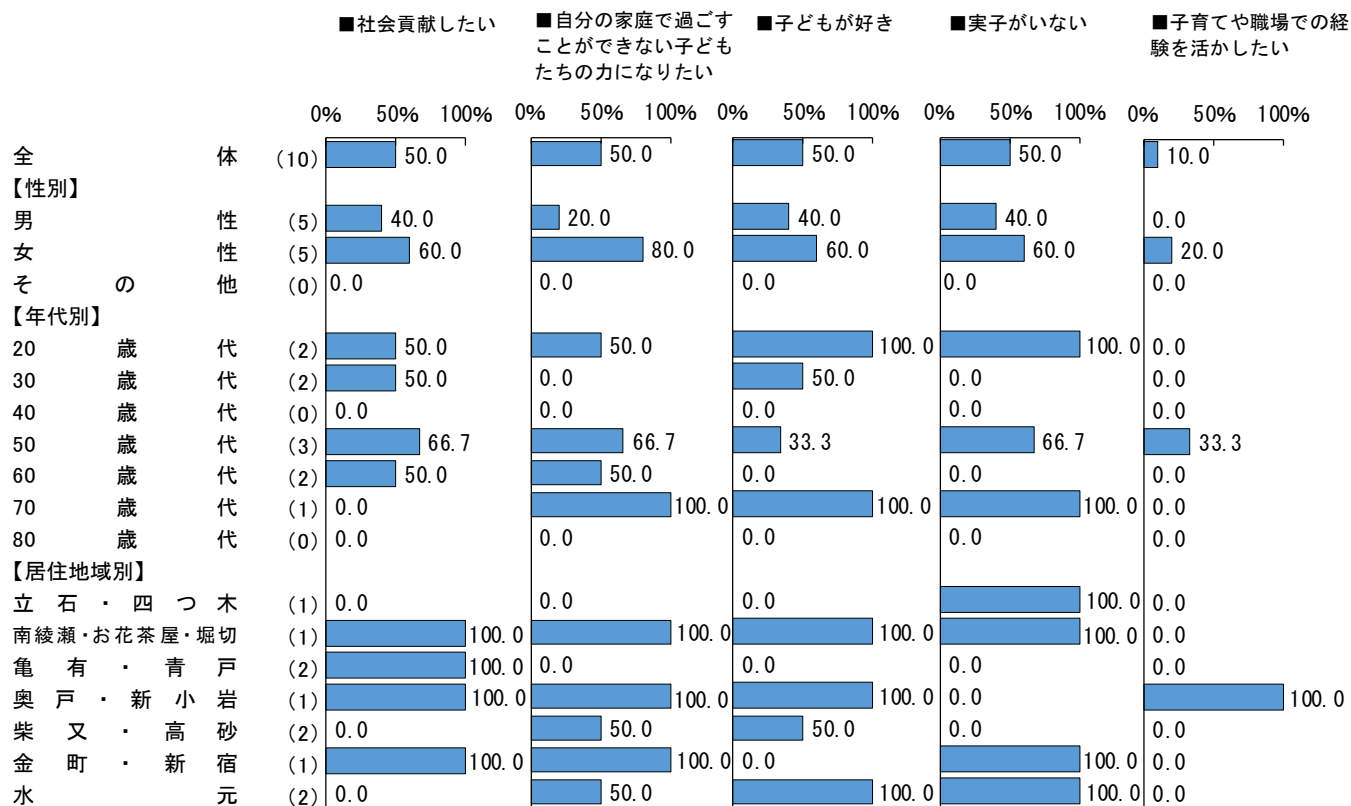
性別でみると、「社会貢献したい」は、女性が 60.0%、男性が 40.0%で女性が男性を上回っている。その他の選択肢においても男性より女性の方が里親になってみたい人の割合が高い。

年代別でみると、「社会貢献したい」は、50 歳代が、66.7%、次いで 20 歳代、30 歳代、60 歳代で 50.0%となっている。

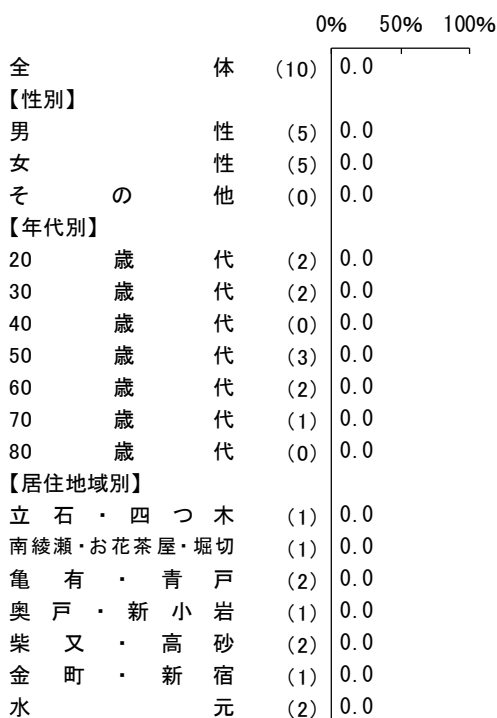
図表－15 里親になってみたい理由（全体）



図表-16 里親になってみたい理由  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



■その他



## （９）どのようなサポートが必要か

問 9 問 7 で選択肢 2 「関心はあるが、できるか分からない」と答えた方に伺います。どのようなサポート等があれば安心してできると思いますか。（あてはまるものを全て選択）

どのようなサポートが必要かについては、「金銭的サポート」が 72.5% で最も高く、次いで「心理的サポート」が 60.6%、「パートナーの理解」が 45.0% となっている。

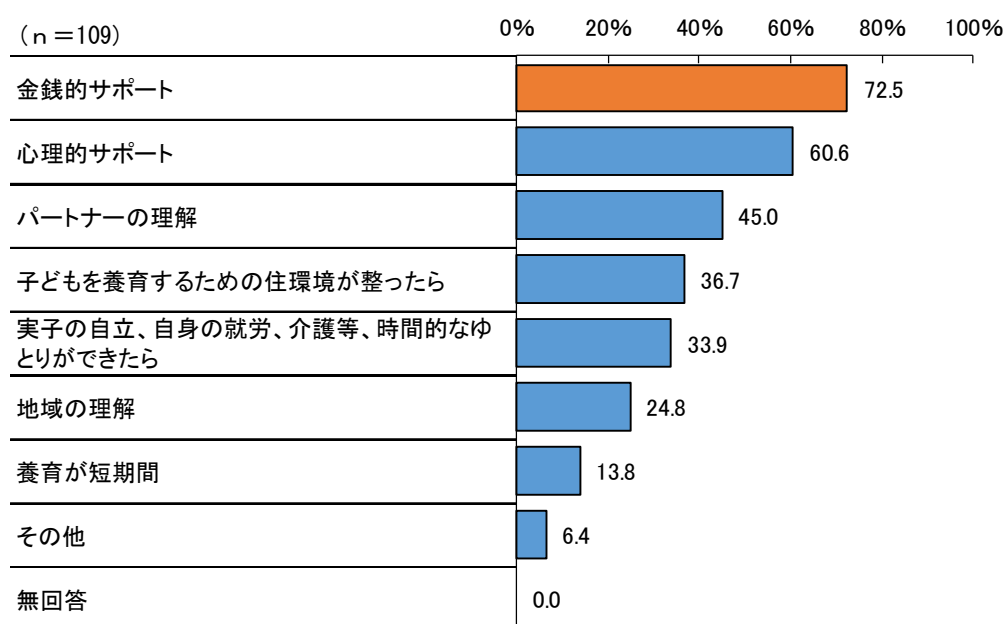
性別でみると、「金銭的サポート」は、女性が 75.0%、男性が 71.2% で、女性が男性よりわずかに高くなっている。

年代別でみると、「実子の自立、自身の就労、介護等、時間的なゆとりができたなら」は、40 歳代で 50% と最も高い一方、その他の代では 4 割以下となっている。

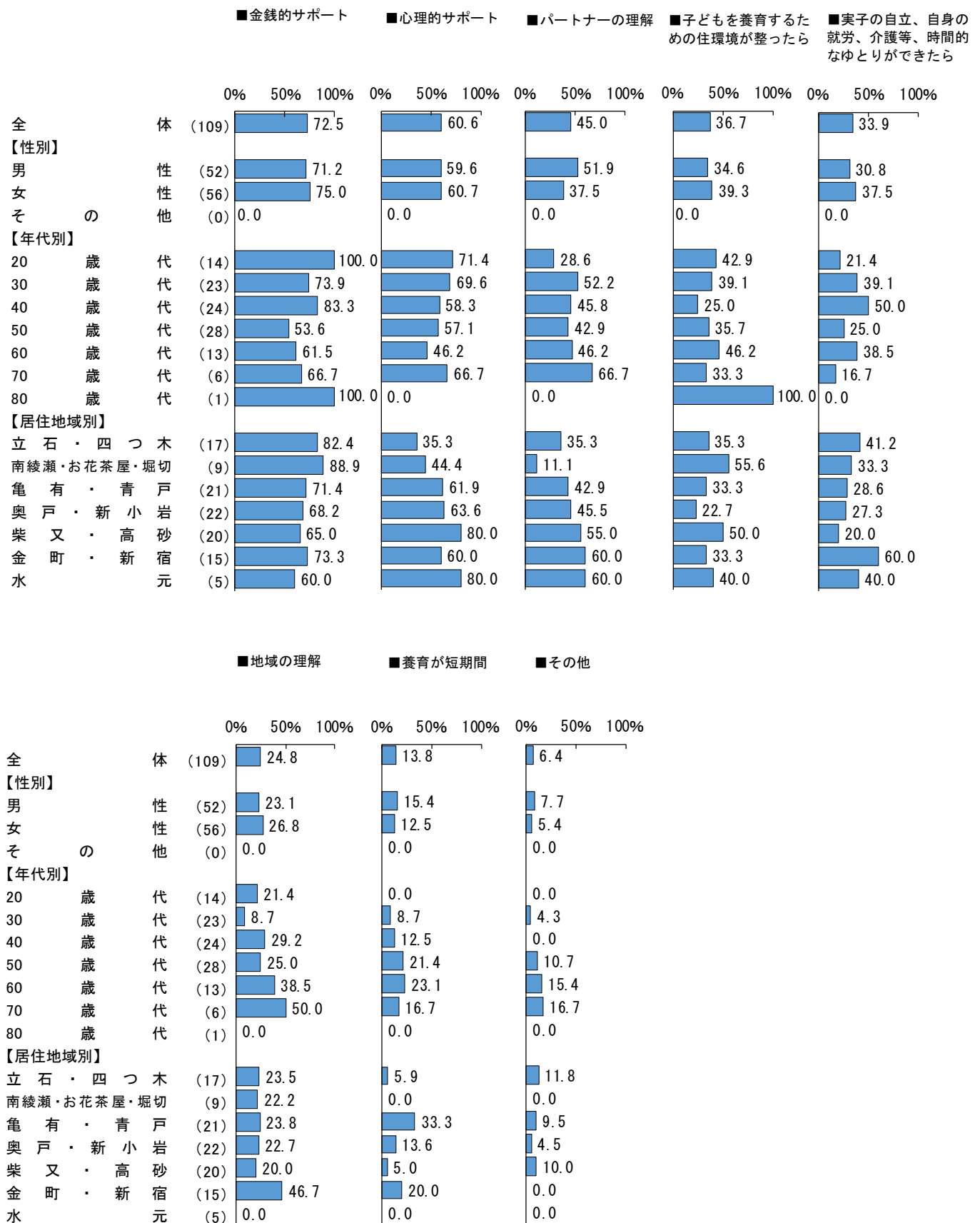
居住地域別でみると、「金銭的サポート」は、南綾瀬・お花茶屋・堀切が 88.9% で最も高く、全ての地域で 6 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「里子の本心が分からず、良好な関係が継続できるかが不安」、「育児経験がないので不安」、「自身の健康状態」などがあった。

図表－17 どのようなサポートが必要か（全体）



図表-18 どのようなサポートが必要か  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (10) 里親になりたいと思わない理由

問 10 問 7 で選択肢 3 「なりたいたは思わない」、選択肢 4 「わからない」と答えた方に伺います。なぜそう思われましたか。(あてはまるものを全て選択)

里親になりたいと思わない理由については、「経済的に余裕がない」が 44.8%で最も高く、次いで「育てる自信がない」が 42.5%、「時間的に余裕がない」が 35.7%となっている。

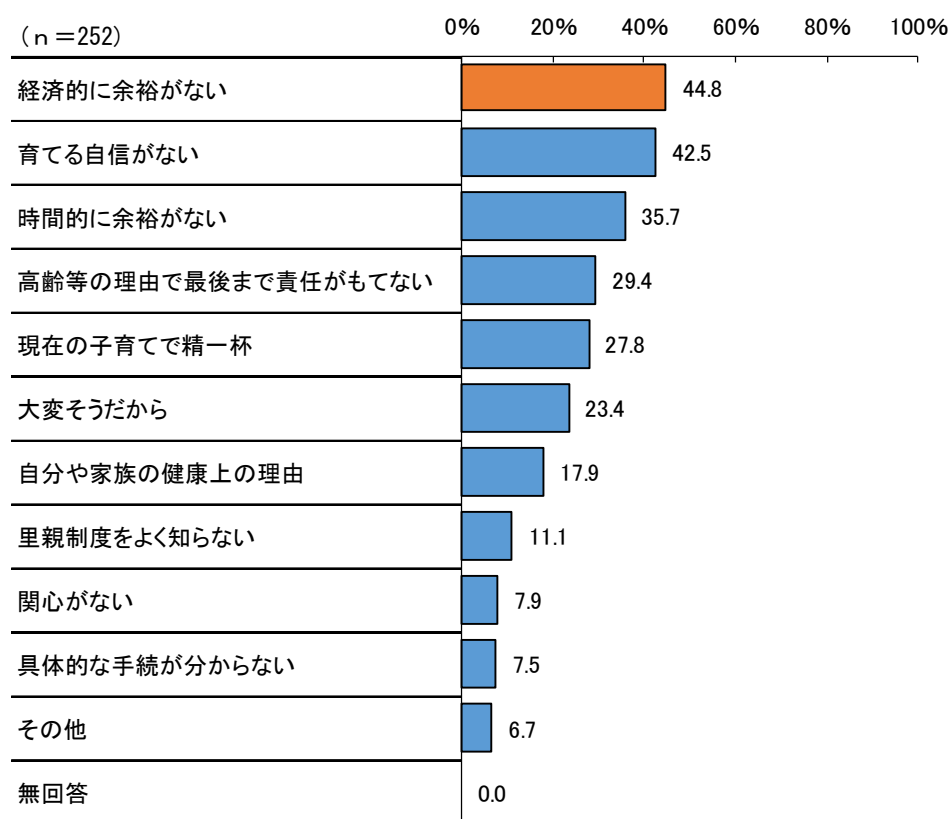
性別でみると、「経済的に余裕がない」は、女性が 48.9%、男性が 39.1%で女性が高くなっている。

年代別でみると、「現在の子育てで精一杯」は、40 歳代が 64.0%で最も高く、次いで 30 歳代が 52.6%となっている。一方で 20 歳代、60 歳代、70 歳代、80 歳代では 2 割以下となっており、現在の子育て世代の割合が高いことが分かる。

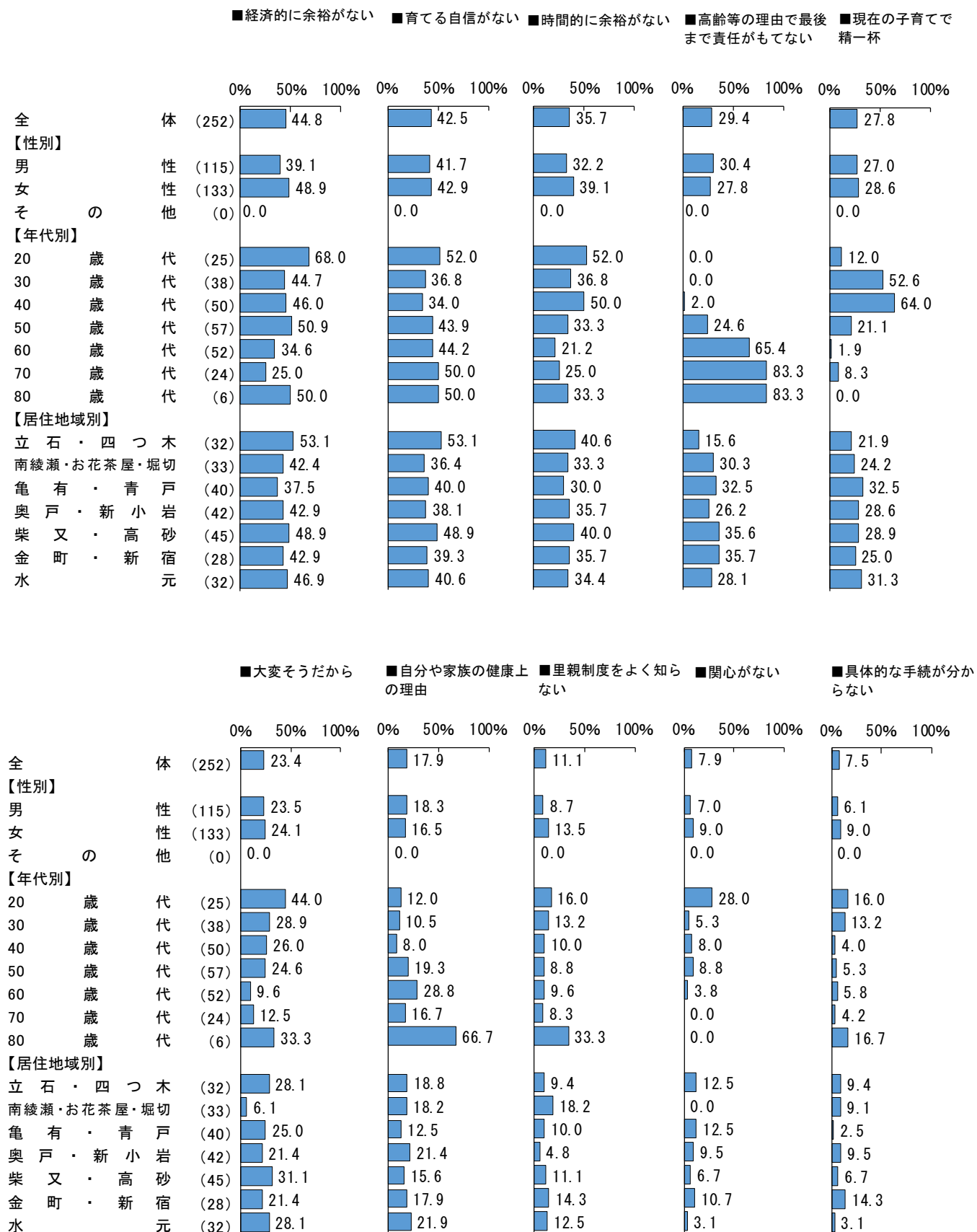
居住地域別でみると、「経済的に余裕がない」は、立石・四つ木が 53.1%で最も高くなっている。

「その他」の内容としては、「親を介護している為」「結婚もしておらず、考えたことがなかった。」「自分の子と同じように育てられるか不安」「まだ学生のため」などがあつた。

図表－19 里親になりたいと思わない理由（全体）



図表-20 里親になりたいと思わない理由  
(全体・性別・年代別・居住地域別—上位 10 項目)



## (11) 里親制度が普及しない理由

問 11 里親制度が広く普及していない理由はなぜだと思いますか。（あてはまるものを全て選択）

里親制度が普及しない理由については、「自分の家庭のことで精一杯で余裕のない人が多い」が 68.2%で最も高く、次いで「里親制度について、なじみがない」が 58.2%、「社会貢献の考えが社会的に定着していない」が 37.2%となっている。

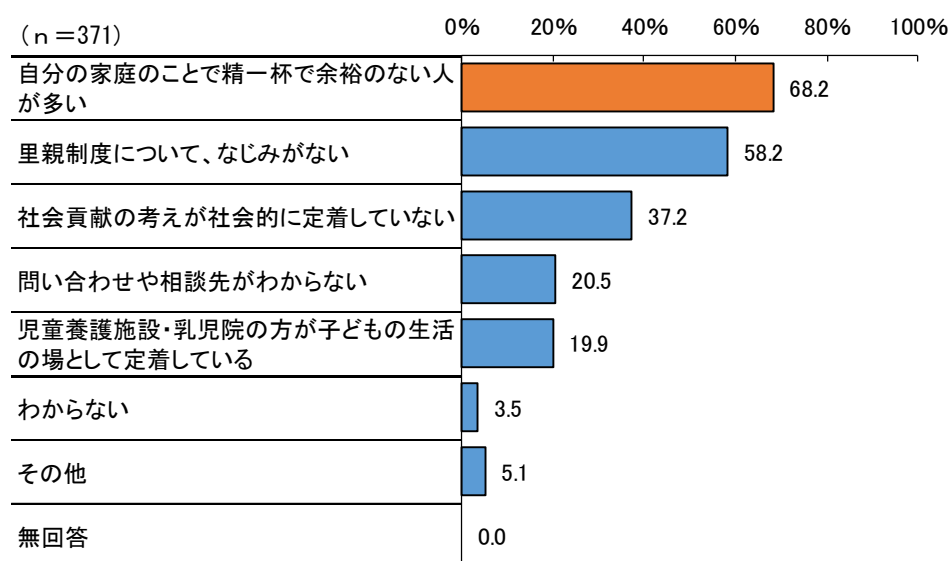
性別でみると、「自分の家庭のことで精一杯で余裕のない人が多い」は、男性が 70.3%、女性が 66.5%で男性が高くなっている。

年代別でみると、「自分の家庭のことで精一杯で余裕のない人が多い」は、全ての世代で 5 割以上ある。また、「問い合わせ先や相談先がわからない」は、20 歳代が 34.1%と最も高くなっている一方、他の年代は、2 割程度と低くなっている。

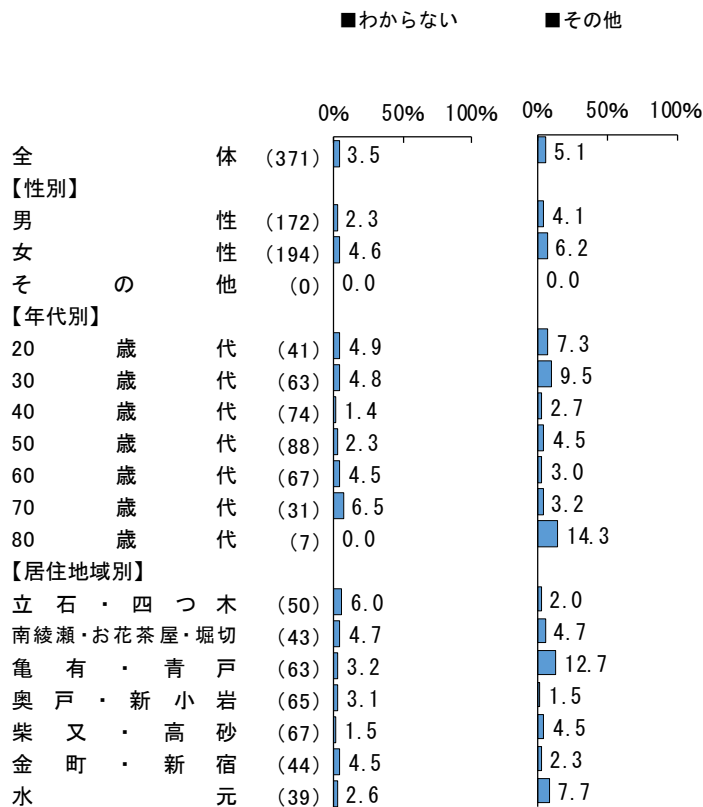
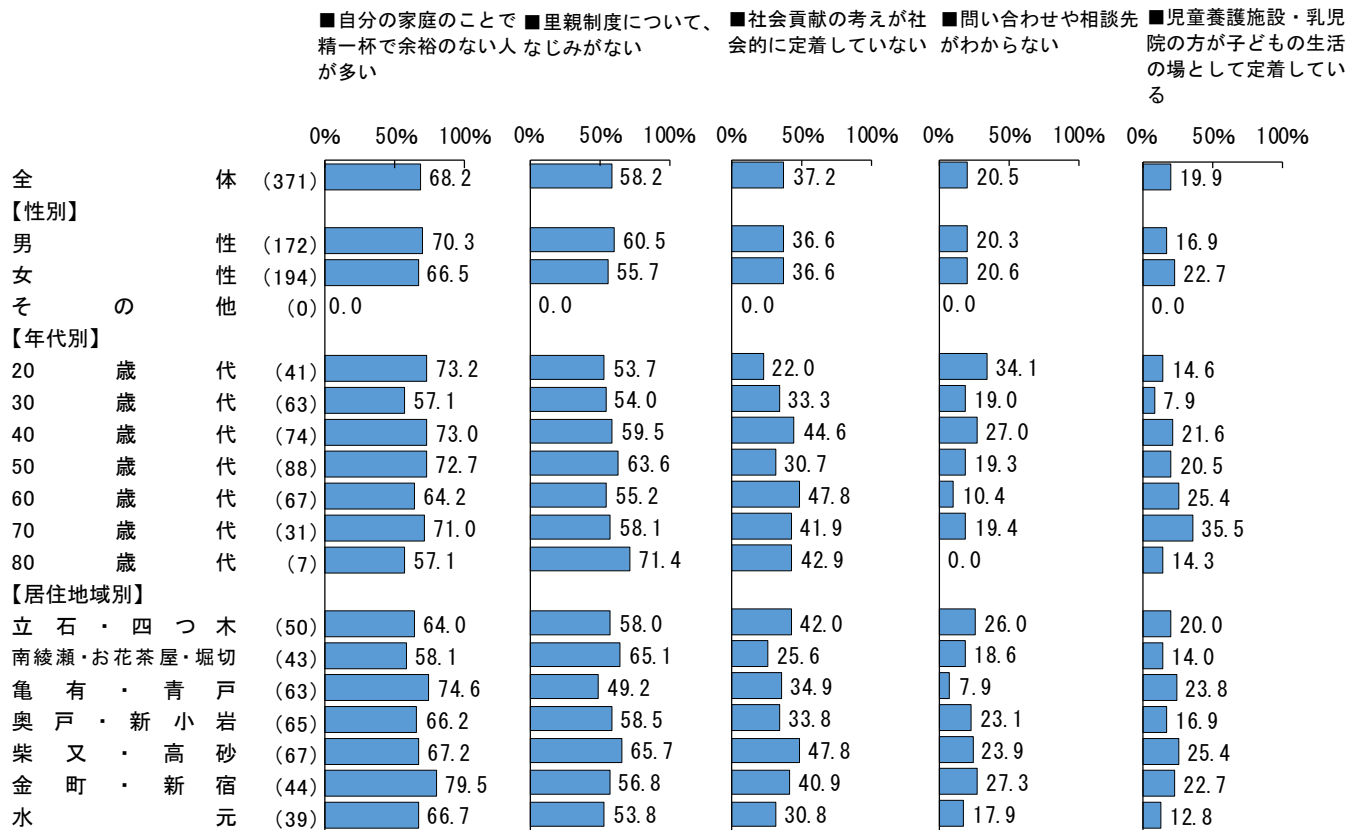
居住地域別でみると、「自分の家庭のことで精一杯で余裕のない人が多い」は、金町・新宿が 79.5%で最も高く、次いで亀有・青戸が 74.6%、柴又・高砂が 67.2%と続いており、全ての地域で 5 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「手続きや審査が煩雑なイメージがある」「責任を持ちたくないのではないか」「条件などハードルが高いと感じる」などがあつた。

図表－21 里親制度が普及しない理由（全体）



図表－22 里親制度が普及しない理由  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (12) 里親制度の広報について

問 12 今後、里親制度についての理解を深めていくために、どのような広報が効果的だと思いますか。（あてはまるものを全て選択）

里親制度の広報については、「テレビやラジオでの広報」が 60.9%で最も高く、次いで「自治体の広報紙の活用」が 48.8%、「ホームページや SNS 等の活用」が 46.6%となっている。

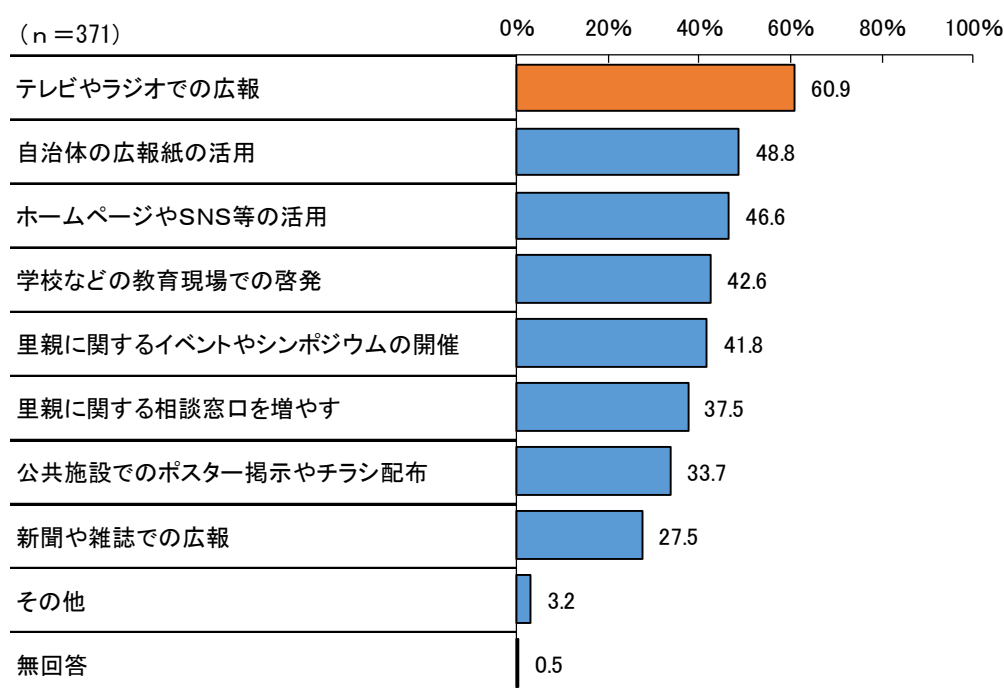
性別でみると、「テレビやラジオでの広報」は、女性が 61.3%、男性が 61.0%で、ほとんど差がみられない。

年代別でみると、「自治体の広報紙の活用」は、70 歳代が 77.4%で最も高くなっている一方、その他の代では 6 割以下となっている。

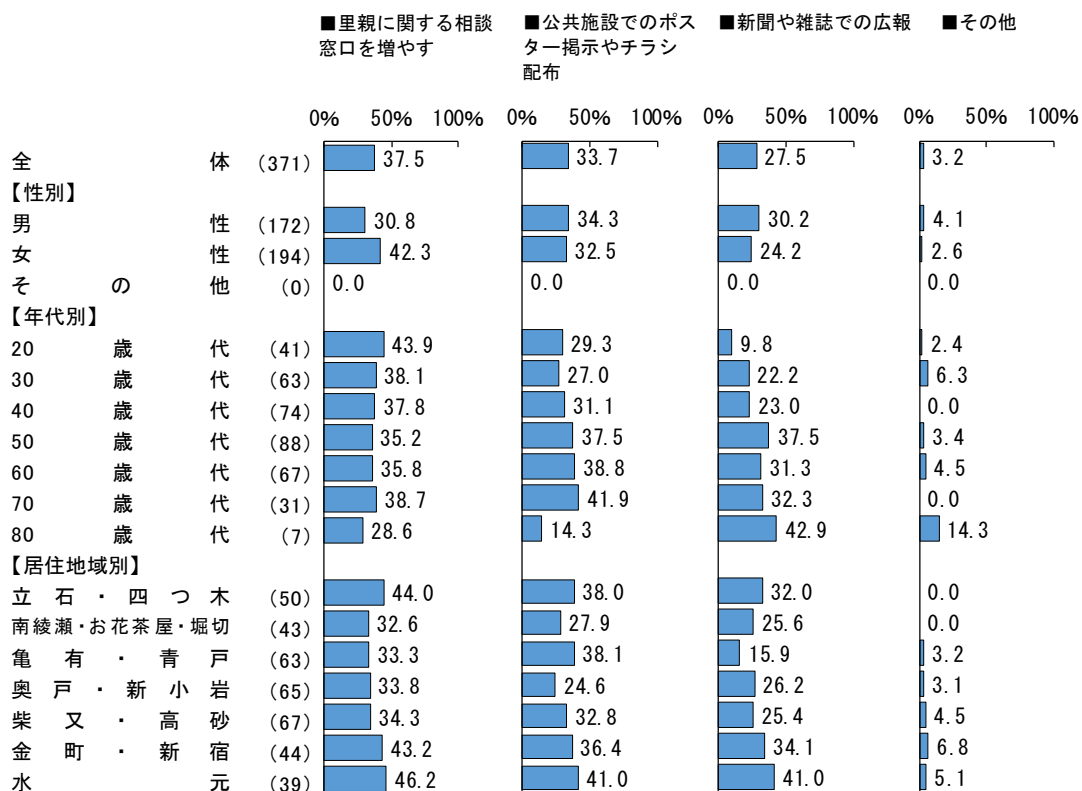
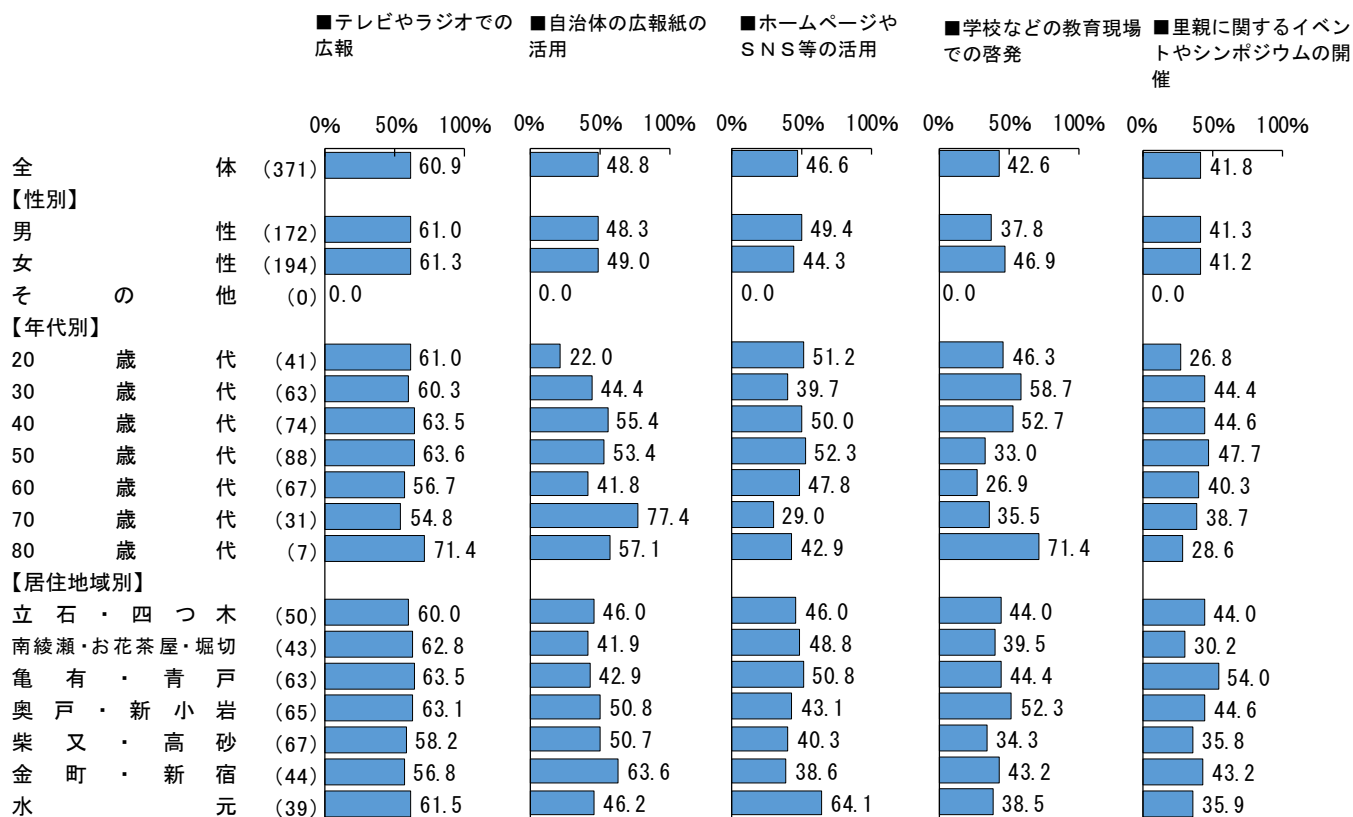
居住地域別でみると、「テレビやラジオでの広報」は、亀有・青戸が 63.5%で最も高くなっており、全ての地域で 5 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「産婦人科など病院でのポスター掲示」「里親関連施設でのボランティアの場を提供する」「経済的な支援」などがあった。

図表－23 里親制度の広報について（全体）



図表-24 里親制度の広報について  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (13) 広報活動のうち、見たこと、聞いたことがあるものがあるか

問 13 令和5年10月に葛飾区児童相談所を開設し、里親制度の広報活動を行ってきましたが、実際にこれまでに見たこと、聞いたことがあるものはありますか。(あてはまるものを全て選択)

広報活動のうち、見たこと、聞いたことがあるものがあるかについては、「この中にはない」が66.0%で最も高く、次いで「広報かつしかの記事」が19.9%、「葛飾区のホームページの里親制度に関するページ」が7.5%となっている。

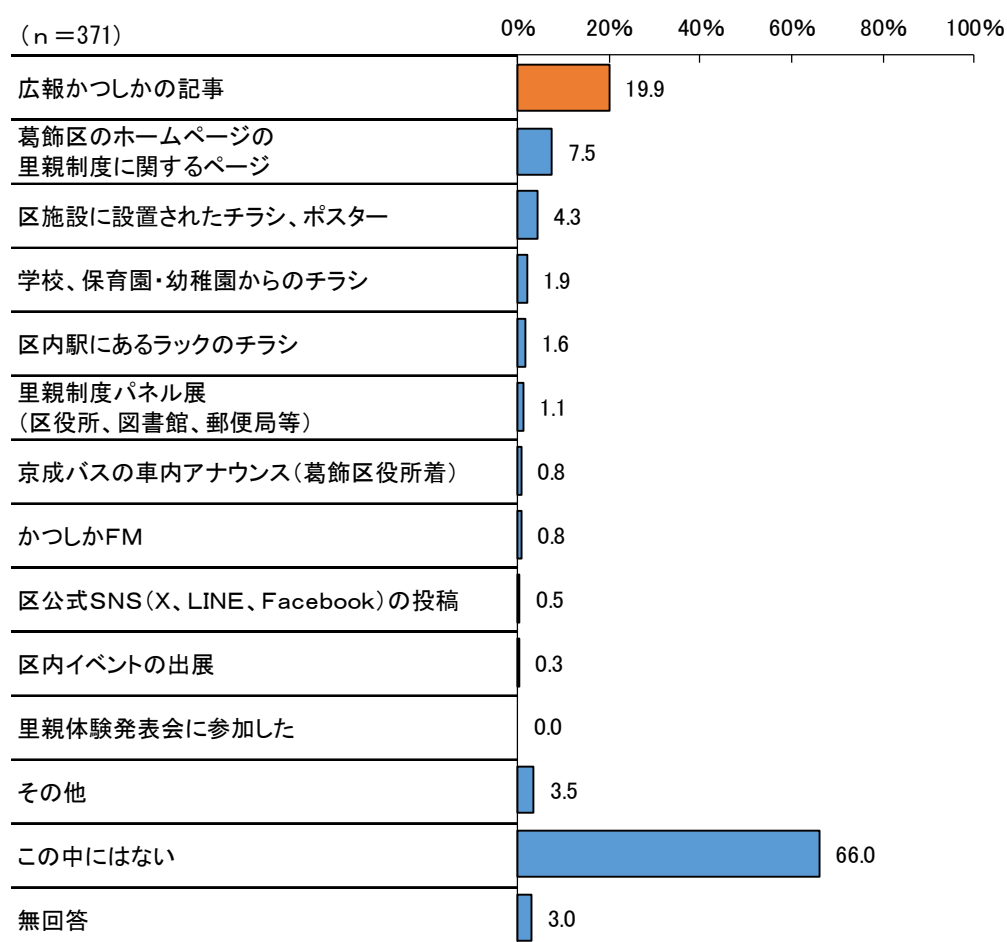
性別でみると、「広報かつしかの記事」は、女性が23.2%、男性が16.3%で女性が高くなっている。

年代別でみると、「広報かつしかの記事」は、80歳代が57.1%で最も高く、次いで70歳代が38.7%となっている一方で、その他の代は3割以下となっている。

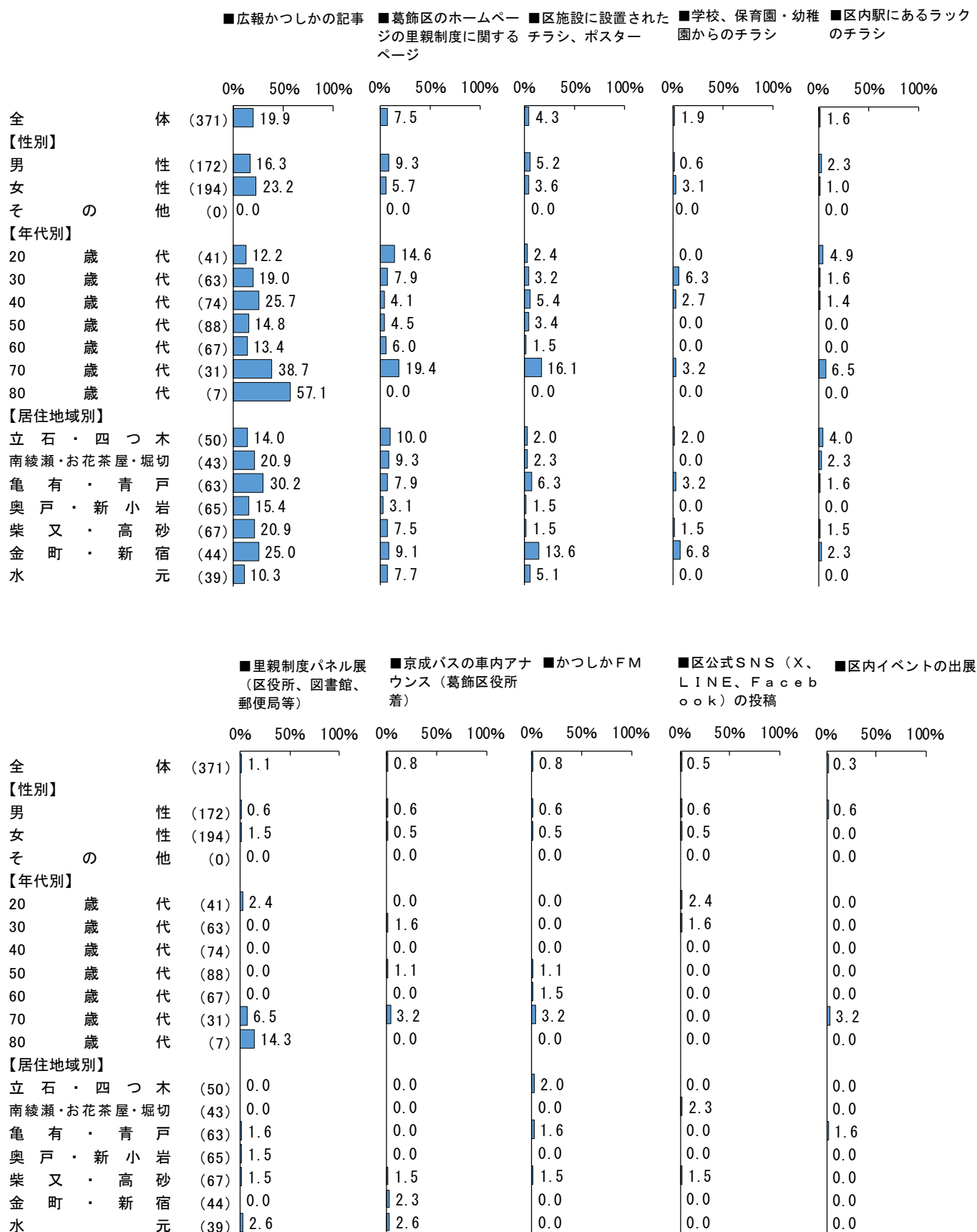
居住地域別でみると、「広報かつしかの記事」は、亀有・青戸が30.2%で最も高くなっている。

「その他」の内容としては、「葛飾区では全くしらなかった」「積極的に見ようとしなかったので分からなかった」「見たかもしれないが、覚えていない」などがあつた。

図表-25 広報活動のうち、見たこと、聞いたことがあるものがあるか（全体）



図表-26 広報活動のうち、見たこと、聞いたことがあるものがあるか  
(全体・性別・年代別・居住地域別—上位 10 項目)



## (14) 普段の情報収集媒体は何か

問 14 普段、必要な情報（行政からの情報に限らない）はどのような媒体から収集していますか。（あてはまるものを全て選択）

普段の情報収集媒体は何かについては、「テレビ」が 62.0%で最も高く、次いで「広報かつしか」が 57.7%、「SNS」が 55.0%となっている。

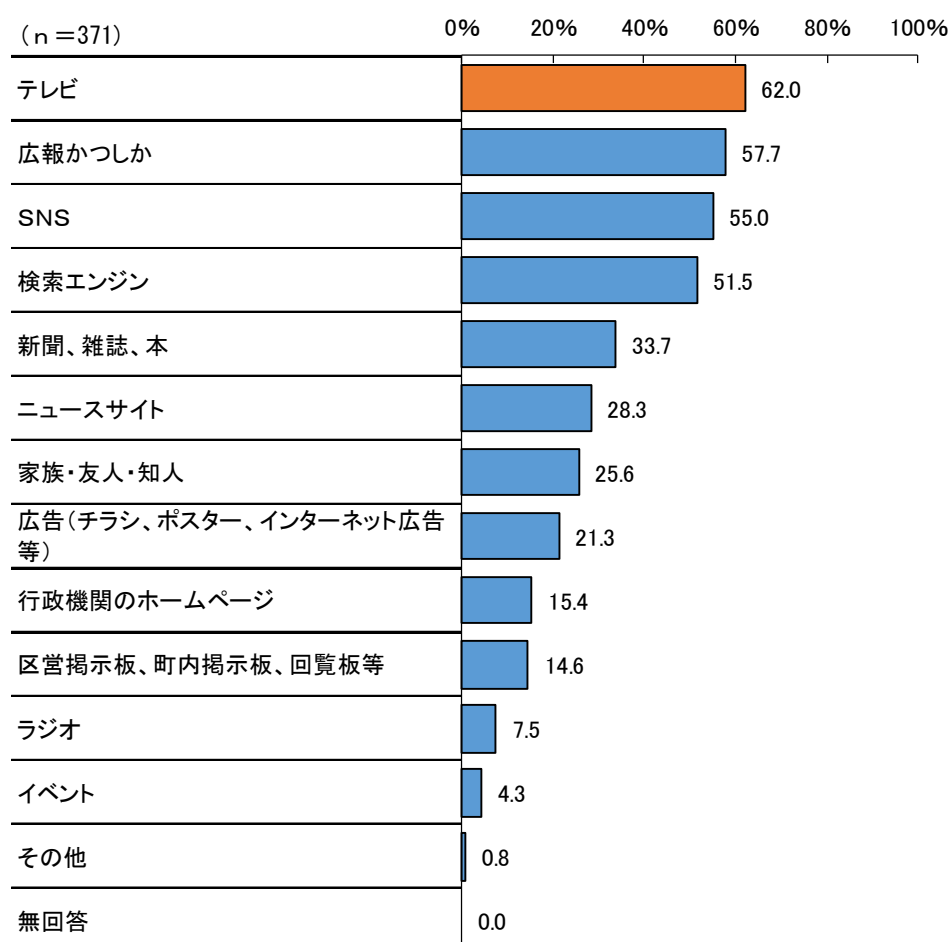
性別でみると、「テレビ」は、女性が 68.0%、男性が 54.1%で女性が男性を上回っている。

年代別でみると、「広報かつしか」は、70 歳代が 87.1%で最も高くなっている。「広報かつしか」、「テレビ」については、70 歳代以下において、年代が上がるごとに割合が高くなっていく傾向がうかがえる。

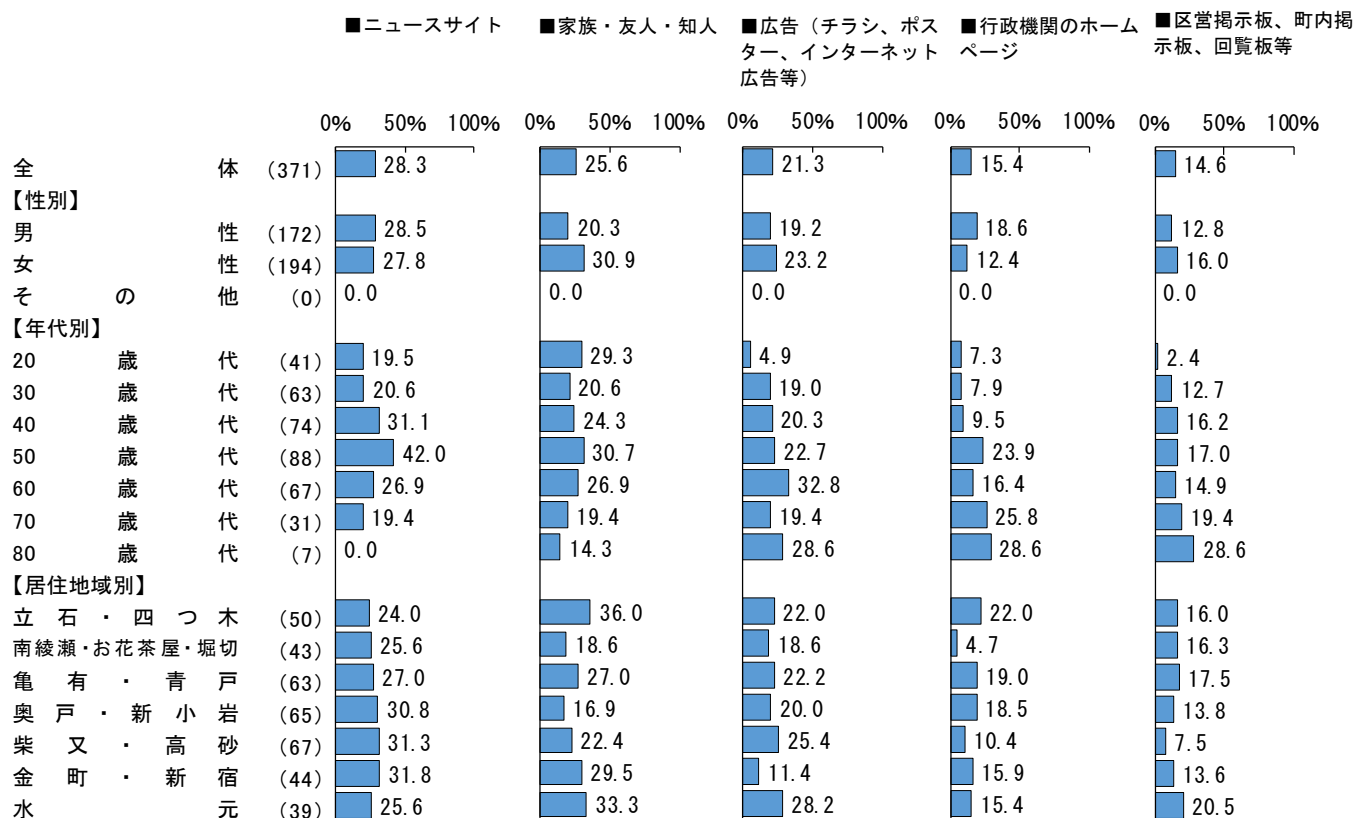
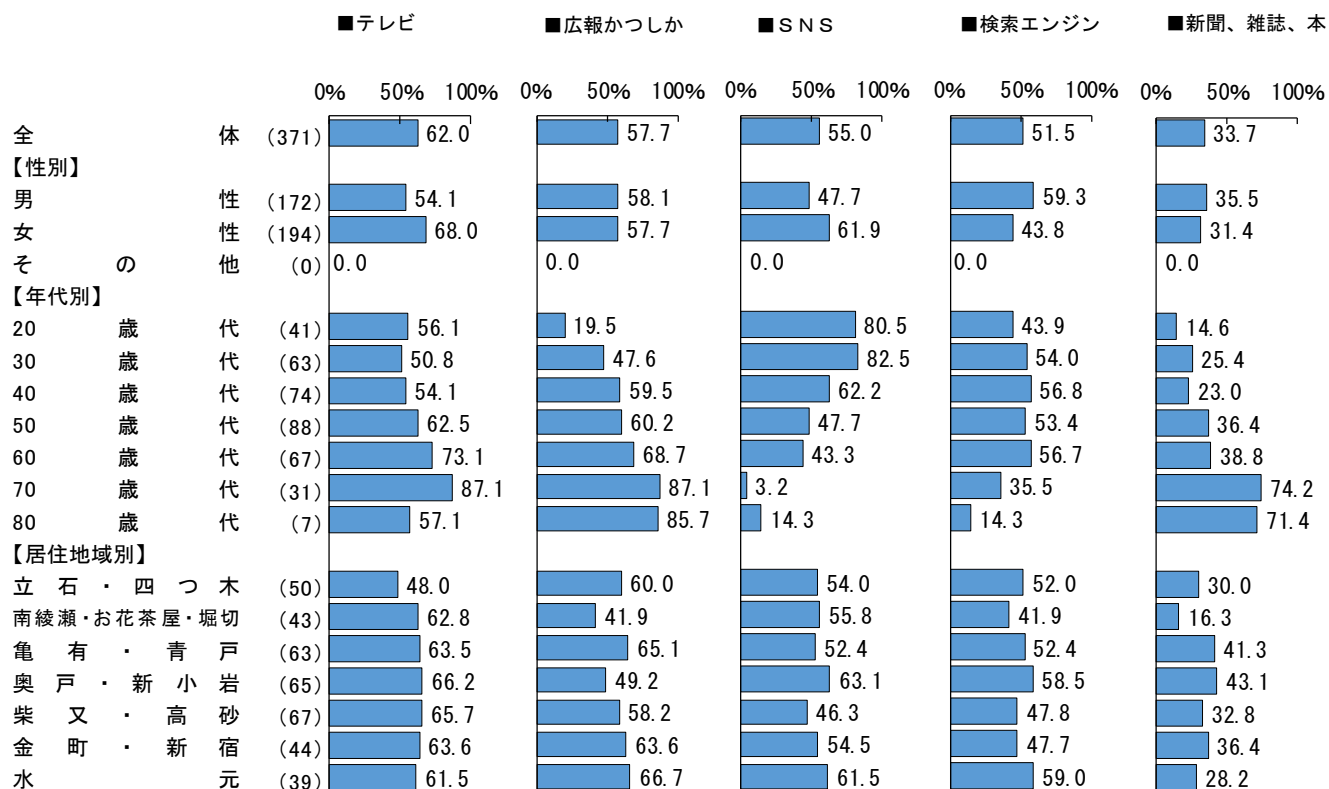
居住地域別でみると、「テレビ」は、奥戸・新小岩が 66.2%で最も高くなっており、立石・四つ木以外の地域はすべて 60%以上となっている。

「その他」の内容としては、「子育てひろばの先生やママ友」「YouTube」などがあつた。

図表-27 普段の情報収集媒体は何か（全体）



図表-28 普段の情報収集媒体は何か  
(全体・性別・年代別・居住地域別—上位 10 項目)



## (15) 里親制度についての自由意見

問 15 里親制度について、ご意見がありましたらご記入ください。(自由記述)

### 【主な意見】

- ・里親になると決断するにはかなりの勇気がいると思う。詳細がわからないと里親制度に関心を持つ人も少ないと思うので、まずは知ってもらうために、里親制度単独のチラシを一枚投函するななどすれば、目につくと思う。一度知ってもらってから詳細説明のあるイベント告知があれば、行く人も増えると思う。
- ・里親制度はとても大切な制度だと思う。全ての子が幸せに生きていける社会になることを願うが、責任をもって育てていくには、時間的にも経済的にも我が子だけで精一杯で、里親になることを考えたことはなかった。我が家では今後も厳しいと思う。自分でも薄情に感じるが、無責任に興味があるとは答えられない。
- ・里親制度については育児など金銭的な支援もあることをこの調査で知った。里親制度について圧倒的に情報が不足していると改めて感じた。個人的には子育てもしたことはないから不安もあり、特に配偶者の関心、理解を得る難しさも感じた。
- ・血縁関係の無い人を受け入れる経済的に余裕がある人が少ないように感じる。
- ・血縁関係が優先されるので、広がることは手段だけでは厳しい社会だと思う。
- ・自分の子どもがいるなかで、他者の子どもを育てるイメージが湧かない。周りに里親をしている人もいないため、よりイメージが湧きにくい。ただ、必要な制度だと思うので、より世の中に認知されるよう発信を続けてほしい。里親制度とは違うが、児童養護施設の職員体制の充実を含めて手厚くすることでも、子どもは健全に育つのではないかと思う。
- ・関心はあっても周囲の意識や理解のことを考えると、先に進むのをためらってしまう。
- ・里親制度があるということは知っていたが、自分ができることとは考えてなかった。協力できる方への助成など支援を手厚くしていただき、すべての子どもたちが幸せになってほしいと思う。二人の子どもを育ててきたが、私が若くても里親になることは大変だったかと思う。難しい問題だと感じた。
- ・里親のもとで幸せに生活ができる環境があるなら、もっと普及されるべきだと思う。子どもがほしくても恵まれない人達も多いので、そうした人達が利用できると良いと思う。
- ・先日テレビで里親制度を知った。養子縁組でもなくお金は里親制度で貰えるので金銭的な負担は問題ないと言っていた。家族皆で受け入れて実子と同じ様に子どもたちも仲良くしていたが、相性や家庭環境などそれぞれ違うので全てが上手くいくとは限らない。相当な覚悟が必要だと思った。
- ・以前テレビで、実の親が育てたいと里子の子を引き取ったが、一年もせずに児童養護施設へ行くことになったというニュースを見た。0歳児で預けられて5歳児になる子を里親から引き離すことが、その子や里親にとって、心理面でどの様な影響を与えたかと考えさせられた。現状の制度のままであれば、子どものための制度なのに、実親の都合で子どもの権利と里親の権利が守られていないと感じた。産みの親が親権を持ったままという制度が課題の様にも感じたため、里親制度の見直しも必要であると感じた。
- ・若いうちにもっと詳しく知っていたら考えが変わったかもしれない。
- ・里親になる為の審査は厳しいものかと思うが、悪意のある人に利用されないか心配。また、本当

に子どもはその制度を利用したいのか疑問に思う（年齢によると思うが）。

- ・里親制度を知らない人が多いし社会的には周知されていない。
- ・とても良い制度だと思う。もっと広く制度が広まり、子どもたちが楽しく安心して暮らせる環境が整うと良いと思うが、一方で里親からの虐待などの話も聞いたりするので、行政と里親とのコミュニケーションは子育てが完了（成人や学校卒業の時）まで密に取っていくのが良いと思う。自分ももう少し若ければ制度について調べたりしてみたかった。
- ・「難しい」、「大変そう」、「問題が起きたらどうするのか」など様々な懸念の部分をもどのように払拭するか、また、理解していただくか、そのための努力が必要ではないか。
- ・以前は、里親を題材にしたドラマや映画などが多かったと思うが、今は色々な問題になるので目にする、耳にする機会が減ってきたと感じる。だからといって、養育が必要な子どもたちが居なくなっている訳ではないので、認知度を上げ、少しでも里親さんを増やす活動は必要だと思う。
- ・安心して楽しく子どもを育てていける社会制度、環境がない限り、里親制度を広めていくのは難しいのではないかと。自分の子どもさえ育てるのが精一杯で、出産率の低下がその証拠だと思う。金銭的に余裕のある方でない限り、里親にはなかなか難いと思えないと個人的には思う。
- ・里親制度という言葉は知っていたが、詳しくは知らなかったもので、一つ一つの言葉の意味が解り、深く考えることが出来た。
- ・心配なのは子どもが好きでは無いのに、手当ての里親が出ること。子どもは離れ離れになってしまうのではと心配で、言いたいことも言えなくなり、結果的に虐待などが起きないか。
- ・里親制度という名前があまり良くなく浸透しないのではないかと。思う。
- ・養育される側や里親の家族の本心をどう見極めるのか難しいと思う。里親を希望している大人の気持ちだけでできることではない。制度としては丁寧かつ専門的な話し合いによって今後も続けてほしい。
- ・この調査は里親を増やすことが目的だという理解をした。一方で「里親を増やすこと」が子どもたちや児童養護施設などが抱えている課題を解決するための手段として最適なものはよくわからなかった。具体的な課題が何かはわからないが、日本の子育ての現状や生産年齢人口の低下、パートナーシップ制度などの様々な要因が関連して課題に繋がっているのだと思う。里親の認知拡大も一つの手段だと思うが、もう少し別のアプローチもあるのではないかと。思った。
- ・とても良いことだと思うが、それと同時に里子側の心のケアをしっかりとすることも重要だと思う。
- ・家族単位を大切に考える日本では、なかなか厳しいかもしれないと思う。
- ・友人夫婦が里親になったことから、興味はある。トラブル（里子の心理的な葛藤など）が多そうなのイメージがある。
- ・成熟した社会にとっても必要な制度だと感じるが、あまりに馴染みがないのが率直な感想。
- ・里親になるための条件が厳しすぎることで、子どもたちが新しい家庭に迎えられる機会を減らしているのではないかと。たしかに子どもの安全を守るための基準は必要だが、経済的条件や時間的な要件にこだわりすぎるのではなく、子どもたちが安心できる環境を提供できる人々の可能性を広げるべき。
- ・現在3人の子育てをしているので現実的に里親になりたいと思うことはないが、結婚当初子どもを授かるか分からなかった時は里親という選択肢も頭の片隅にはあった。しかし、それに対してはマイナスなイメージの方が強かったように思い返している。私自身は保育の勉強をしながら働いていたので里親について触れる機会や興味があったが、そうではなかったらどのようにして知

識を得ていたのかなと思う。

- ・自分の子の世話で手一杯ではあるが、何らかの事情で里親になる方や里親が預かる子どものいずれも幸せでいる世であってほしい。
- ・制度の意義、具体的な支援内容、制度の活用実態をさらに広く周知すること。
- ・大変重要な制度であり、実効あるものにしていかなければならないと思う。
- ・制度の具体的内容を知らない。自治体によって制度が異なるのかもよくわからないが、全国一律であれば、政府(国)がもっと広報活動をすべきと思う。
- ・どの程度のお金の面で支援があるのかも具体的に示した方が良いと思う。実子と区別せずに育てられるかが不安。外国と日本では親子関係が違うので、そこも難しいと思う。
- ・必要としている対象者がどのくらいいるのか知りたい。
- ・子どもを育てるのは相当の覚悟が必要なことで、実際子育てしながら、様々なことに悩み苦しみ、愛情や喜びを感じていくと思う。それを踏まえたうえで実の子ではない子に手を差し伸べることが自分に出来るのか、その子にとって本当に幸せなことなのかを考えると里親制度の難しさを感じてしまう。しかし、どの子どもたちも、愛されながら安定した生活と幸せを願う。
- ・高齢者は里親になってあげたい気持ちはあるが、身体や金銭的な理由で力になれない。でも何かお手伝いしたい。
- ・まだ、里親になる家庭、育つ子どもへの偏見があるように思う。「当たり前の制度」になれば良いと思う。
- ・血がつながった親子でも上手くいかないことがある。そう考えると、難しい問題だが里親制度を勧めることはよいことだと思う。
- ・具体的なことが良くわからないので、もっと広報媒体を利用してもらいたい。
- ・難しい制度と思うが継続した支援が必要だと思う。
- ・自分が里親をしたいと思ったら、まずは検索エンジンで検索すると思う(現在は子どもがいるが、不妊治療をしていたときは、もし子どもができなかったら、里親制度も視野に入れていたと思う。)
- ・大人に対しては様々なメディアで大々的に取り上げて、わかりやすく解説してほしい。学校でも積極的に子ども達に教えて、知っていて当たり前の環境になるようにしてほしい。

## 2. 葛飾区歩きスマホの防止に関する条例について

自転車や自転車等の運転時のスマートフォン等による通話や画像の注視は取り締まりの対象となっていますが、スマートフォン等の画面を注視しながら歩行すること（以下、歩きスマホ）という。）に関する法的な規制はありません。

しかし、「歩きスマホ」は重大な事故等を引き起こす可能性がある危険性の高い行為であり、事故を無くしていくためには、歩きスマホが危険であることを認識し、行わないことが重要です。

このため、区では公共の場所における歩きスマホの防止についての基本的事項を定めた「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」を令和6年1月1日に制定しました。

「歩きスマホ」について現在の認知度や意識を調査し、交通事故の防止に向けた今後の参考とするため、区民モニターの皆様のご意見を伺います。

## 葛飾区歩きスマホの防止に関する条例について



自動車や自転車等、車両の運転時のスマートフォン等による通話や画像の注視は取り締まりの対象となっていますが、スマートフォン等の画面を注視しながら歩行すること（以下、「歩きスマホ」という。）に関する法的な規制はありません。「歩きスマホ」は重大な事故等を引き起こす可能性のある危険性の高い行為であり、事故を無くしていくためには、歩きスマホが危険であることを認識し、行わないことが重要です。

このため、区では公共の場所における歩きスマホの防止についての基本的事項を定めた「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」を制定しました。

条例の施行にあたり、多くの区民の理解を得るため、公共交通機関、公共施設等へのポスター掲示や歩きスマホ防止 PR 動画の作成、イベントを通じた啓発物の配布など、普及啓発活動を行ってきました。

しかし、歩きスマホの危険性・迷惑性を認識しているものの、依然として歩きスマホを行ってしまう区民もあり、条例の普及啓発活動を継続する必要があります。

そこで、区民の皆様の「歩きスマホ」に関する現在の認知度や意識を調査し、交通事故の防止に向けた今後の参考とさせていただくため、本調査を実施いたします。

## (16) 歩きスマホをしたことがあるか

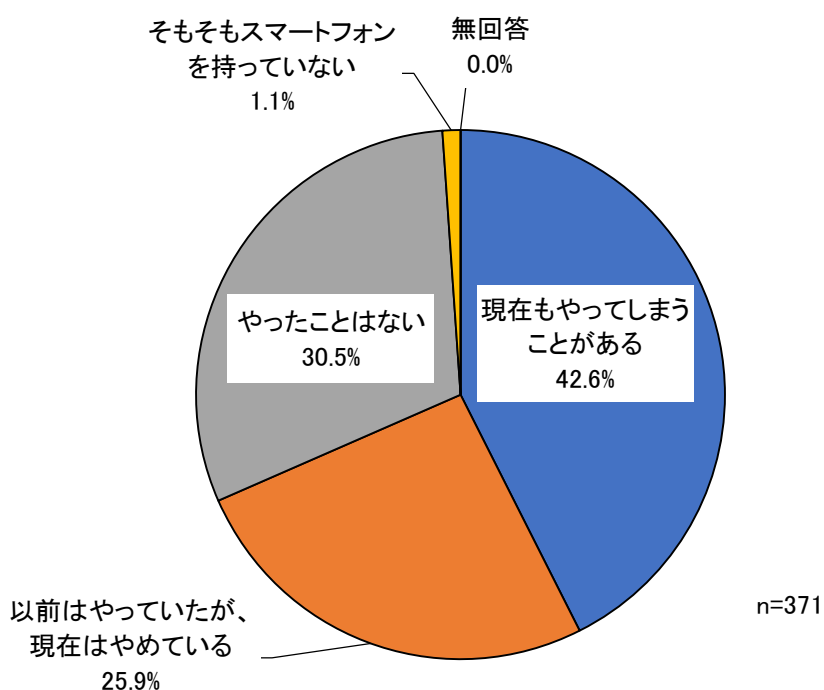
問 16 あなたは歩きスマホをしたことがありますか。(1つ選択)

歩きスマホをしたことがあるかについては、「現在もやってしまうことがある」が 42.6%で最も高く、次いで「やったことはない」が 30.5%、「以前はやっていましたが現在はやめている」が 25.9%となっている。

性別でみると、「現在もやってしまうことがある」は、男性が 45.3%、女性が 40.7%で男性が女性を上回っている。

年代別でみると、「現在もやってしまうことがある」は、20 歳代が 73.2%で最も高くなっており、年代が上がるにつれて低くなっていく傾向にある。

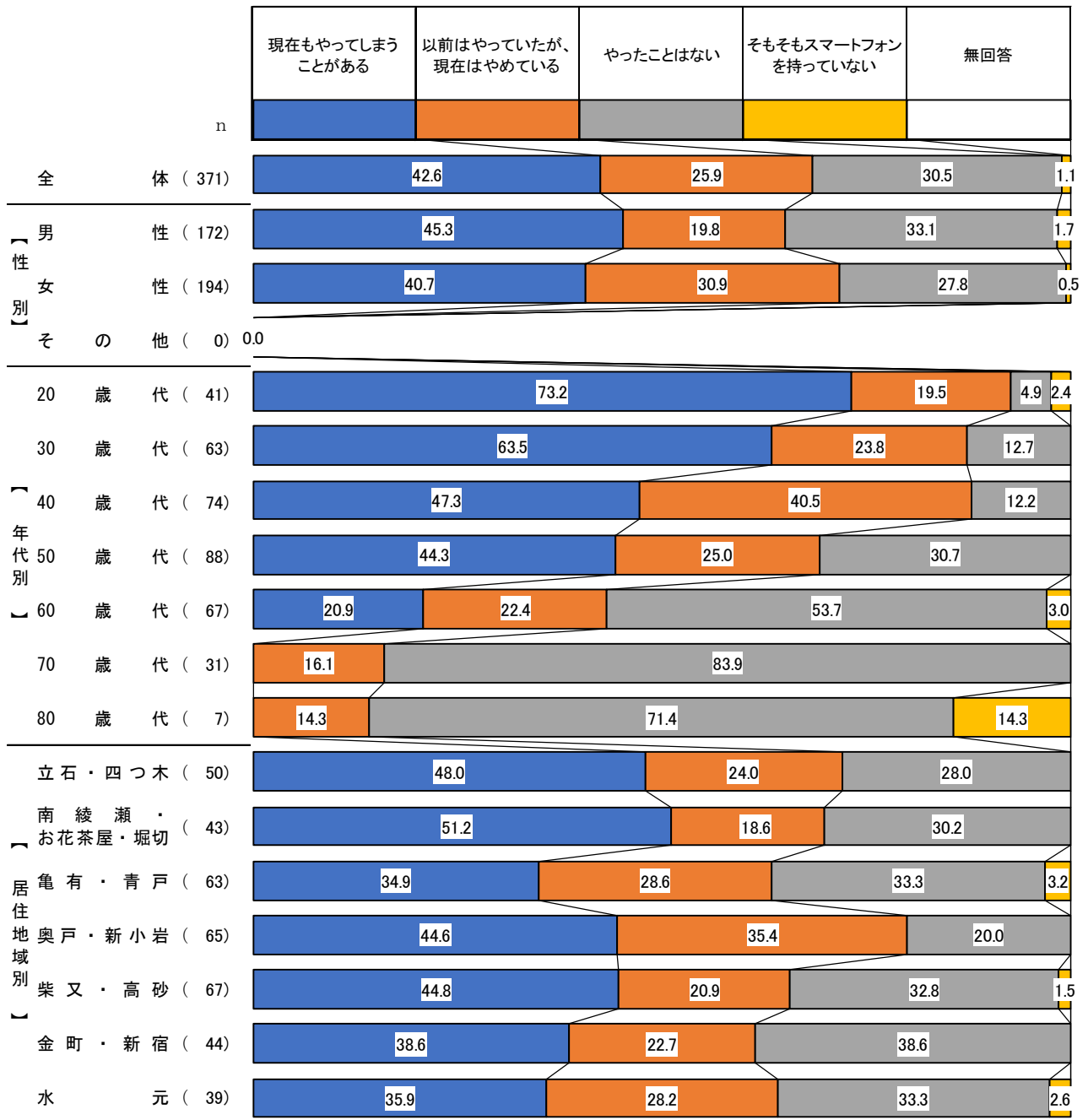
図表-31 歩きスマホをしたことがあるか（全体）



図表－32 歩きスマホをしたことがあるか（全体）

（全体・性別・年代別・居住地域別）

（％）



### (17) 歩きスマホをしてしまう理由

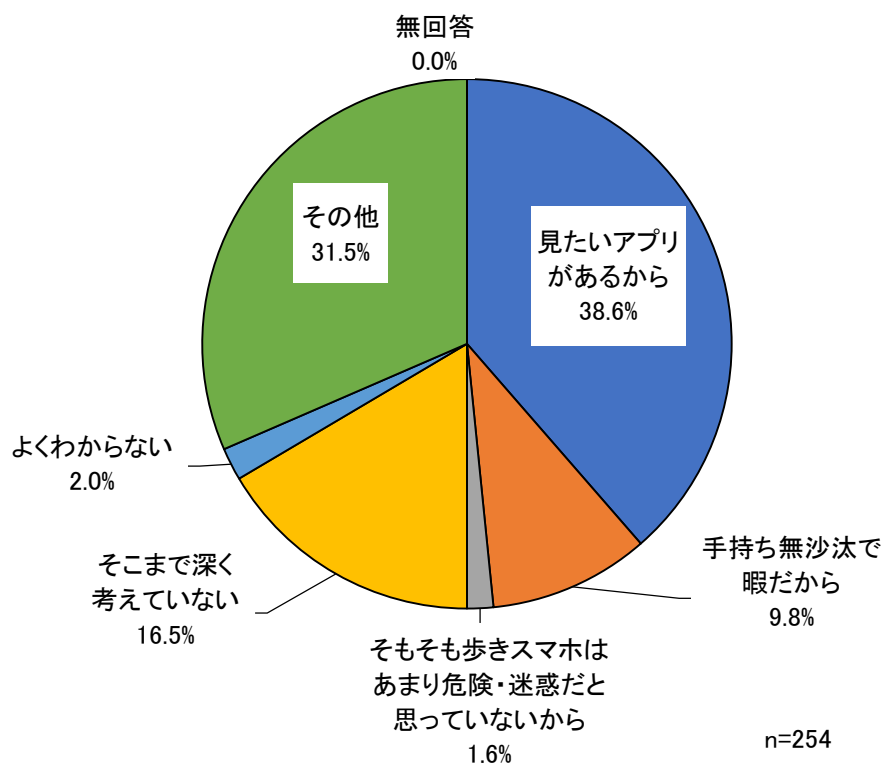
問 17 問 16 で選択肢 1「現在もやってしまうことがある」、選択肢 2「以前はやってしたが、現在はやめている」と答えた方に伺います。歩きスマホをしてしまう主な理由は何ですか。（1つ選択）

歩きスマホをしてしまう理由については、「見たいアプリがあるから」が 38.6%で最も高く、次いで「そこまで深く考えていない」が 16.5%となっている。

年代別でみると、「そこまで深く考えていない」は、20 歳代が 23.7%で最も高くなっており、次いで 40 歳代が 23.1%となっている。また、「手持ち無沙汰で暇だから」は 20 歳代と 30 歳代で 2 割近くと高くなっている。

「その他」の内容としては、「知らない場所に行く時に地図アプリを見てしまう」「急な連絡が来た時に見てしまう」「気になってしまう」などがあつた。

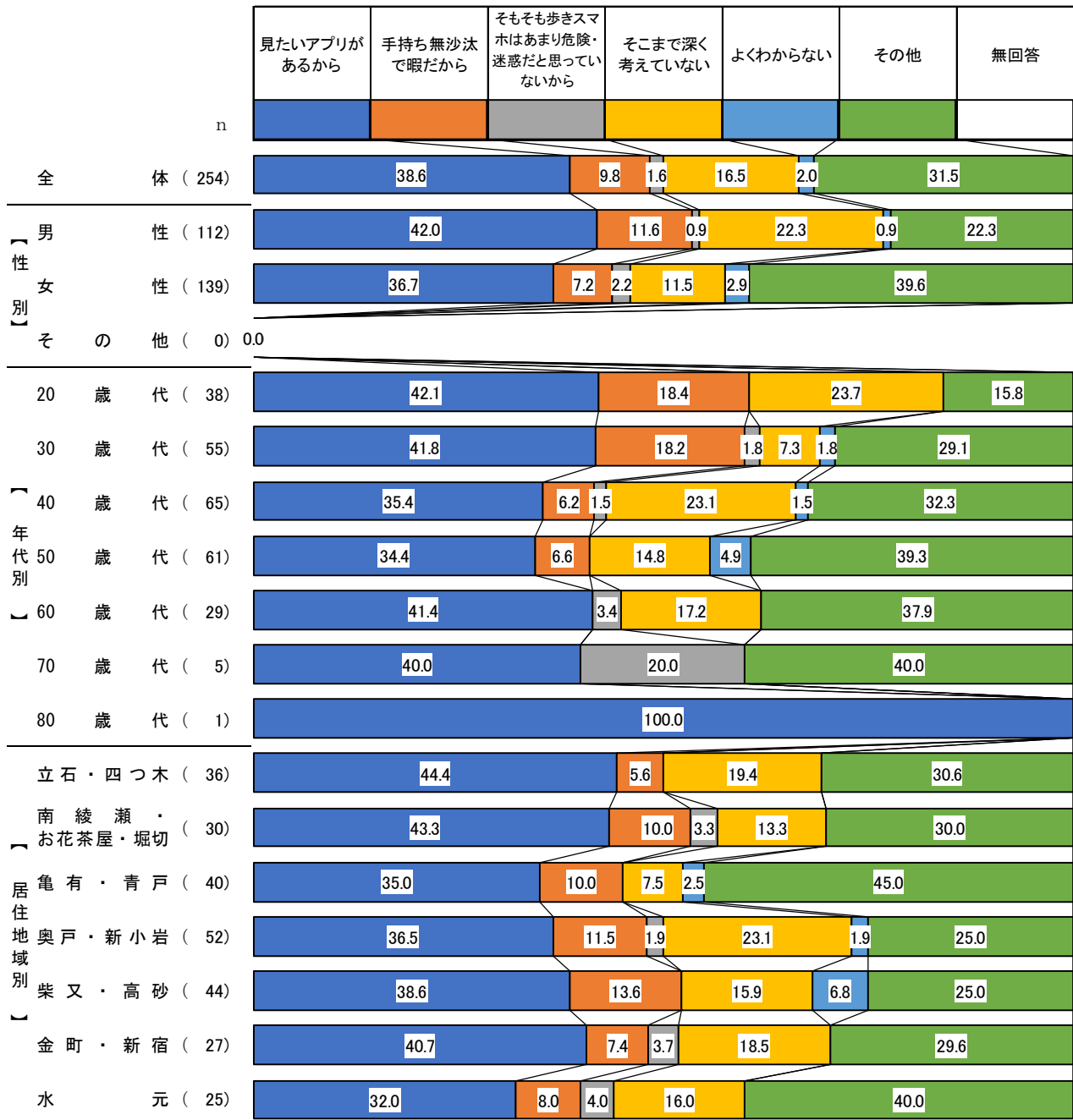
図表－33 歩きスマホをしてしまう理由（全体）



図表－34 歩きスマホをしてしまう理由（全体）

（全体・性別・年代別・居住地域別）

（％）



## (18) 視聴・操作していることが多いコンテンツ

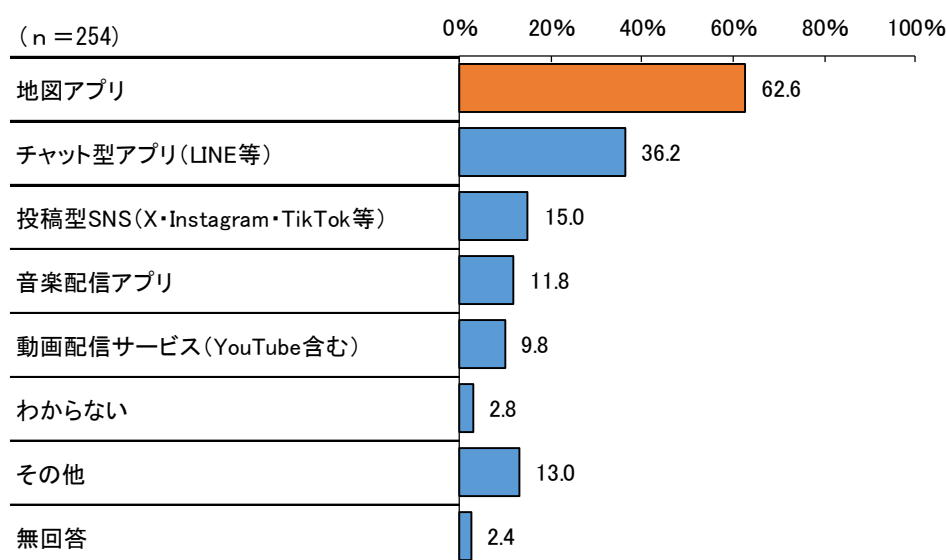
問 18 問 16 で選択肢 1「現在もやってしまうことがある」、選択肢 2「以前はやってしたが、現在はやめている」と答えた方に伺います。歩きスマホをする際に、視聴・操作していることが多いコンテンツは何ですか。（あてはまるものを全て選択）

視聴・操作していることが多いコンテンツについては、「地図アプリ」が 62.6%、次いで「チャット型アプリ（LINE 等）」が 36.2%となっている。

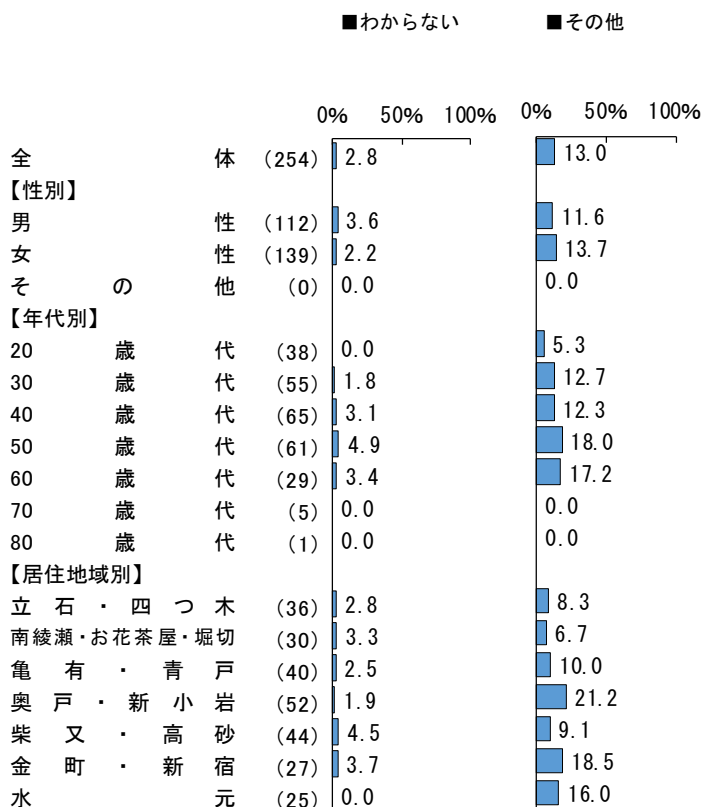
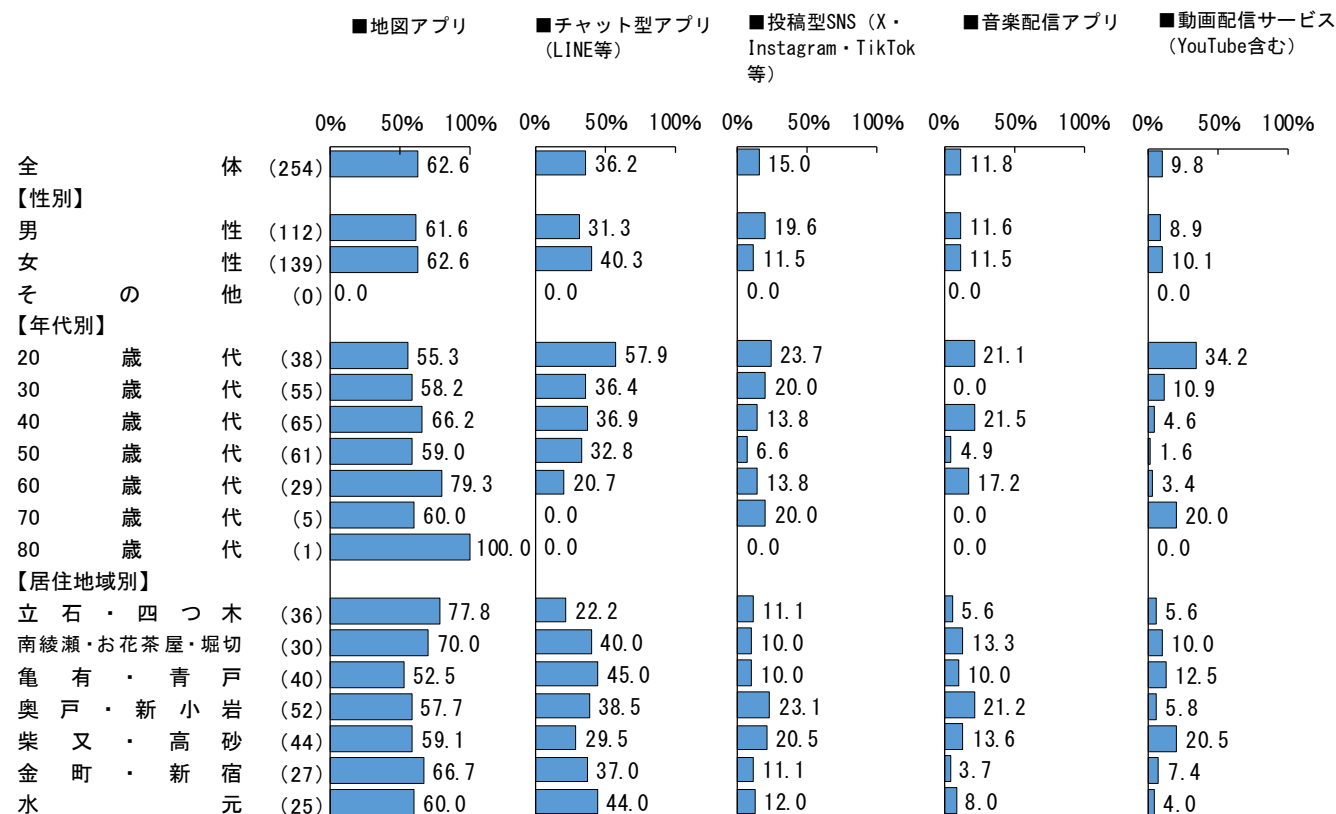
年代別でみると、「地図アプリ」は、60 歳代が 79.3%、次いで 40 歳代が 66.2%となっており、その他の年代も 5 割以上となっている。「チャット型アプリ（LINE 等）」は、20 歳代が 57.9%と突出して高くなっている一方、その他の代では 4 割以下となっており、年代が上がるにつれて低くなっている。

「その他」の内容としては、「時計、乗換案内」「メール」「ゲーム」などがあった。

図表－35 視聴・操作していることが多いコンテンツ



図表－36 視聴・操作していることが多いコンテンツ  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



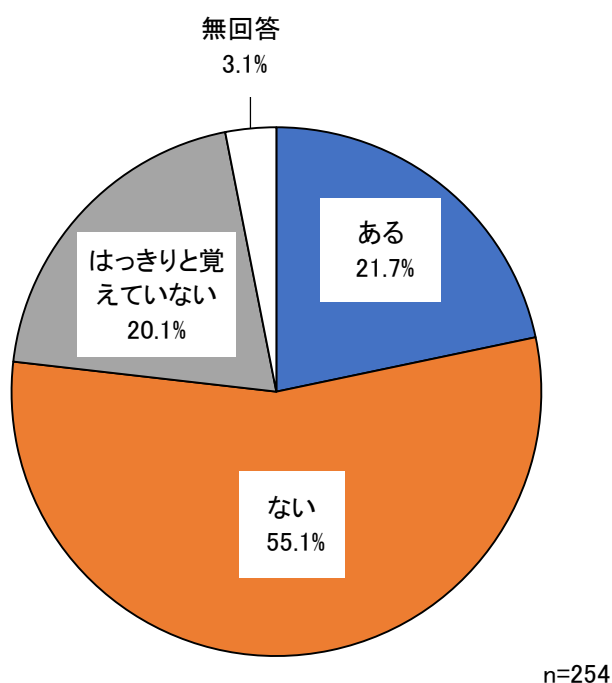
### (19) 人や物にぶつかったり、危険を感じたことがあるか

問 19 問 16 で選択肢 1「現在もやってしまうことがある」、選択肢 2「以前はやってしたが、現在はやめている」と答えた方に伺います。歩きスマホをしているときに、周囲の人や物にぶつかったこと、危険を感じたことはありますか。また、具体的な状況があれば教えてください。（1つ選択）

人や物にぶつかったり、危険を感じたことがあるかについては、「ない」が 55.1%で最も高く、次いで「ある」が 21.7%、「はっきりと覚えていない」が 20.1%となっている。

年代別でみると、「ある」は、70 歳代が 40.0%で最も高く、次いで 20 歳代が 31.6%、40 歳代の 24.6%となっている。また、「はっきりと覚えていない」は 30 歳代が 29.1%と最も高くなっている。

図表－37 人や物にぶつかったり、危険を感じたことがあるか（全体）

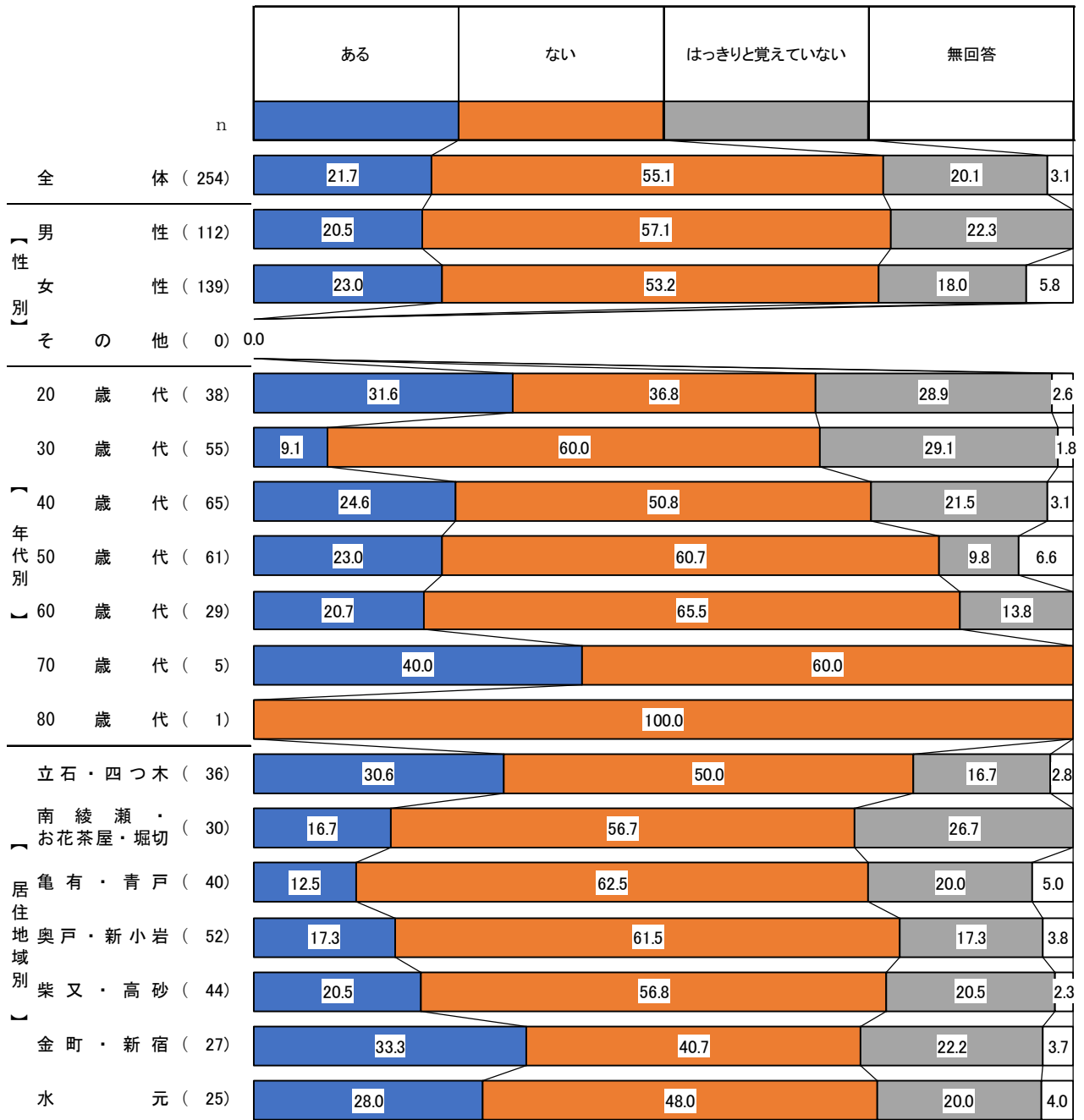


<回答の主な内容>

| 項目       | 具体的な状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 障害物との接触  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道上の置物に気づかずぶつかった。</li> <li>・電柱にぶつかりそうになったことがある。</li> <li>・障害物にぶつかったことがある。</li> <li>・気がついたら電柱があった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         |
| 人との接触    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の気配を感じにくく、目の前に人がいてぶつかりそうになった。</li> <li>・目の前に急に人がいた。お互いに携帯を見ていて気づかなかった。</li> <li>・人と接触したり、ぶつかりそうになったことが何度もある。</li> <li>・前から来た人に気づかずぶつかりそうになった。</li> <li>・歩きスマホをしている人にぶつかられた。</li> <li>・お互い歩きスマホをしていて肩がぶつかった。</li> <li>・人にぶつかって怒鳴られた。</li> <li>・前を見ていない人にベビーカーでぶつかられそうになった。</li> <li>・人通りの多い場所でぶつかりそうになった。</li> <li>・階段を踏み外したり、他者との接触があった。</li> </ul> |
| 交差点・横断歩道 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交差点で信号が変わったのに気づかなかった。</li> <li>・赤信号なのに渡りそうになった。</li> <li>・自動車や自転車、歩行者と接触しそうになった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 注意力の欠如   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を見ていると人の動きが目に入らず、ぶつかりそうになることがある。</li> <li>・周囲が見えていないため、ぶつかりそうになることがある。</li> <li>・階段の踏み外しや転倒しそうになったことがある。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                |
| その他      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行が遅くなり、他の人に迷惑をかけることがある。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

図表－38 人や物にぶつかったり、危険を感じたことがあるか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



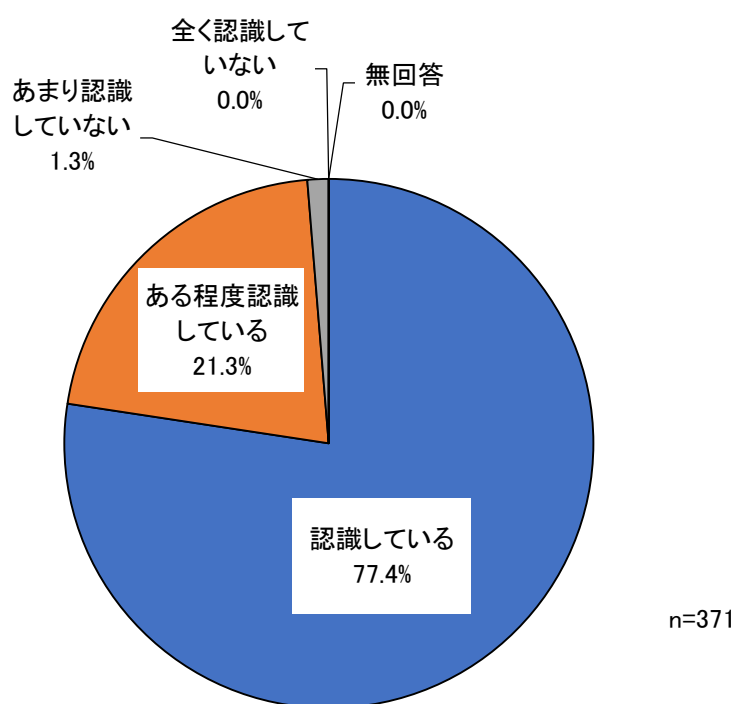
## (20) 歩きスマホの危険性・迷惑性について

問 20 歩きスマホをする際の危険性・迷惑性について、どの程度認識していますか。(1つ選択)

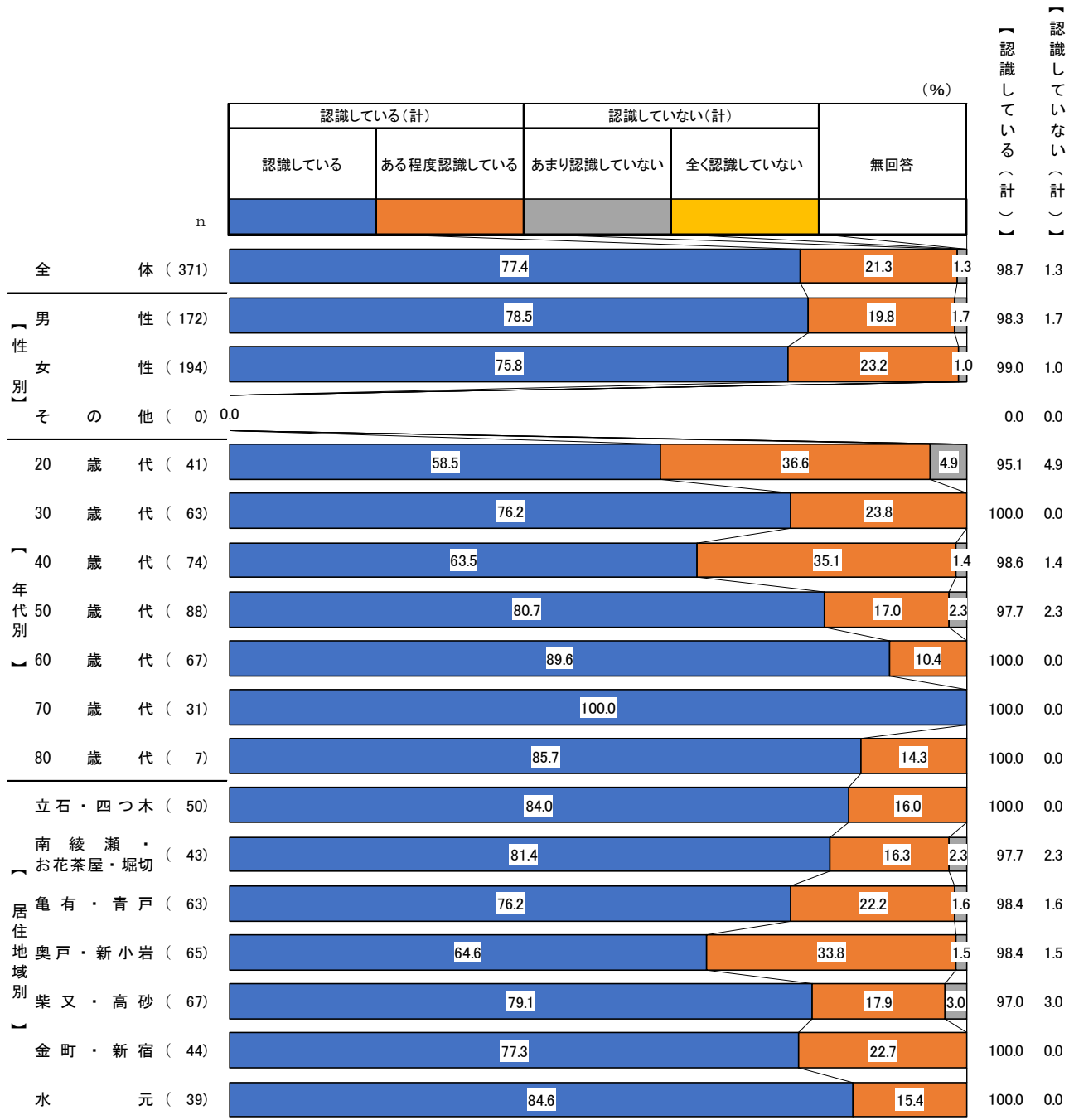
歩きスマホの危険性・迷惑性については、「認識している」と「ある程度認識している」を合わせた【認識している(計)】が98.7%となっている。一方、「あまり認識していない」と「全く認識していない」を合わせた【認識していない(計)】は、1.3%となっている。

性別、年代別、地域別の全てにおいて、【認識している(計)】は、全て9割以上となっている。

図表－39 歩きスマホの危険性・迷惑性について(全体)



図表－40 歩きスマホの危険性・迷惑性について  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (21) 歩きスマホをやめるための対策

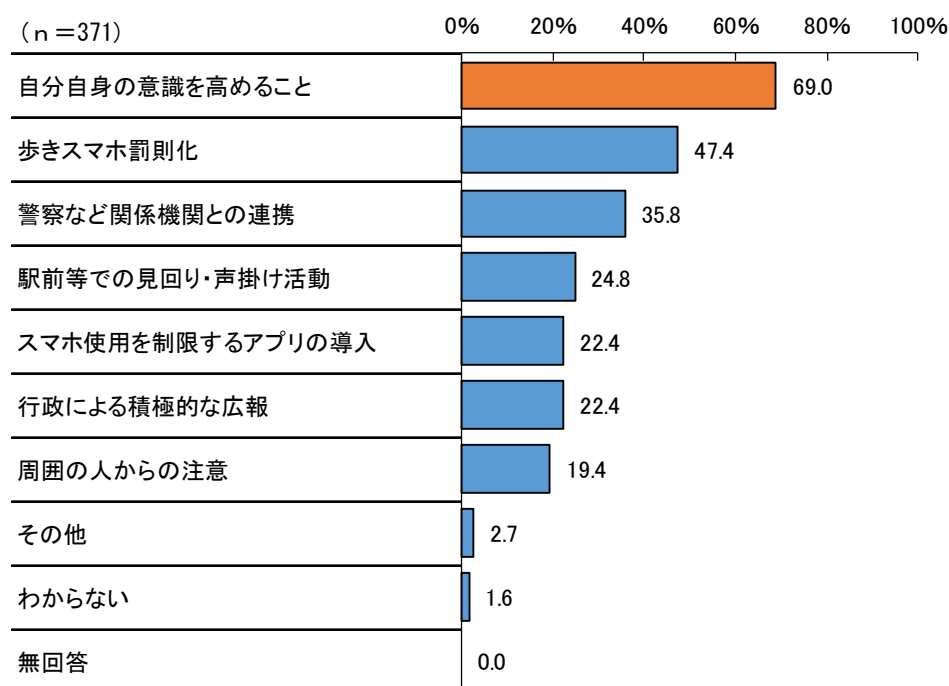
問 21 歩きスマホをやめるために、どのような対策が効果的だと思いますか。（あてはまるものを全て選択）

歩きスマホをやめるための対策については、「自分自身の意識を高めること」が 69.0%、「歩きスマホ罰則化」が 47.4%、「警察など関係機関との連携」が 35.8%となっている。

年代別でみると、「警察など関係機関との連携」は、80 歳代が 71.4%で最も高く、一方、20 歳代では 19.5%と低くなっている。また、「歩きスマホ罰則化」は、80 歳代で 71.4%となっており、年代が上がるごとに高くなっていく傾向にある。「自分自身の意識を高めること」は全ての年代で5割以上となっている。

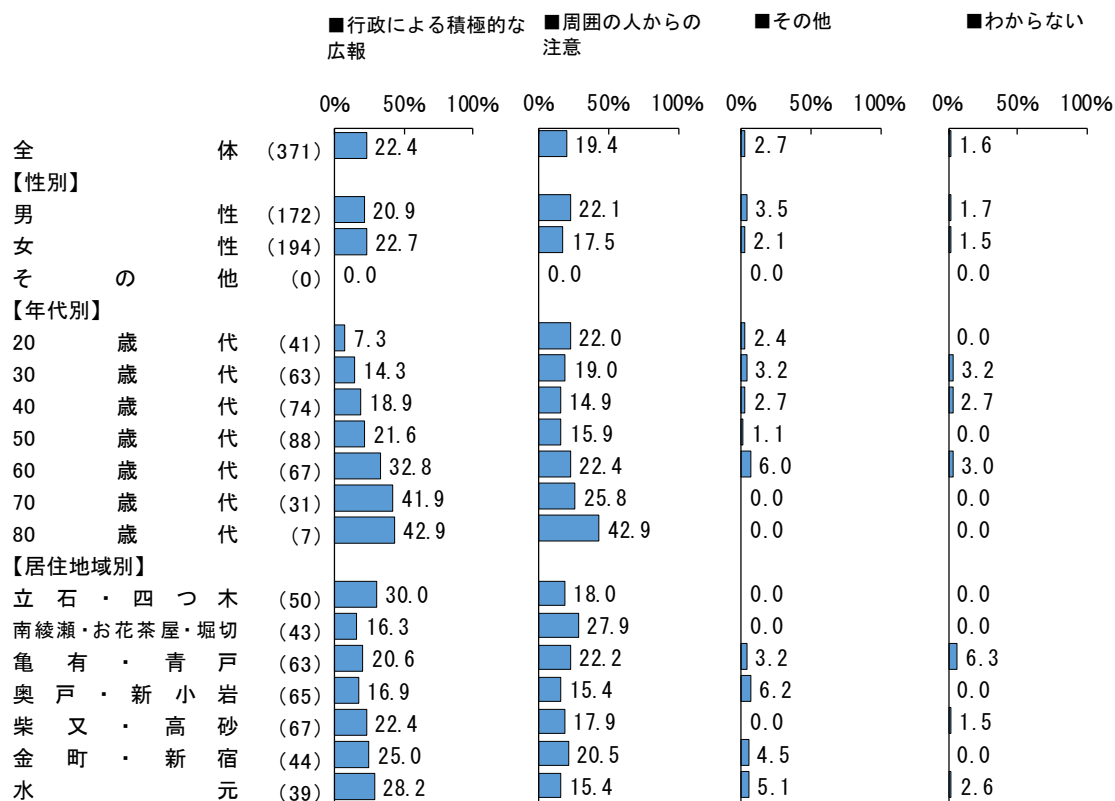
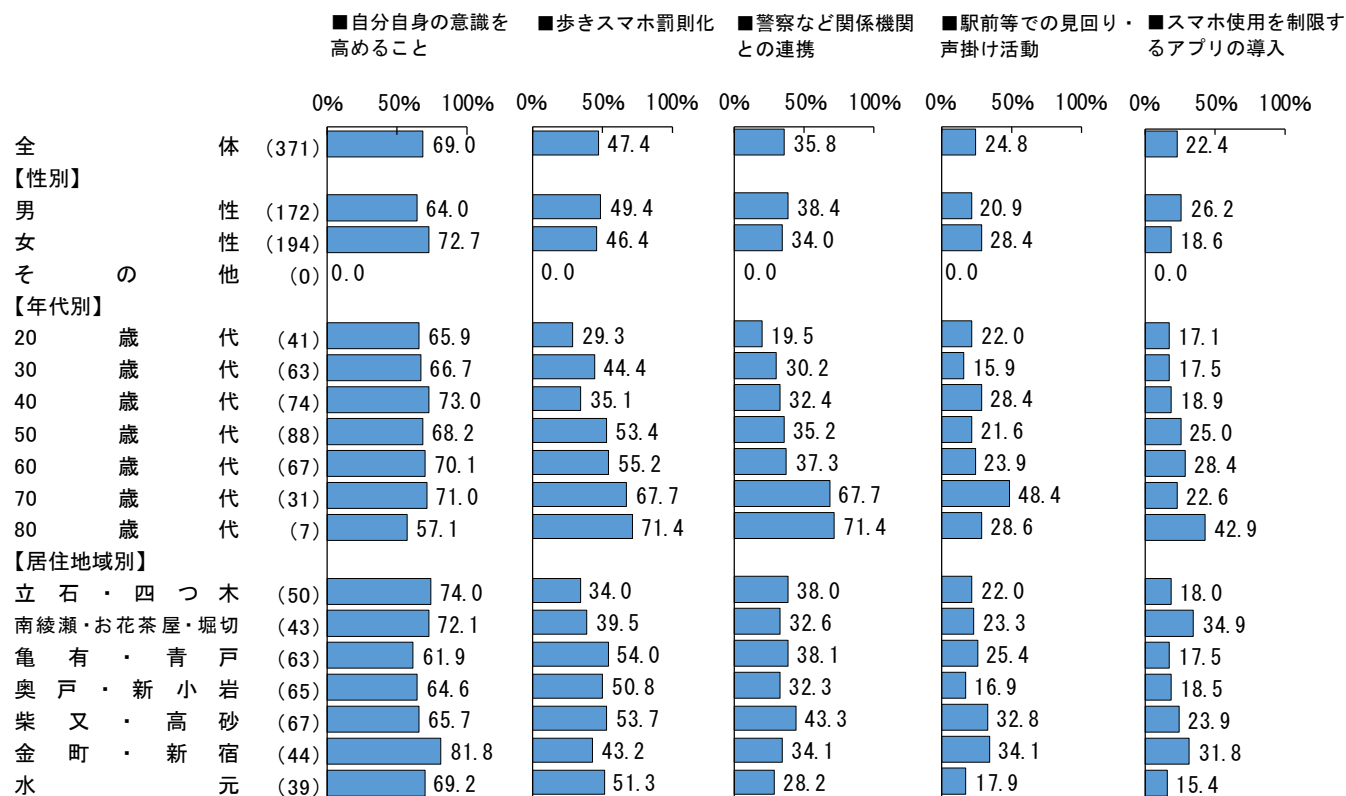
「その他」の内容としては、「歩きたばこと同様な罰則が必要」「移動しているときは、使えなくする」「歩行中は操作できなくなるアプリの導入」などがあつた。

図表－41 歩きスマホをやめるための対策（全体）



図表-42 歩きスマホをやめるための対策

(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (22) 歩きスマホをしている人について

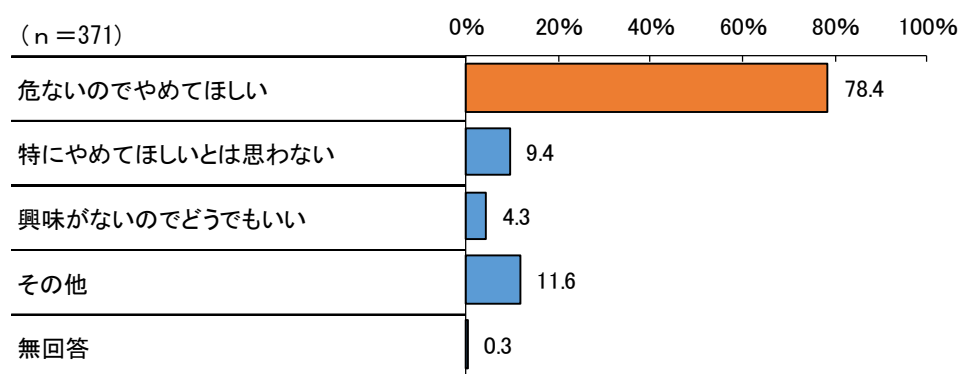
問 22 歩きスマホをしている人について、どう思いますか。(あてはまるものを全て選択)

歩きスマホをしている人については、「危ないのでやめてほしい」が 78.4%で最も高く、次いで「特にやめてほしいとは思わない」が 9.4%となっている。

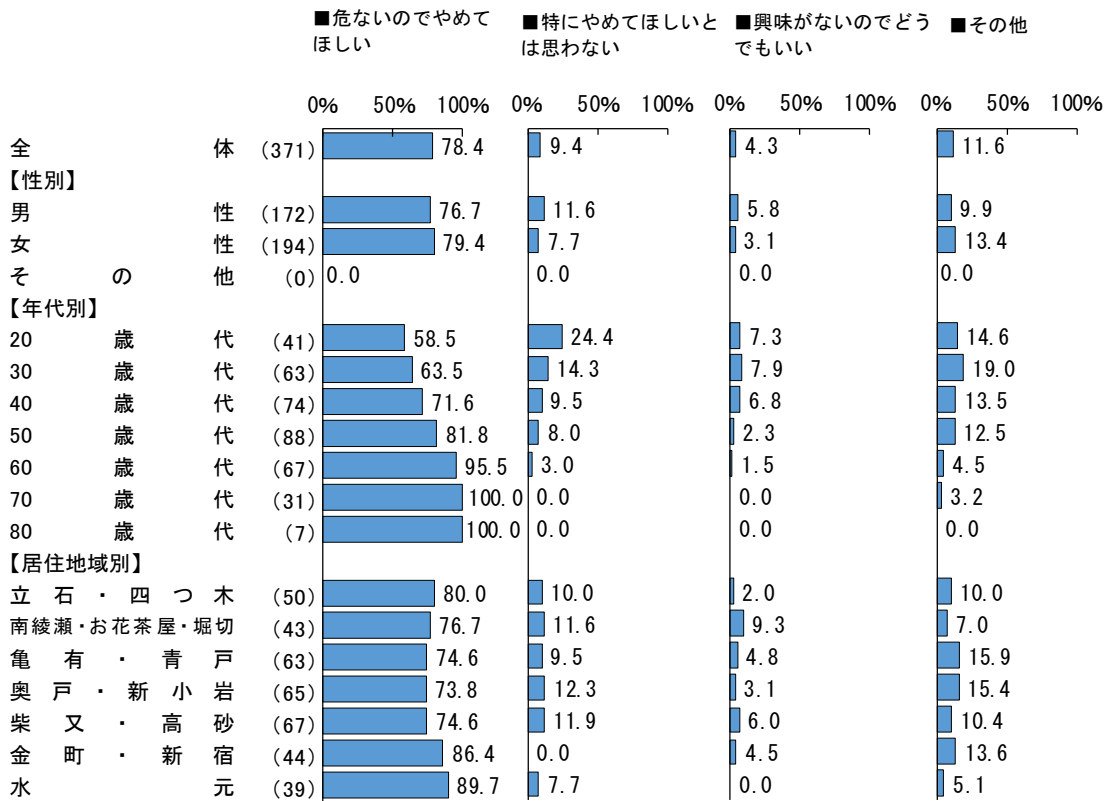
年代別でみると、「危ないのでやめてほしい」は、70 歳代、80 歳代が 100.0%で最も高くなっており、次いで 60 歳代が 95.5%、50 歳代が 81.8%となっており、年代が上がるにつれて高くなっていく傾向となっている。

「その他」の内容としては、「自分に近づいて来たときは避けるくらい」「周りに迷惑をかけないようにしてほしい」「危ないのでやめてほしいが、地図アプリなど必要な場合があるので難しいのではないか」などがあつた。

図表－43 歩きスマホをしている人について（全体）



図表-44 歩きスマホをしている人について  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



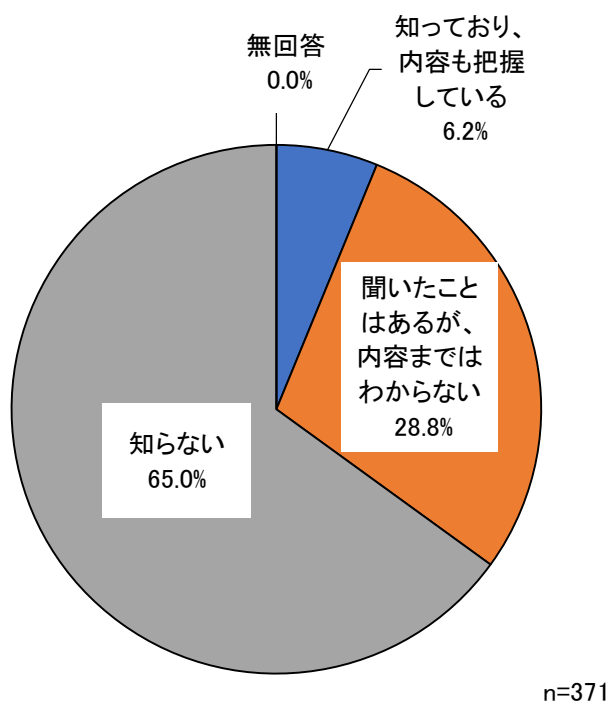
### (23)「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」の認知度

問 23 「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」を知っていますか。(1つ選択)

「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」の認知度については、「知らない」が 65.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容まではわからない」が 28.8%、「知っており、内容も把握している」が 6.2%となっている。

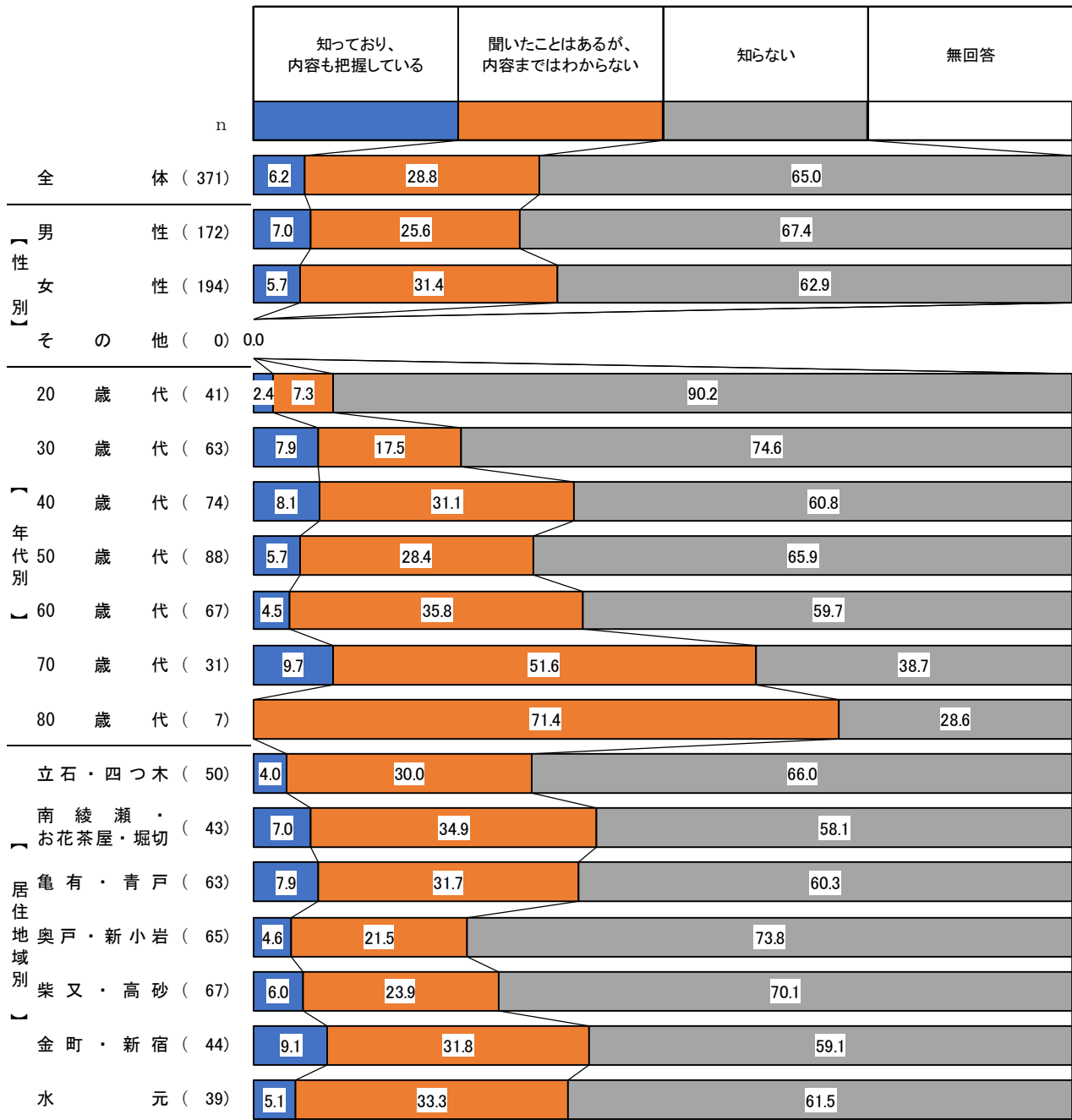
年代別でみると、「知っており、内容も把握している」は、70 歳代が 9.7%で最も高く、次いで 40 歳代が 8.1%、30 歳代が 7.9%となっている。

図表－45 「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」の認知度（全体）



図表－46 「葛飾区歩きスマホの防止に関する条例」の認知度  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



## (24) 条例をどのような手段で知ったか

問 24 問 23 で選択肢 1「知っており、内容も把握している」、選択肢 2「聞いたことはあるが、内容まではわからない」と答えた方に伺います。どのような手段で知りましたか。  
(あてはまるものを全て選択)

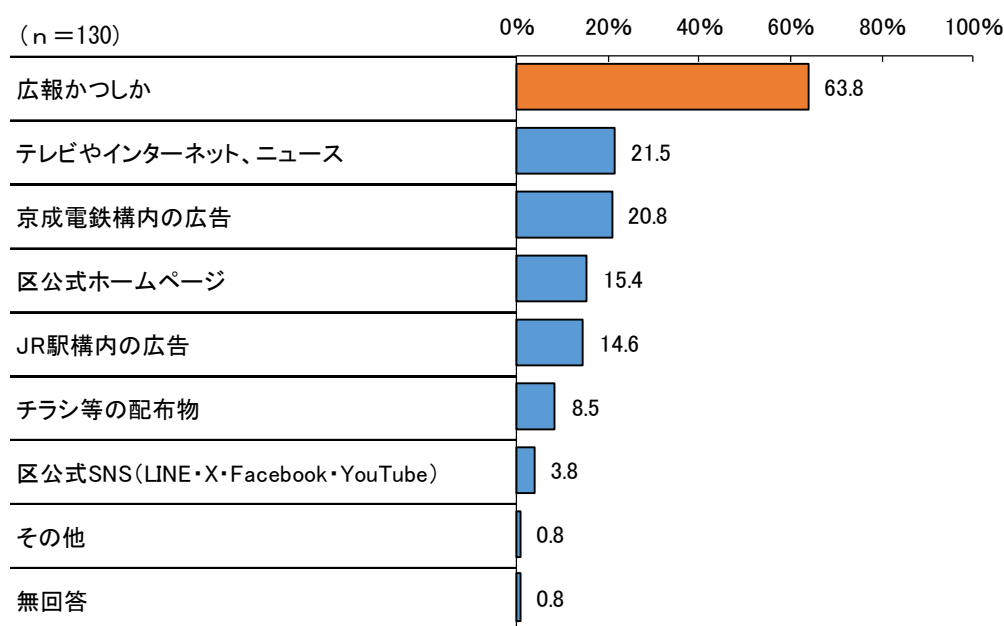
条例をどのような手段で知ったかについては、「広報かつしか」が 63.8%で最も高く、次いで「テレビやインターネット、ニュース」が 21.5%、「京成電鉄構内の広告」が 20.8%となっている。

性別でみると、「テレビやインターネット、ニュース」は、男性が 10.7%、女性が 29.2%で女性が男性の 3 倍程となっている。

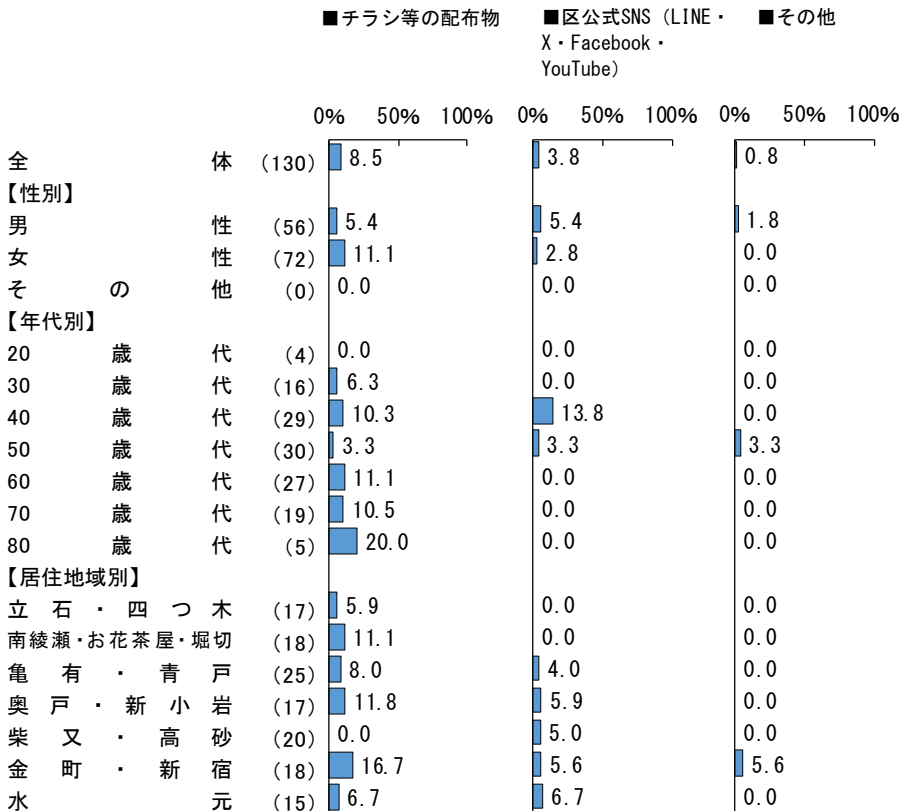
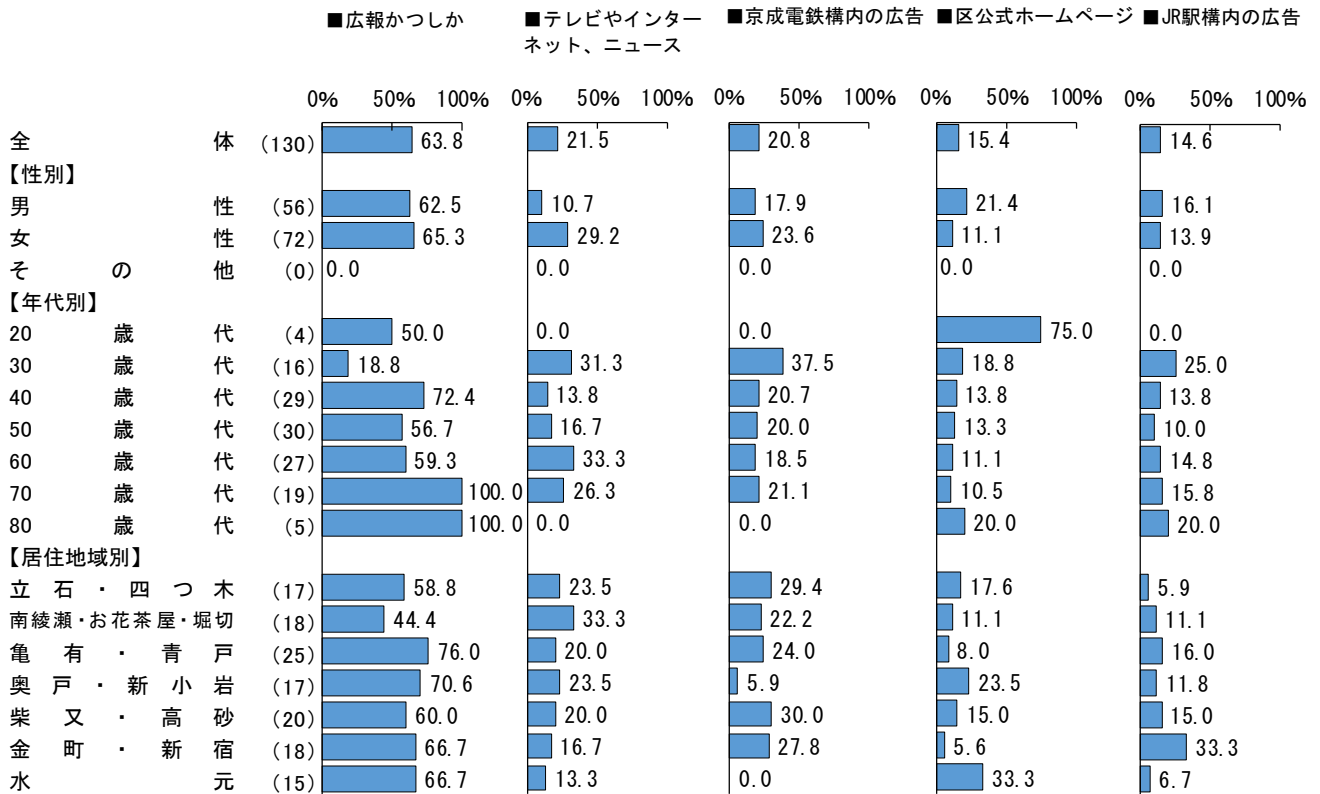
年代別でみると、「区公式ホームページ」は、20 歳代が 75.0%で最も高くなっており、他の年代では 2 割以下となっている。

居住地域別でみると、「広報かつしか」は南綾瀬・お花茶屋・堀切以外の全ての地域で 5 割以上と高くなっている。

図表－45 条例をどのような手段で知ったか（全体）



図表-46 条例をどのような手段で知ったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### 3. スポーツについて

現在葛飾区では、区民の皆様がスポーツに取り組むことができる環境整備に努めております。

アーバンスポーツやユニバーサルスポーツにどのように期待や要望をお持ちなのかを調査し、今後の参考とするため、区民モニターの皆様にご意見をお伺いします。

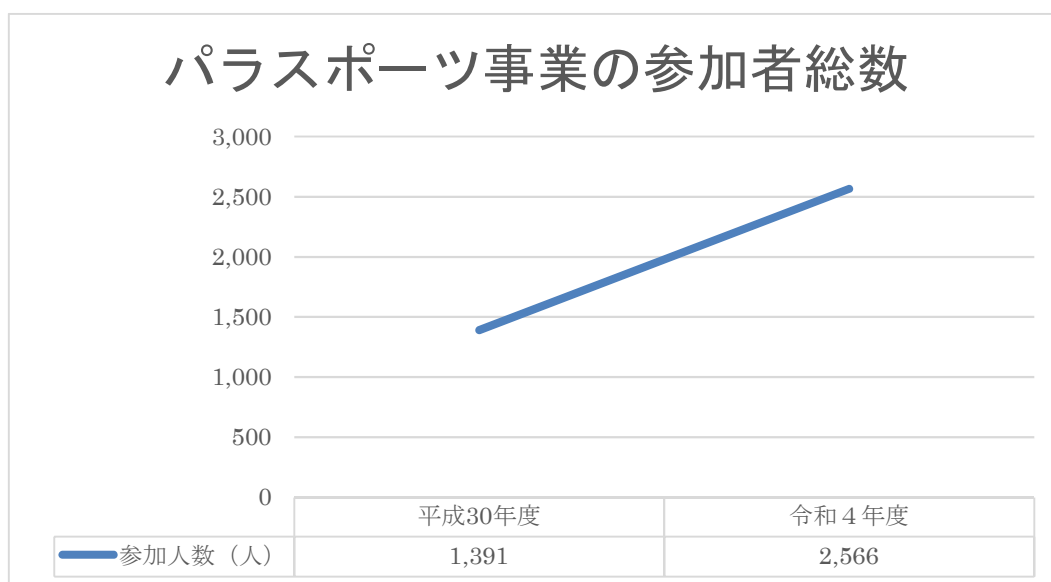
## スポーツ振興に向けた取組

本区では区民が安全で安心してスポーツができる場所や環境の整備をしています。

令和2年6月には東金町運動場スポーツライミングセンター、令和6年9月には東新小岩運動場を整備し、さらに、令和8年3月には小菅西公園内にスケートボード場をオープンする予定です。

既存のスポーツ施設の中には、開設から相当年数が経過している施設もあります。今後、改修工事などで利用できない施設が重ならないよう、また、財政的な負担が一時期に集中しないよう配慮しながら、計画的に改修等を進めてまいります。

更なる区民のスポーツ活動の促進に向けて、スポーツニーズを把握するにあたり、アーバンスポーツに対する期待や要望について調査し、今後の参考とするため、本調査を実施いたしました。



また、本区では障害のある方が運動に取り組める環境を整備するため、パラスポーツの普及を図ってまいりました。具体的には、トランポリンや水泳教室の実施、フロアホッケーやボッチャ等の開放事業を定期的を開催し、また、成果発表の場としてトランポリン大会を開催いたしました。これらの取り組みが功を奏し、パラスポーツ事業への参加者総数は、平成30年度から令和4年度にかけて、約2倍に増加しました。

今後、本区において共生社会を実現させていくためには、パラスポーツのみならず、障害の有無に関わらず、誰もが一緒に楽しめるユニバーサルスポーツを普及することで、障害のある方と健常な方が一緒にスポーツに取り組める環境を整えていく必要があります。

ユニバーサルスポーツの普及に向けて、現状どのような課題があるかを明らかにし、今後の施策検討の参考とするため、本調査を実施いたしました。

## (25) 経験したことがあるアーバンスポーツがあるか

問 25 次のうち競技や趣味等で経験したことがあるアーバンスポーツ※はありますか。(あてはまるものを全て選択) ※次の選択肢のような都市型スポーツのこと

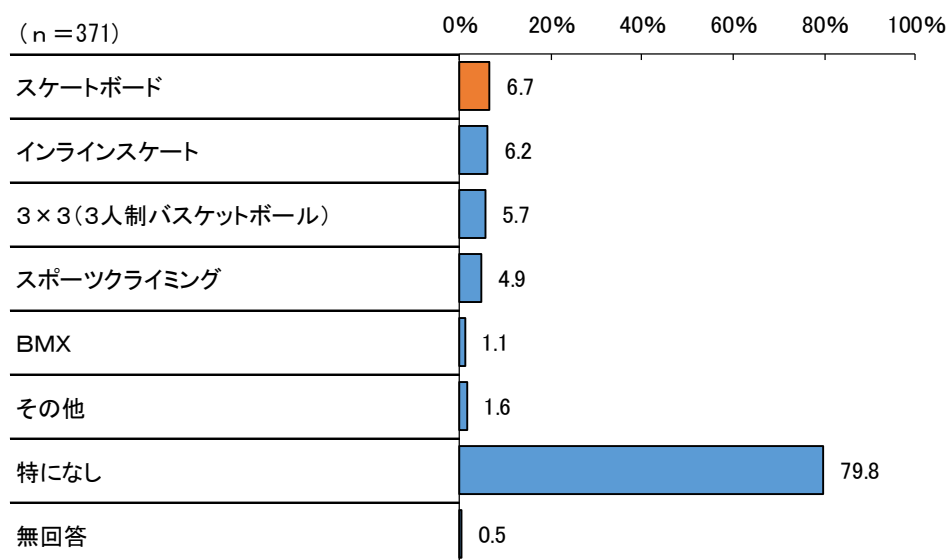
経験したことがあるアーバンスポーツがあるかについては、「スケートボード」が 6.7%で最も高く、次いで「インラインスケート」が 6.2%、「3×3 (3人制バスケットボール)」が 5.7%となっている。一方、「特になし」が 79.8%となっている。

性別でみると、「スケートボード」は、男性が 9.9%で女性の 3.6%より高くなっている。また、他のスポーツにおいても男性が女性を上回っている。

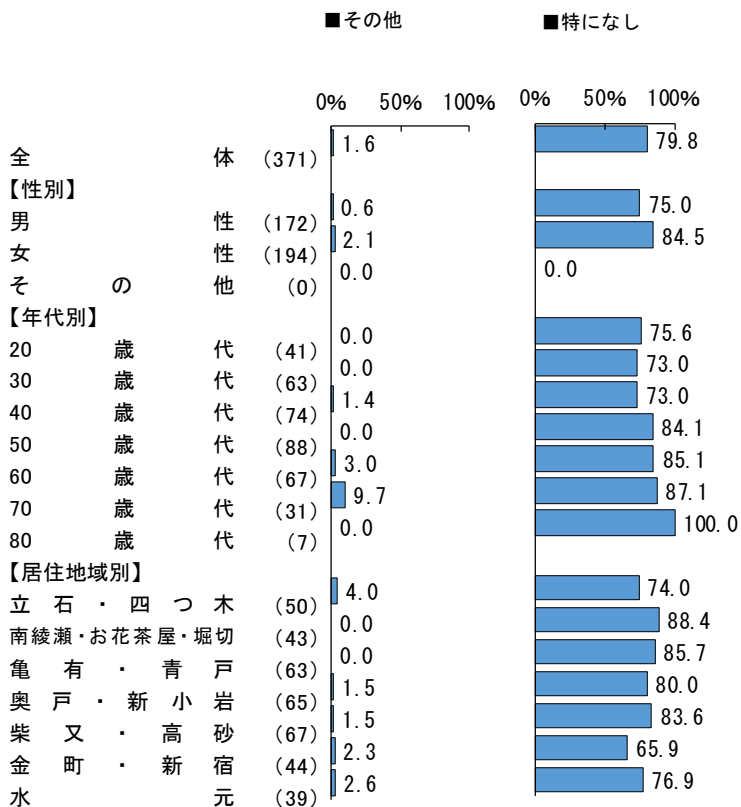
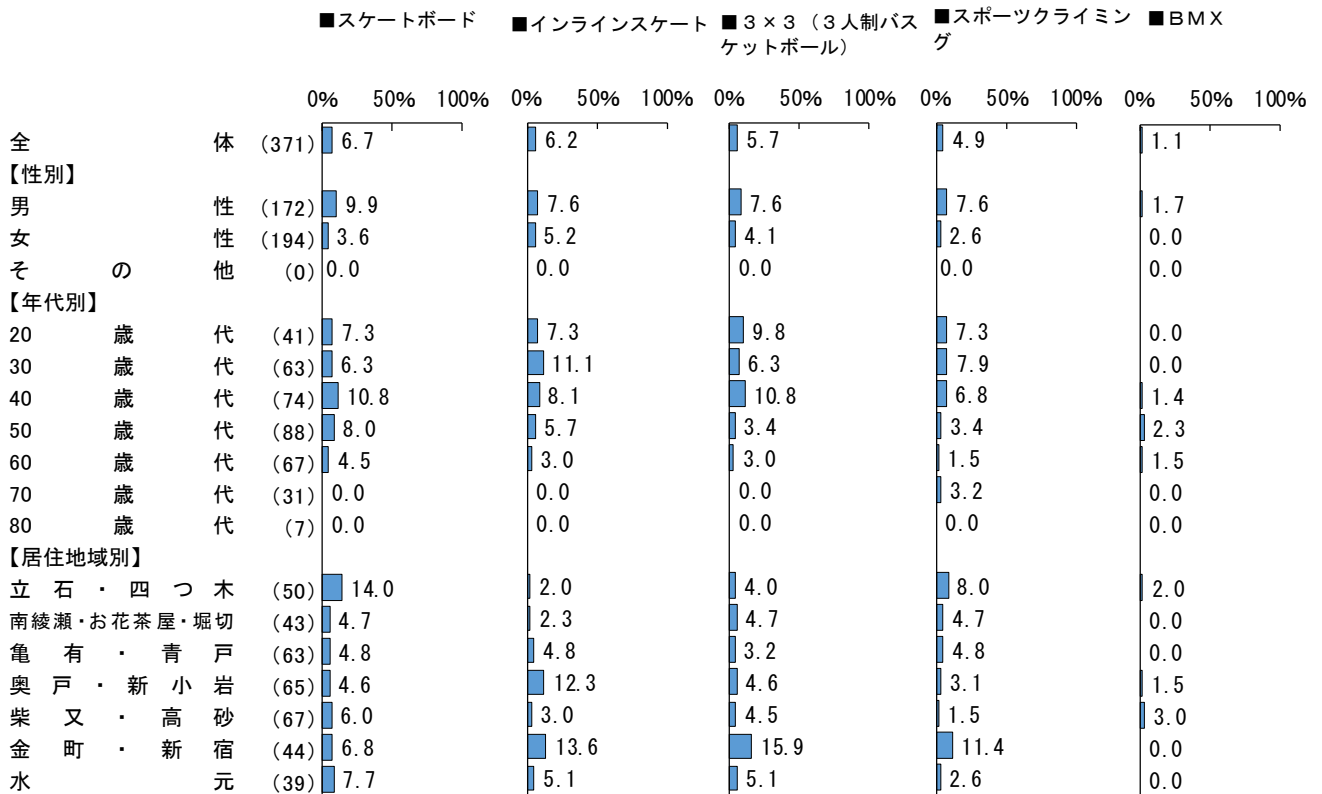
年代別でみると、「スケートボード」は、40 歳代が 10.8%で最も高くなっている。一方、「特になし」は、全ての年代で 7 割以上となっている。

居住地域別でみると、「スケートボード」は立石・四つ木が 14.0%と最も高くなっており、他の地域の約 2 倍と高くなっている。

図表－47 経験したことがあるアーバンスポーツがあるか（全体）



図表-48 経験したことがあるアーバンスポーツがあるか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (26) どの程度の頻度で取り組んでいるか

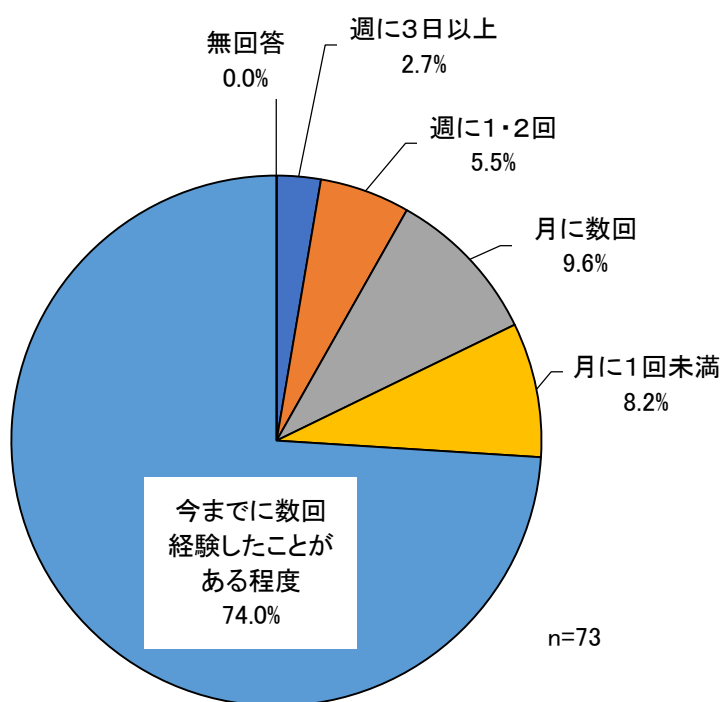
問 26 問 25 で選択肢 1～6「経験がある」を選択した方に伺います。 どの程度の頻度でアーバンスポーツに取り組んでいますか。(1つ選択)

どの程度の頻度で取り組んでいるかについては、「今までに数回経験したことがある程度」が 74.0%で最も高く、次いで「月に数回」が 9.6%、「月に1回未満」が 8.2%となっている。

性別でみると、「今までに数回経験したことがある程度」は、女性が 90.0%で男性の 63.4%より高くなっている。よって、「月に1回程度」以上取り組んでいる男性が多いことが分かる。

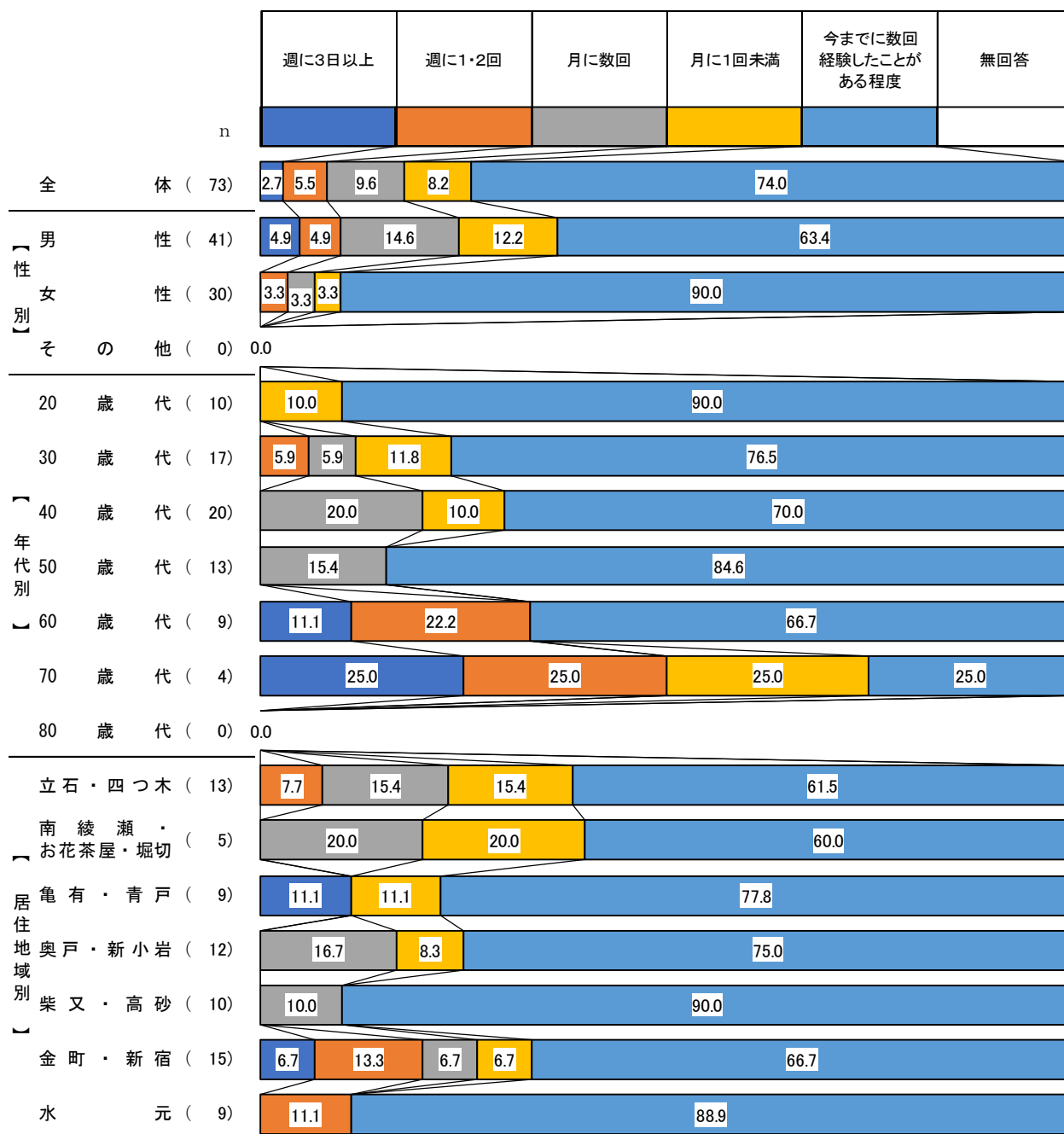
年代別でみると、「今までに数回経験したことがある程度」は、60 歳代以下の年代で 6 割以上となっている。

図表-49 どの程度の頻度で取り組んでいるか（全体）



図表－50 どの程度の頻度で取り組んでいるか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



## (27) アーバンスポーツの普及

問 27 問 25 で選択肢 7「特になし」と答えた方に伺います。アーバンスポーツに取り組んでみたいと思ってもらうためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものを全て選択）

アーバンスポーツの普及については、「家の近くに体験できる場所があること」が 68.6%で最も高く、次いで「幼いうちから体験する機会をつくること」が 55.1%、「体験教室などが積極的に開催されること」が 49.3%となっている。

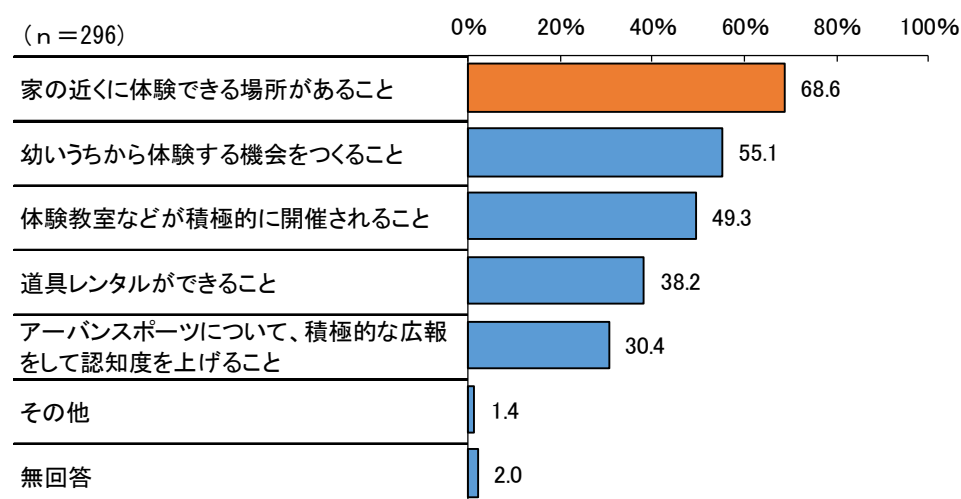
性別でみると、「体験教室などが積極的に開催されること」は、女性が 54.3%で男性の 42.6%より高くなっている。

年代別でみると、「家の近くに体験できる場所があること」は、50 歳代が 78.4%で最も高く、次いで 20 歳代が 77.4%、40 歳代が 72.2%となっており、70 歳代以外の代では 5 割以上となっている。

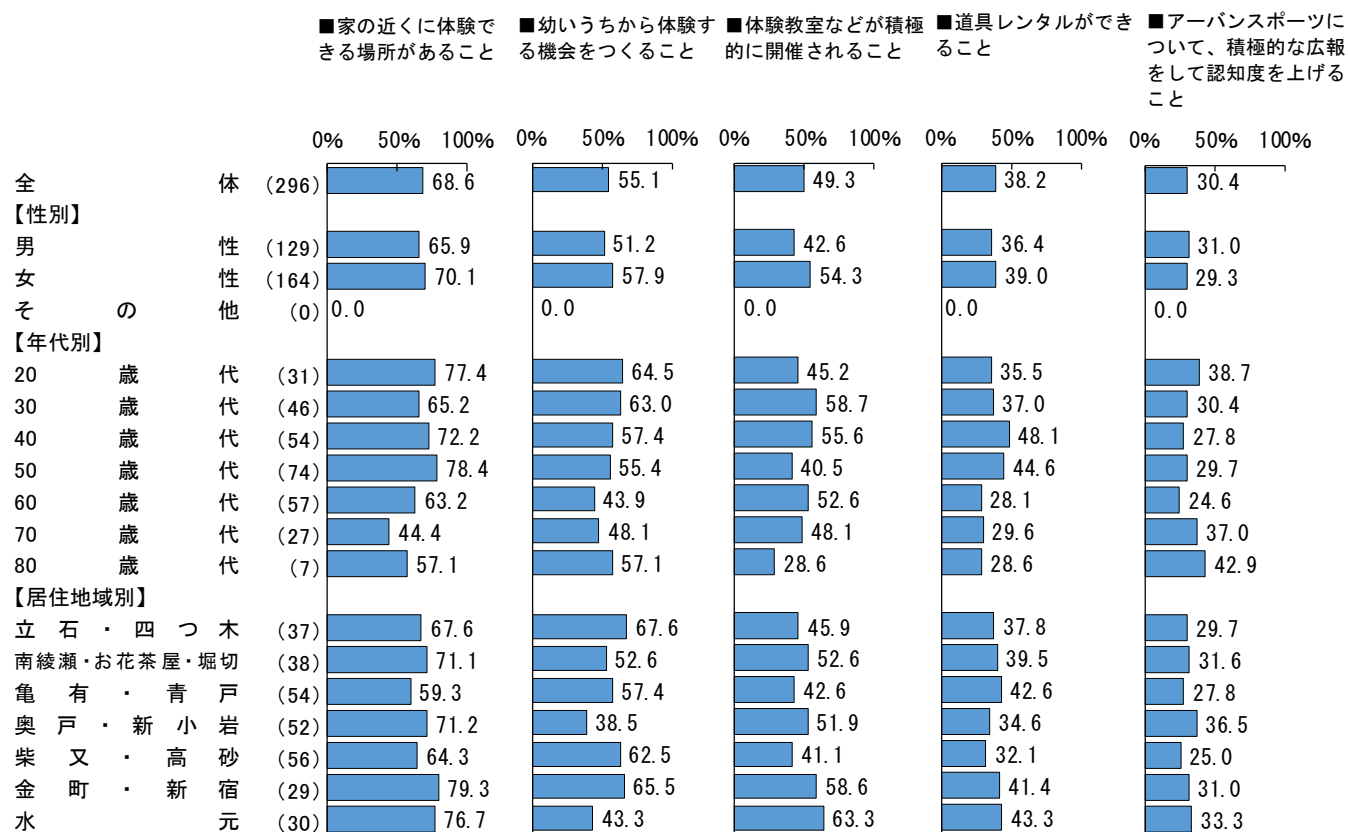
居住地域別でみると、「幼いうちから体験する機会をつくること」は、立石・四つ木が 67.6%で最も高く、一方で、奥戸・新小岩が 38.5%と最も低くなっている。「家の近くに体験できる場所があること」は、全ての地域において、約 6 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「無料」「アーバンスポーツという定義が意味ない」「年齢的にアーバンスポーツは無理があります」などがあつた。

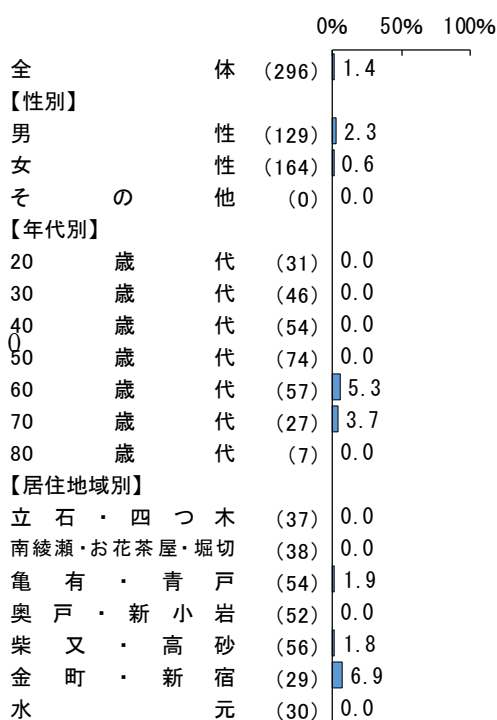
図表－51 アーバンスポーツの普及（全体）



図表-52 アーバンスポーツの普及  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



■その他



## (28) アーバンスポーツ施設は必要か

問 28 区内にアーバンスポーツ施設は必要だと感じますか。(1つ選択)

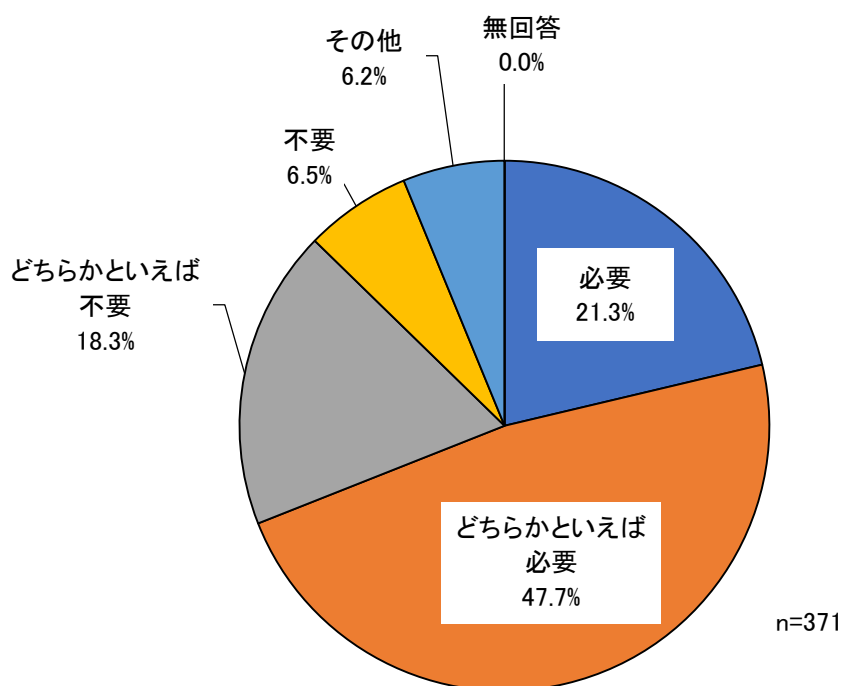
アーバンスポーツ施設は必要かについては、「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた【必要(計)】が69.0%となっている。一方、「どちらかといえば不要」と「不要」を合わせた【不要(計)】は、24.8%となっている。

性別でみると、【必要(計)】は、女性が72.7%で男性の65.1%より高くなっている。

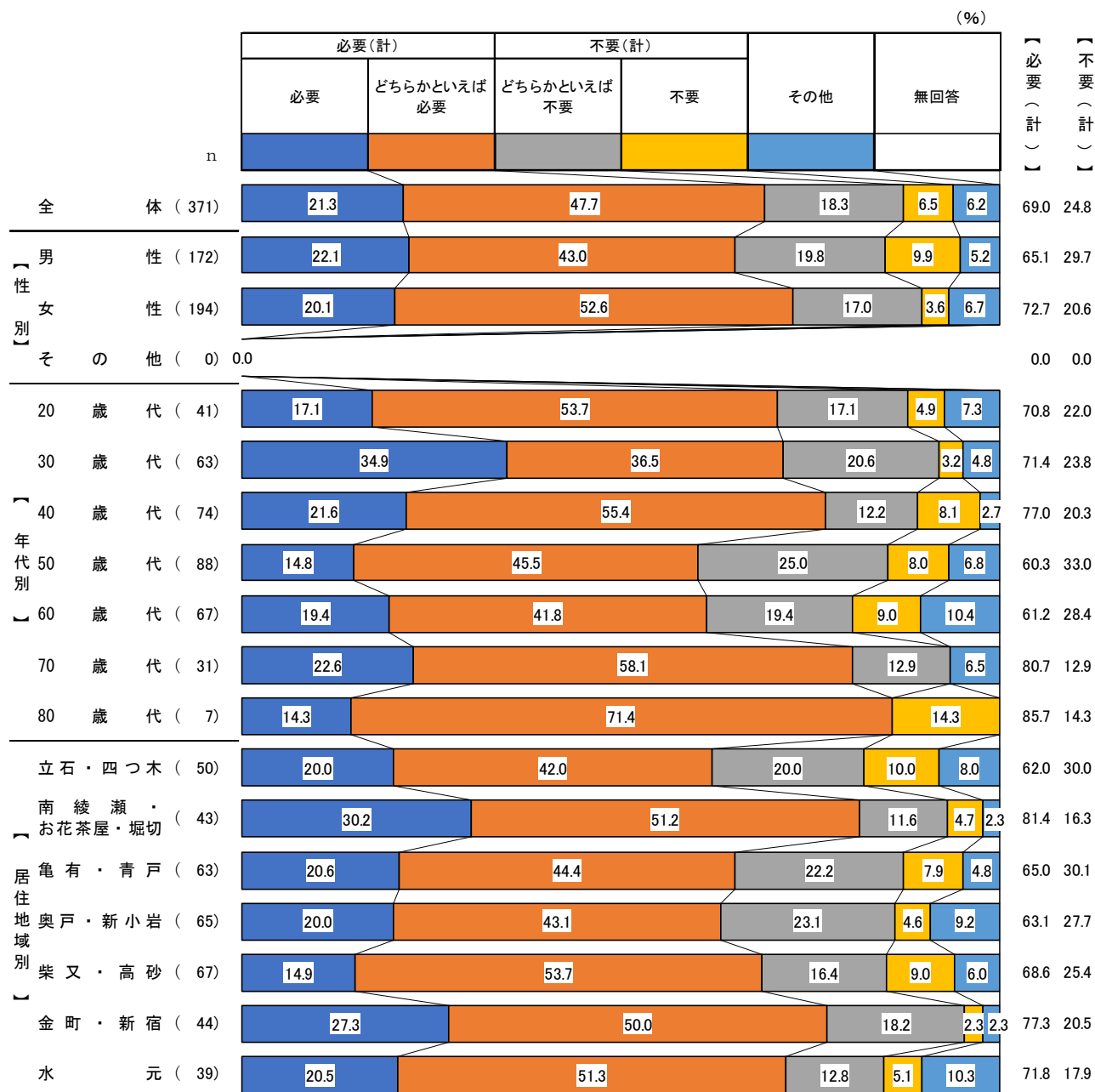
年代別でみると、【必要(計)】は、全ての年代で6割以上となっている。【不要(計)】は、50歳代で3割以上となっている。

居住地域別でみると、【必要(計)】は、全ての地域で6割以上となっている。【不要(計)】は、立石・四つ木と亀有・青戸で3割以上となっている。

図表-53 アーバンスポーツ施設は必要か (全体)



図表－54 アーバンスポーツ施設は必要か  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (29) どのスポーツが必要か

問 29 問 28 で選択肢 1 「必要」または選択肢 2 「どちらかといえば必要」と答えた方に伺います。

それはどのスポーツですか。(あてはまるものを全て選択)

どのスポーツが必要かについては、「スケートボード」が 65.6%で最も高く、次いで「スポーツクライミング」が 61.3%、「3×3 (3人制バスケットボール)」が 46.5%となっている。

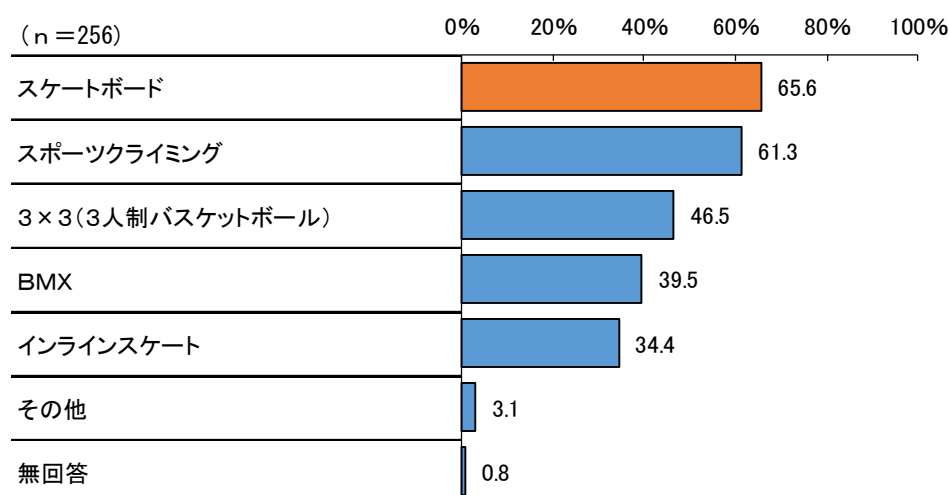
性別でみると、「インラインスケート」は、女性が 38.3%で男性の 28.6%より高くなっている。

年代別でみると、「スケートボード」は、全ての年代で6割以上となっている。また、「スポーツクライミング」は 80 歳代以外で5割以上となっている。

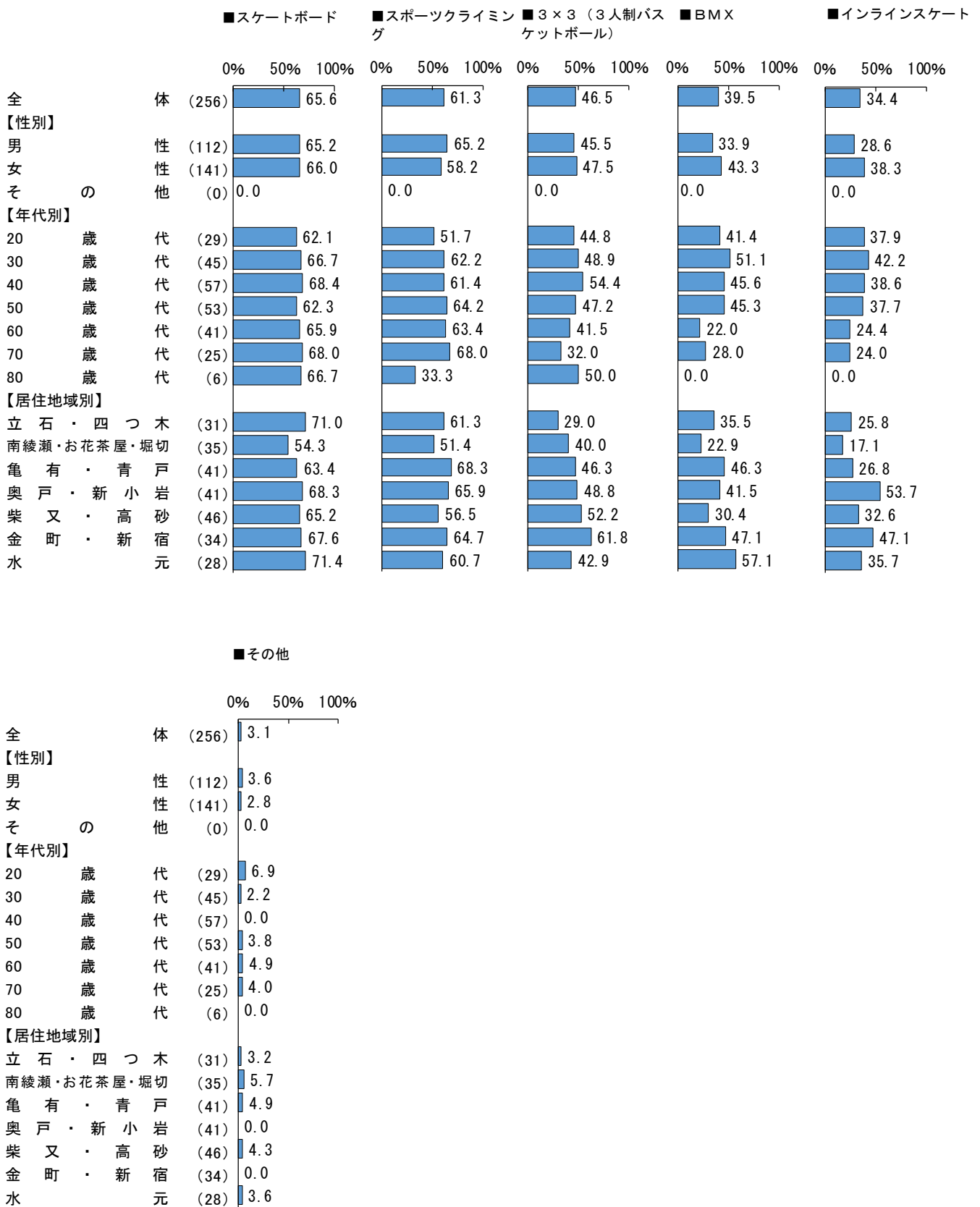
居住地域別でみると、「スケートボード」は、南綾瀬・お花茶屋・堀切を除く全ての地域で6割以上となっている。同様に「スポーツクライミング」も全ての地域で5割以上となっている。

「その他」の内容としては、「バドミントン」「大人と子供が一緒に出来るスポーツ」「特にこだわらない」などがあった。

図表-55 どのスポーツが必要か（全体）



図表-56 どのスポーツが必要か  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (30) 望ましい施設

問 30 問 28 で選択肢 1 「必要」または選択肢 2 「どちらかといえば必要」と答えた方に伺います。

区内にアーバンスポーツ施設ができるとしたら、どのような施設が望ましいですか。  
(あてはまるものを全て選択)

望ましい施設については、「初心者が気軽に始められる施設」が 94.5%で最も高く、次いで「上達するための練習ができる施設」が 43.0%、「プロが訪れ、大会が開催される施設」が 26.6%となっている。

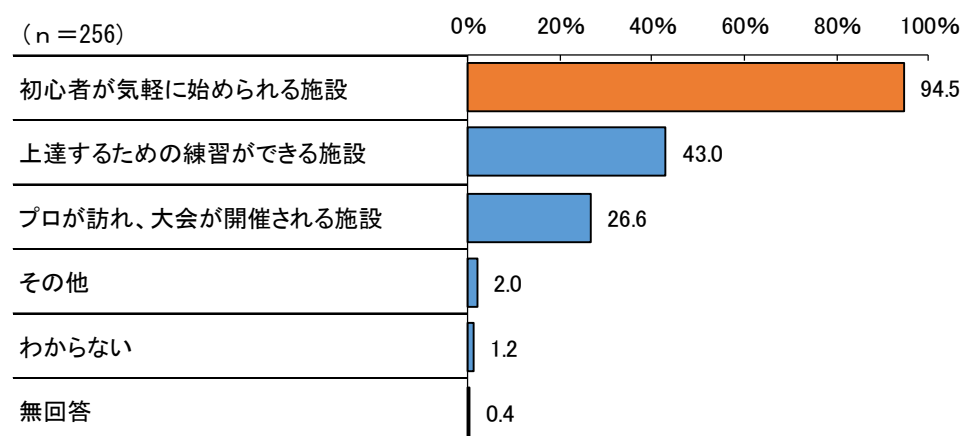
性別でみると、「初心者が気軽に始められる施設」は、男性が 96.4%で女性の 92.9%より高くなっている。

年代別でみると、「初心者が気軽に始められる施設」は、全ての年代で 8 割以上となっている。また、「上達するための練習ができる施設」は、40 歳代が 52.6%で最も高くなっており、一方で 80 歳代では 16.7%と低くなっている。

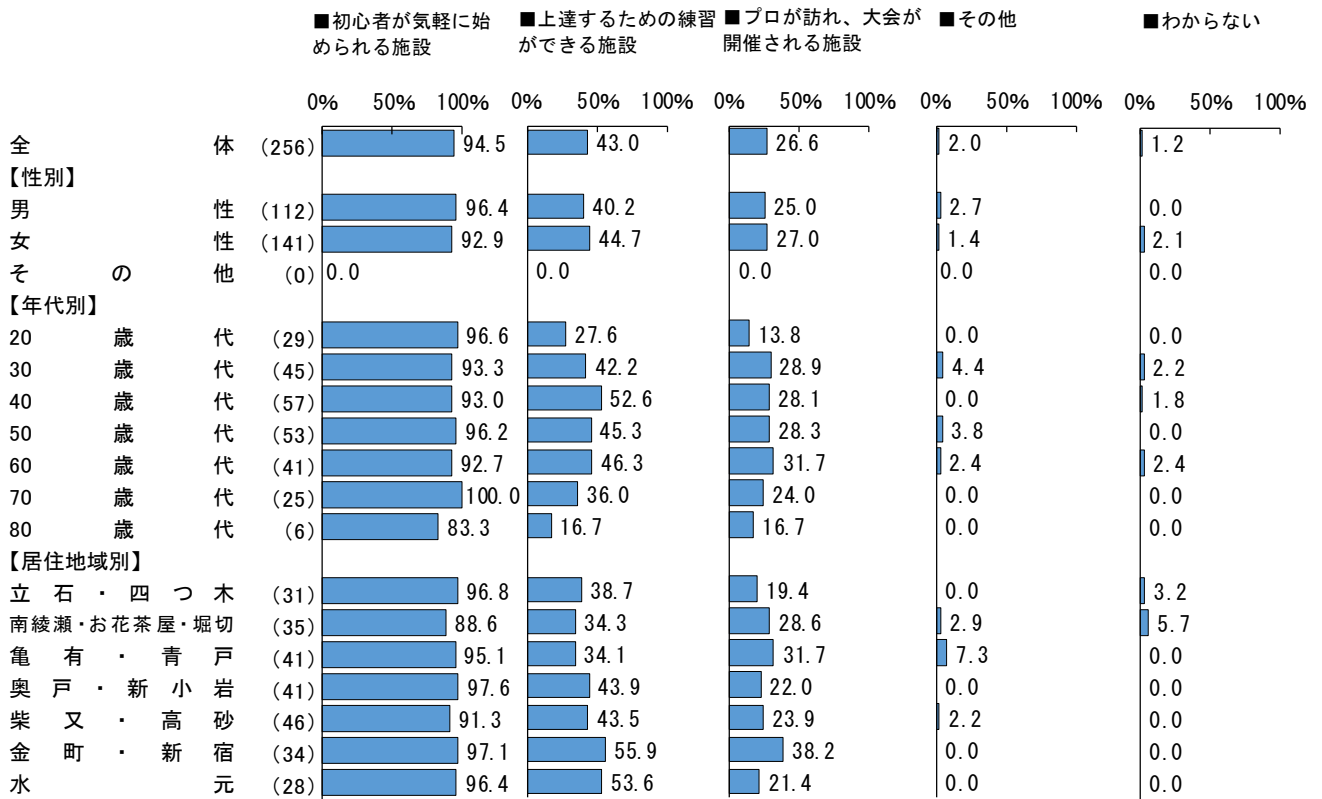
居住地域別でみると、「初心者が気軽に始められる施設」は、全ての地域で 8 割以上となっている。「上達するための練習ができる施設」は全ての地域で 3 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「幅広い年齢で利用できるもの」「料金面や治安面で誰もが使える施設」「周囲の安全性が確保される施設」などがあった。

図表－57 望ましい施設（全体）



図表－58 望ましい施設  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (31) 不要だと感じる理由

問 31 問 28 で選択肢 3 「どちらかといえば不要」または選択肢 4 「不要」と答えた方に伺います。

不要だと感じる理由を教えてください。(あてはまるものを全て選択)

不要だと感じる理由については、「アーバンスポーツに興味がないから」が 60.9%で最も高く、次いで「騒音が発生しそうだから」が 23.9%、「アーバンスポーツに対して良くないイメージがあるから」が 7.6%となっている。

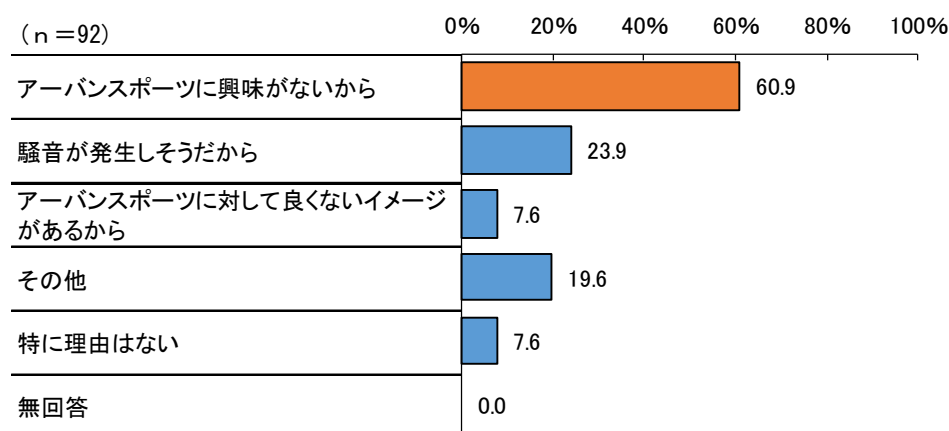
性別でみると、「アーバンスポーツに対して良くないイメージがあるから」は、男性が 11.8%で女性の 2.5%より高くなっている。

年代別でみると、「アーバンスポーツに興味がないから」は、40 歳代を除く全ての年代で 5 割以上となっている。

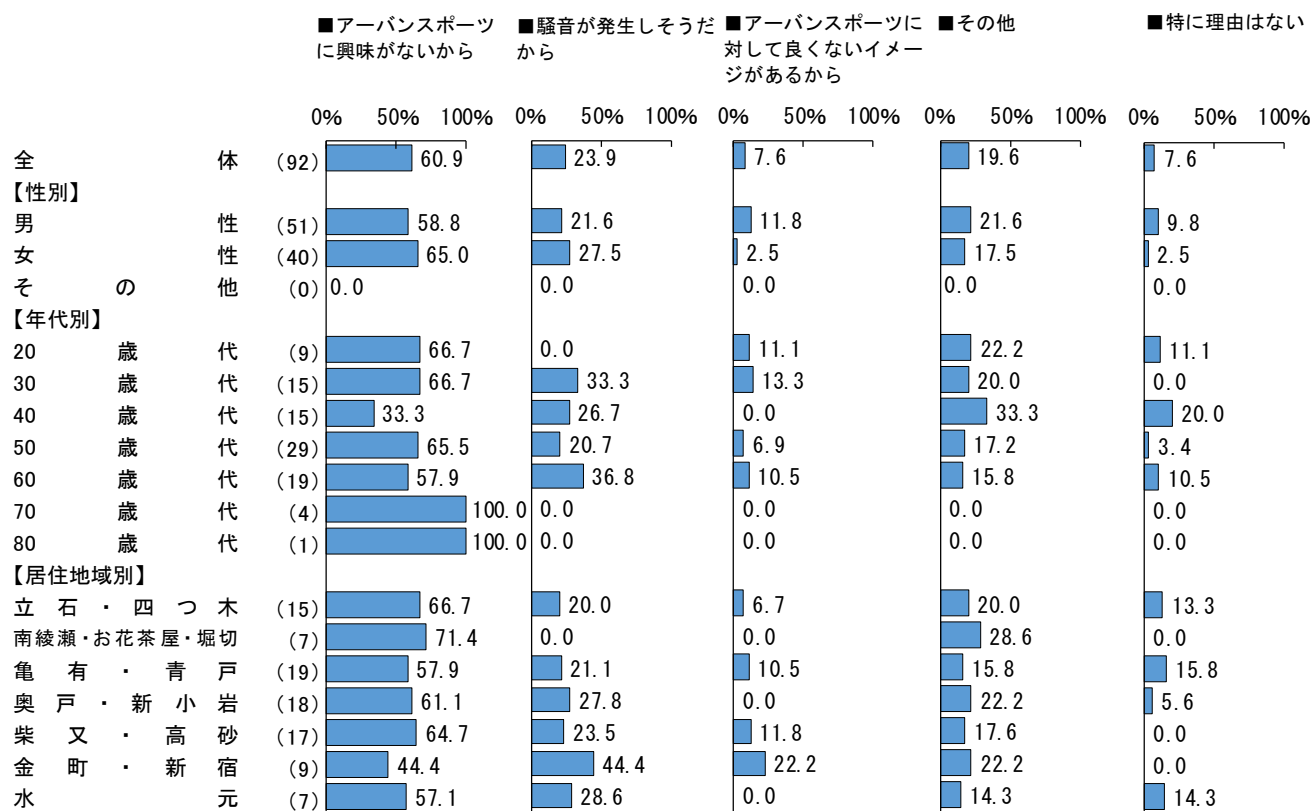
居住地域別でみると、「アーバンスポーツに興味がないから」は、金町・新宿以外の全ての地域で 5 割以上となっている。「騒音が発生しそうだから」は金町・新宿で 44.4%と最も高くなっており、他の地域は 3 割以下となっている。

「その他」の内容としては、「維持費が高くかかりそう」「積極的に施設を作る理由が不明確」「日本古来の運動を普及させた方が良く考えるため」などがあった。

図表－59 不要だと感じる理由（全体）



図表－60 不要だと感じる理由  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (32) ユニバーサルスポーツの認知度

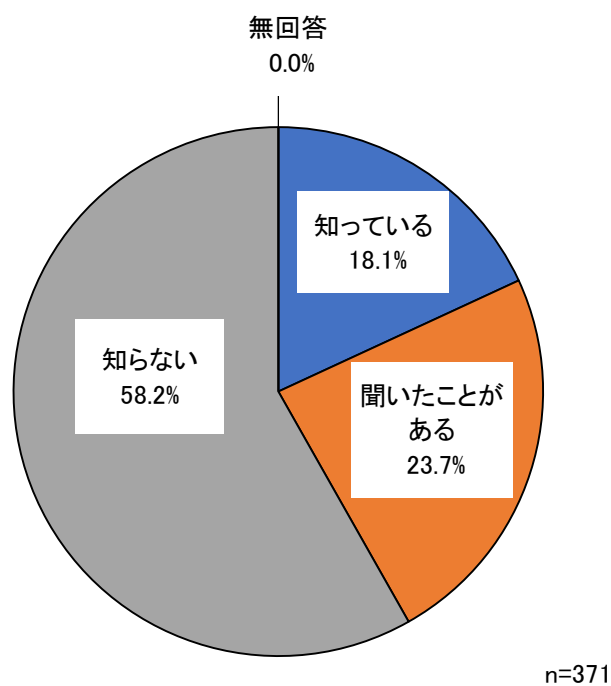
問 32 障害の有無やスポーツの得意・不得意等に関わらず、誰もが楽しめるスポーツであるユニバーサルスポーツを知っていますか。(1つ選択)

ユニバーサルスポーツの認知度については、「知っている」が 18.1%、「知らない」が 58.2%、「聞いたことはある」が 23.7%となっている。

性別でみると、「知らない」は、男性が 62.8%で女性の 55.2%より高くなっている。

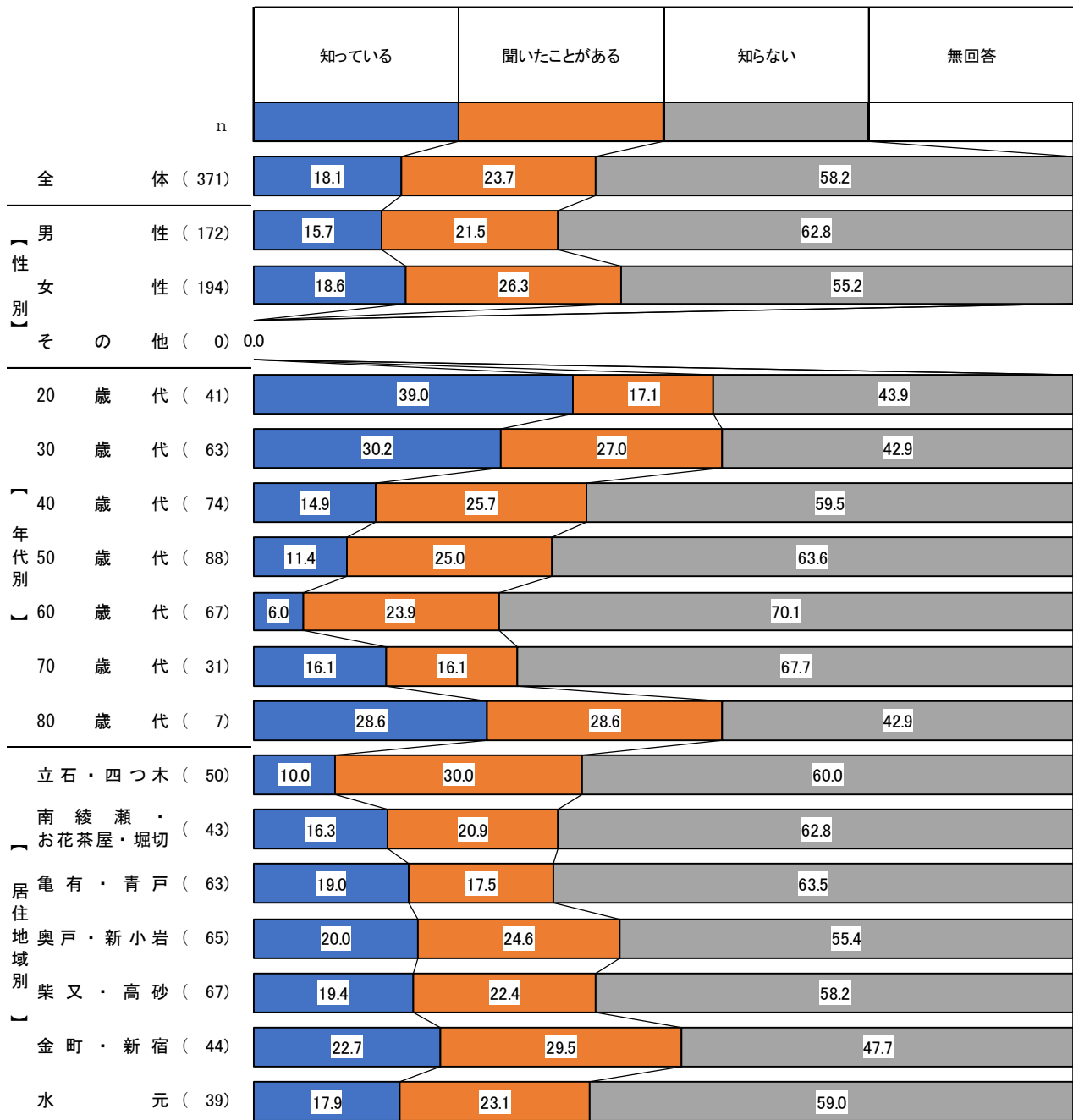
年代別でみると、「知っている」は、20 歳代で 39.0%と最も高く、次いで 30 歳代が 30.2%、80 歳代が 28.6%となっている。20 歳代から 60 歳代では、年代が上がるにつれて知っている割合が低くなる傾向にある。

図表-61 ユニバーサルスポーツの認知度（全体）



図表－62 ユニバーサルスポーツの認知度  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



### (33) ユニバーサルスポーツをどこで知ったか

問 33 問 32 で選択肢 1 「知っている」または選択肢 2 「聞いたことがある」と答えた方に伺います。

それはどこで知りましたか。(あてはまるものを全て選択)

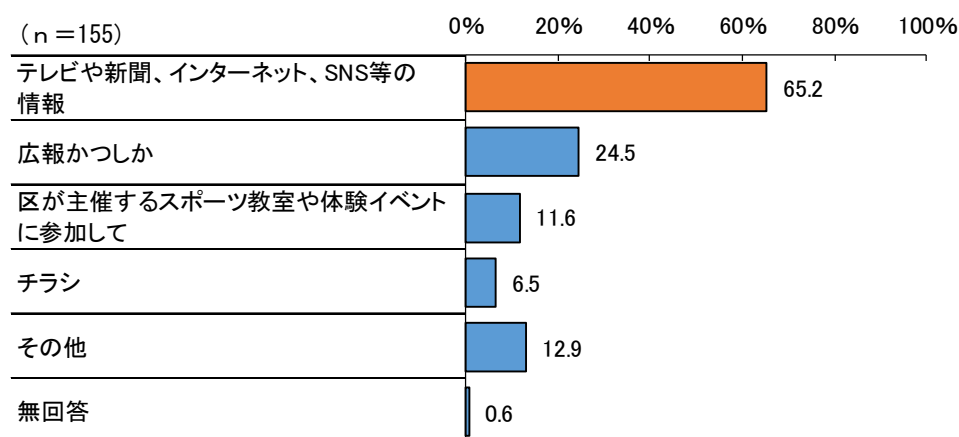
ユニバーサルスポーツをどこで知ったかについては、「テレビや新聞、インターネット、SNS 等の情報」が 65.2%で最も高く、次いで「広報かつしか」が 24.5%、「区が主催するスポーツ教室や体験イベントに参加して」が 11.6%となっている。

性別でみると、「区が主催するスポーツ教室や体験イベントに参加して」は、女性が 16.1%で男性の 6.3%より高くなっている。

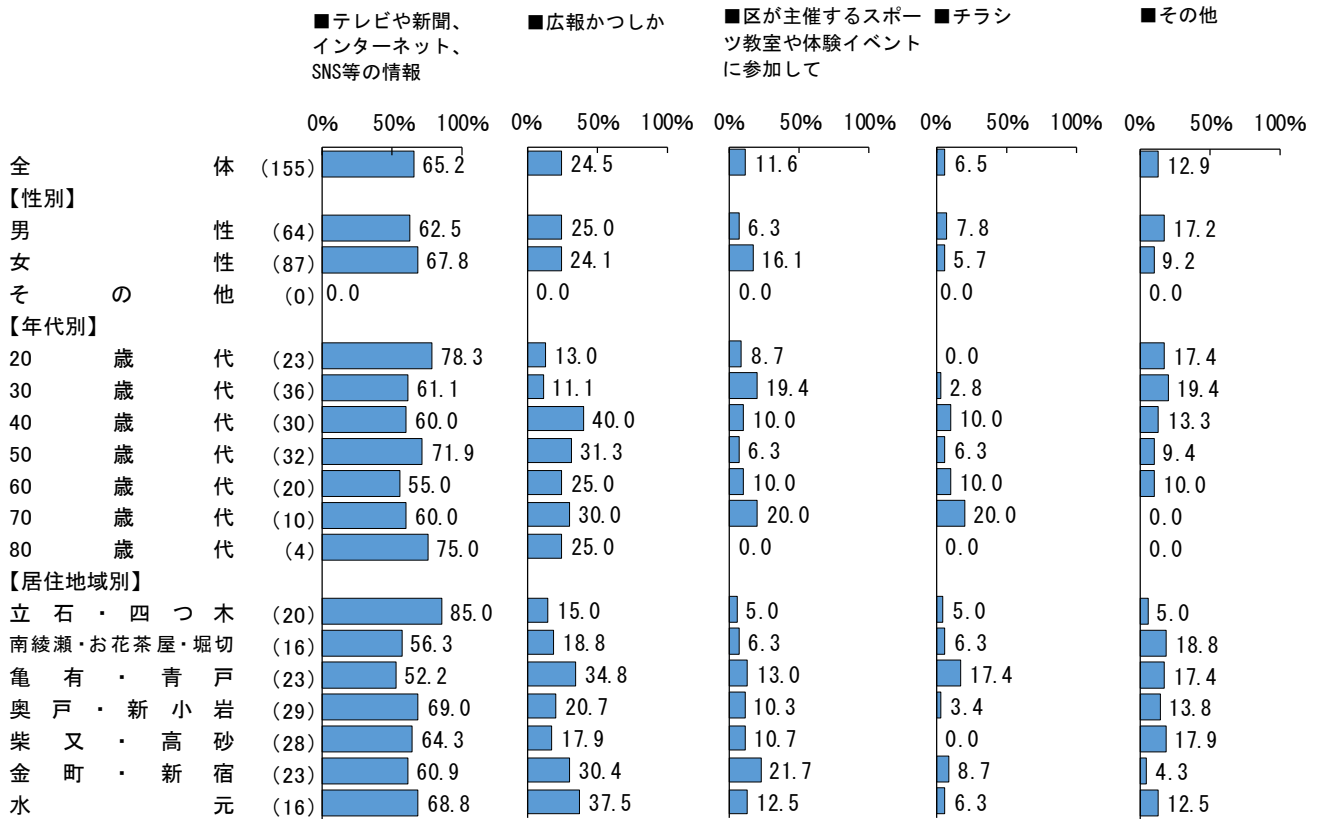
年代別でみると、「テレビや新聞、インターネット、SNS 等の情報」は、20 歳代で 78.3%と最も高く、次いで 80 歳代が 75.0%、50 歳代が 71.9%となっており、ほとんどの年代で 6 割以上となっている。「広報かつしか」は、20 歳代と 30 歳代以外の全ての年代で 25.0%以上なのに対し、20 歳代と 30 歳代では 13.0%以下となっている。

居住地域別でみると、「区が主催するスポーツ教室や体験イベントに参加して」は、金町・新宿が 21.7%と他の地域より割合が高くなっている。

図表-63 ユニバーサルスポーツをどこで知ったか（全体）



図表-64 ユニバーサルスポーツをどこで知ったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (34) ユニバーサルスポーツの認知のために必要なこと

問 34 問 32 で選択肢 3 「知らない」と答えた方に伺います。

ユニバーサルスポーツについて知ってもらうためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものを全て選択)

ユニバーサルスポーツの認知のために必要なことについては、「どんな競技があるか広報すること」が 63.0%で最も高く、次いで「身近な場所で行われていること」が 58.8%、「競技のルールや見どころについて広報すること」が 32.9%となっている。

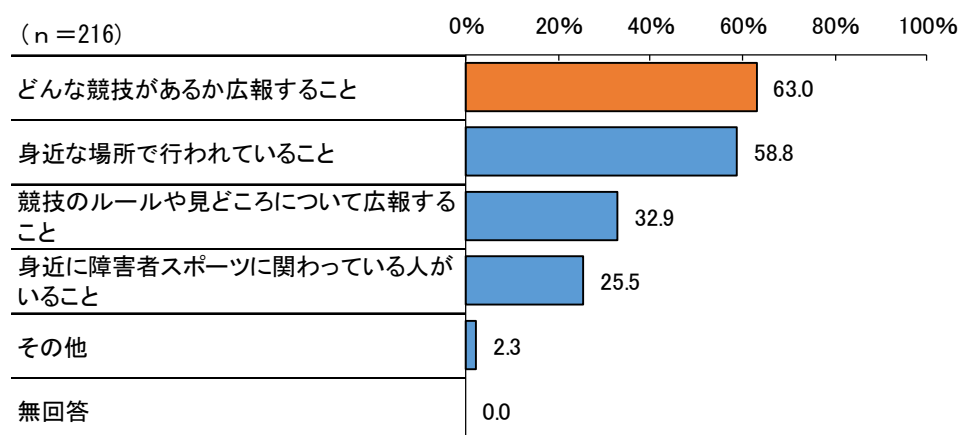
性別でみると、「どんな競技があるか広報すること」は、女性が 70.1%で男性の 55.6%より高くなっている。

年代別でみると、「身近な場所で行われていること」は、40 歳代が 72.7%で最も高く、次いで 20 歳代が 72.2%、30 歳代が 66.7%となっており、60 歳代以上の年代以外では 6 割以上となっている。

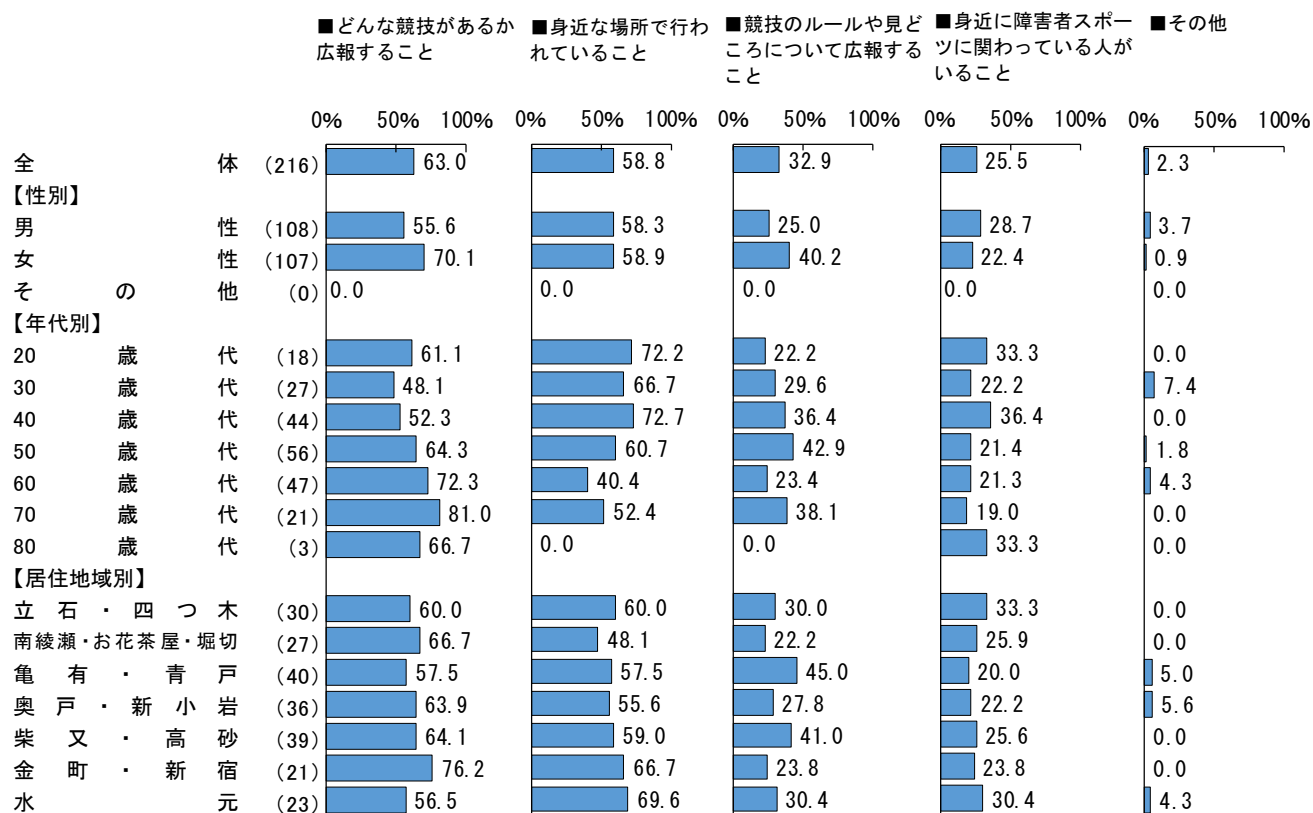
居住地域別でみると、「どんな競技があるか広報すること」は、全ての地域で 5 割以上となっている。「身近な場所で行われていること」は、南綾瀬・お花茶屋・堀切以外の全ての地域 5 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「ユニバーサルスポーツが何かを知らないので判断できない」「一緒に出来ることが特別なことではなく、ごく普通で当たり前のことだと周知すること」などがあつた。

図表－65 ユニバーサルスポーツの認知のために必要なこと（全体）



図表－66 ユニバーサルスポーツの認知のために必要なこと  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (35) 教室やイベントに参加したことがあるか

問 35 区ではユニバーサルスポーツの教室やイベントを多数開催しています。区が開催している教室やイベントに参加したことはありますか。(1つ選択)

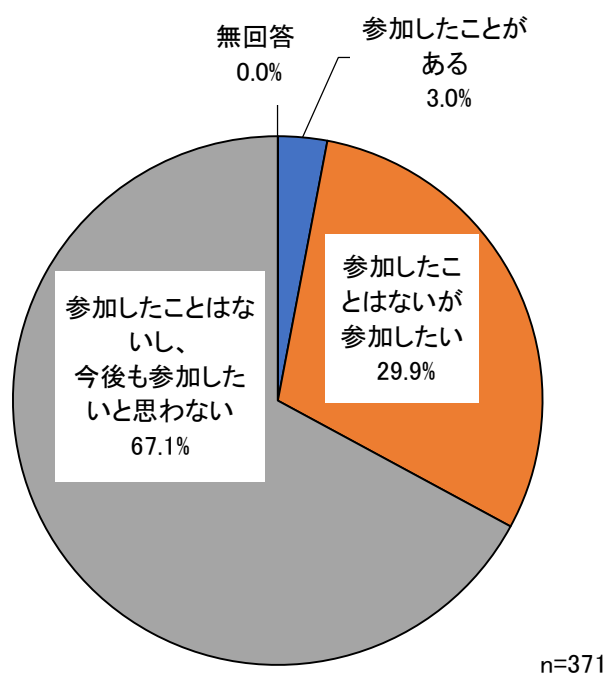
教室やイベントに参加したことがあるかについては、「参加したことがある」が3.0%、「参加したことはないが参加したい」が29.9%、「参加したことはないし、今後も参加したいと思わない」が67.1%と最も高くなっている。

性別でみると、「参加したことはないし、今後も参加したいと思わない」は、男性が75.6%で女性の60.3%より高くなっている。

年代別でみると、「参加したことはないし、今後も参加したいと思わない」は、60歳代が83.6%で最も高く、次いで70歳代が74.2%、50歳代が70.5%となっている。「参加したことがある」は、30歳代が9.5%と最も高く、他の年代の約2倍となっている。

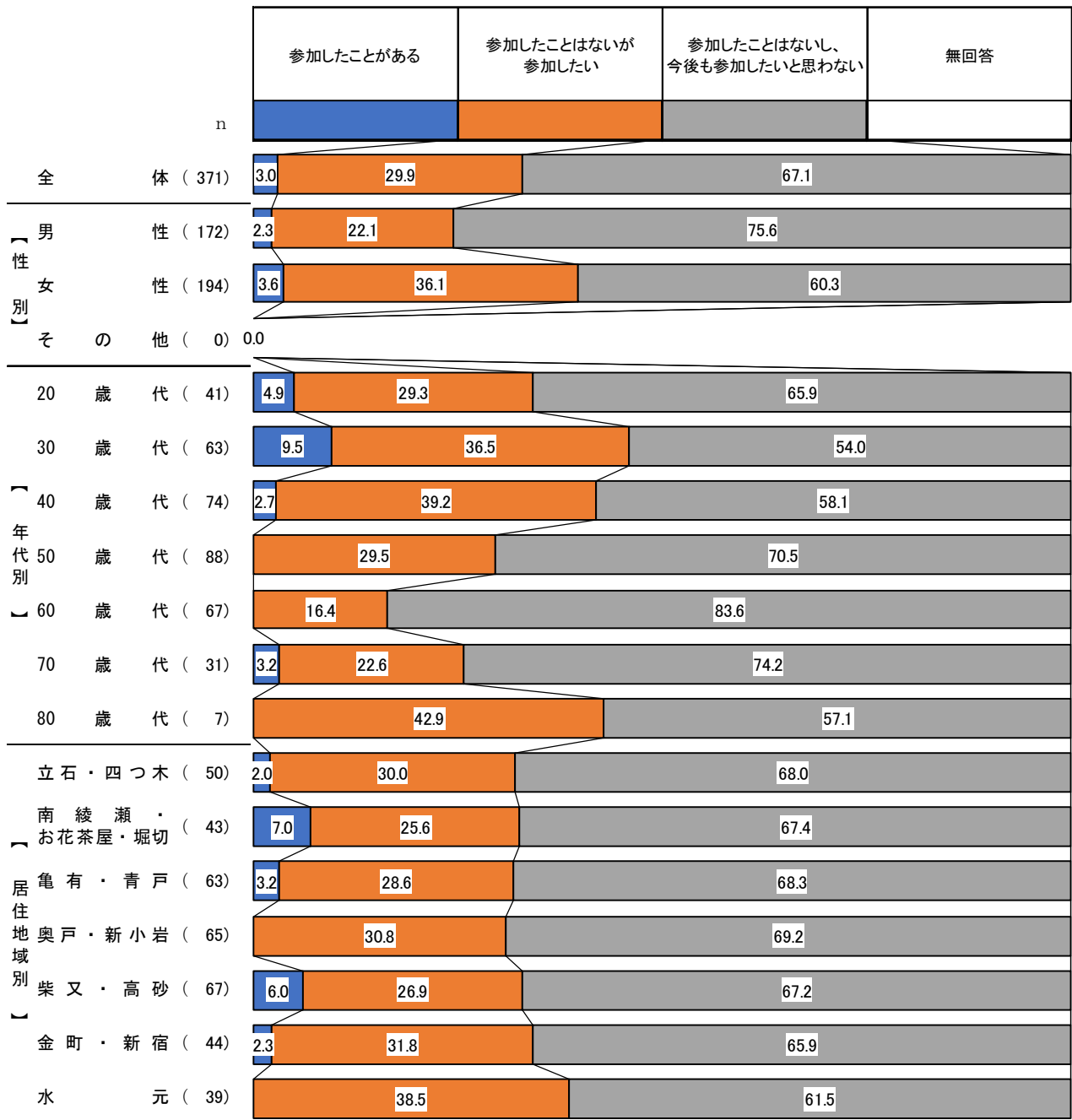
居住地域別でみると、「参加したことはないし、今後も参加したいと思わない」は、全ての地域で6割以上となっている。

図表-67 教室やイベントに参加したことがあるか（全体）



図表－68 教室やイベントに参加したことがあるか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



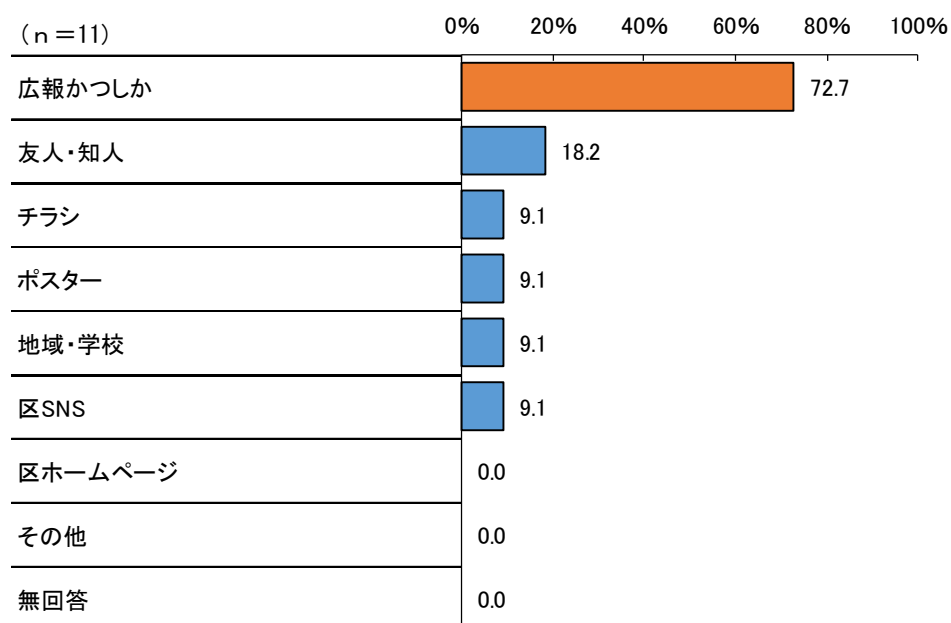
### (36) 教室やイベントをどこで知ったか

問 36 問 35 で選択肢 1 「参加したことがある」と答えた方に伺います。

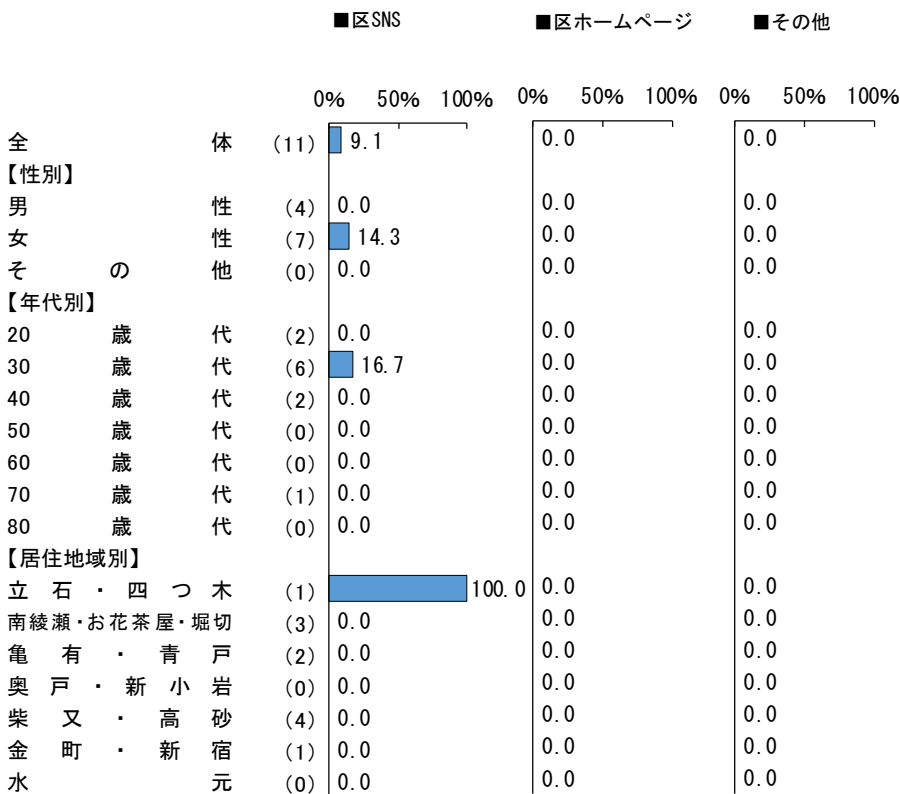
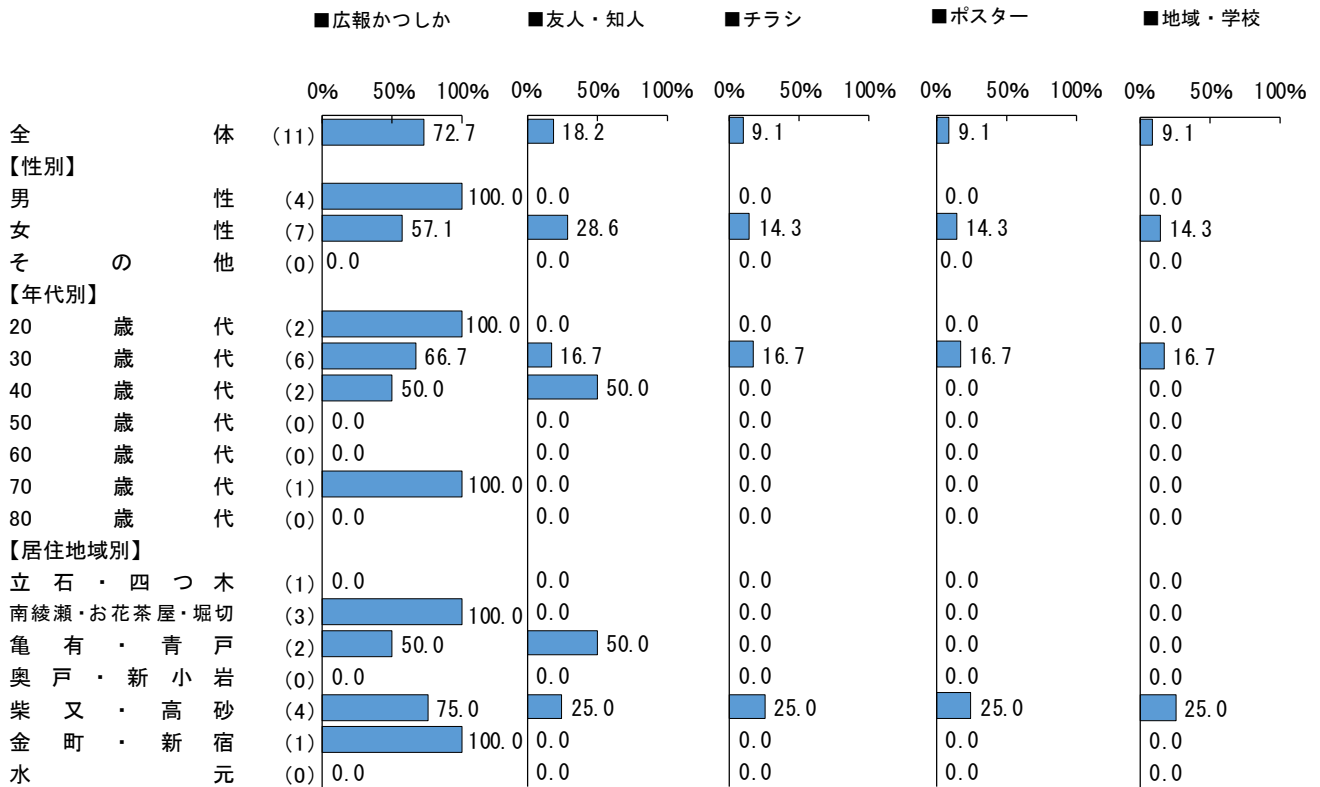
教室やイベントについて、どちらで知りましたか。(あてはまるものを全て選択)

教室やイベントをどこで知ったかについては、「広報かつしか」が 72.7%で最も高く、次いで「友人・知人」が 18.2%、「チラシ」と「ポスター」、「地域・学校」、「区 SNS」が 9.1%となっている。性別でみると、「広報かつしか」は、男性が 100.0%で女性の 57.1%より高くなっている。年代別でみると、「広報かつしか」は回答した全ての年代で 5 割以上となっている。また、地域別でみても、「広報かつしか」は、回答した全ての地域で 5 割以上となっている。

図表－69 教室やイベントをどこで知ったか（全体）



図表-70 教室やイベントをどこで知ったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (37) どのようにすれば参加しやすいか

問 37 問 35 で選択肢 2「参加したことはないが参加したい」と答えた方に伺います。  
 どのようにすれば参加しやすいと思いますか。（あてはまるものを全て選択）

どのようにすれば参加しやすいかについては、「誰でも気軽に参加できる教室やイベントが開催されていること」が 77.5%で最も高く、次いで「身近な施設で開催されていること」が 76.6%、「教室やイベントの情報が積極的に発信されていること」が 48.6%となっている。

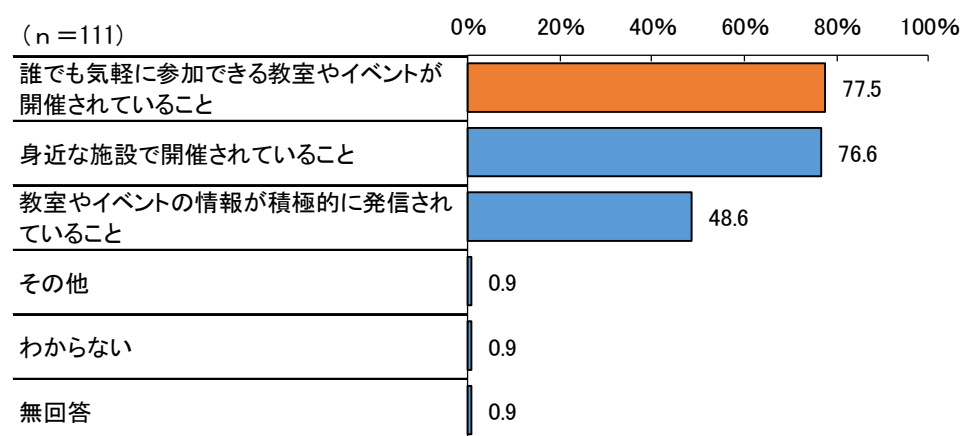
性別でみると、「誰でも気軽に参加できる教室やイベントが開催されていること」は、女性が 84.3%で男性の 65.8%より高くなっている。

年代別でみると、「教室やイベントの情報が積極的に発信されていること」は、70 歳代が 85.7%で最も高く、次いで 50 歳代が 57.7%、60 歳代が 54.5%となっており、ほとんどの年代で 5 割以上となっている。「身近な施設で開催されること」は、70 歳代以外の全ての年代で 6 割以上となっている。

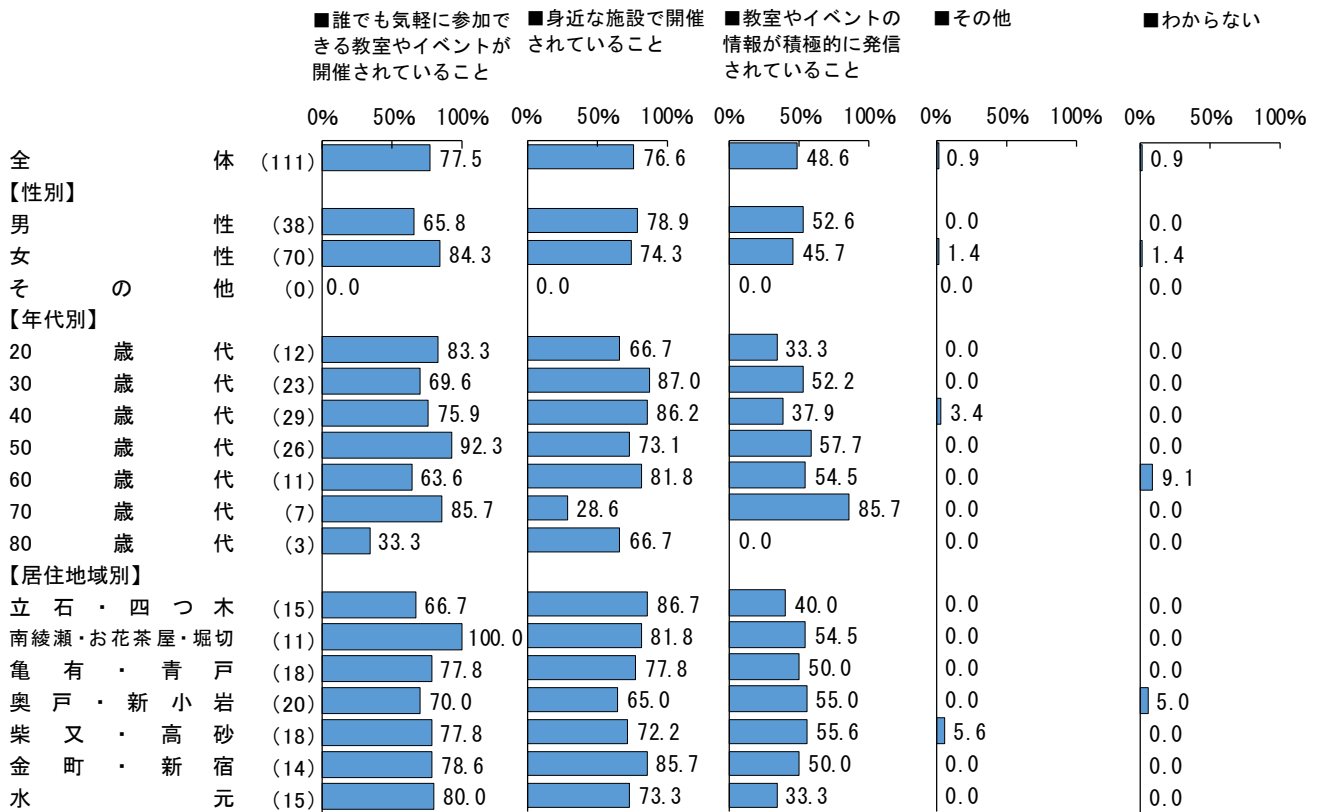
居住地域別でみると、「誰でも気軽に参加できる教室やイベントが開催されていること」は、全ての地域で 6 割以上となっている。同様に「身近な施設で開催されること」も全ての地域で 6 割以上となっている。

「その他」の内容としては、「障害がある方向けのイメージが強く、あってもなくても誰でも、と感じられると参加しやすいと思う」などがあつた。

図表－71 どのようにすれば参加しやすいか（全体）



図表-72 どのようにすれば参加しやすいか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



### (38) デフリンピックの認知度

問 38 2025 年 11 月に東京でデフリンピックが開催されます。あなたはデフリンピックについて知っていますか。(1つ選択)

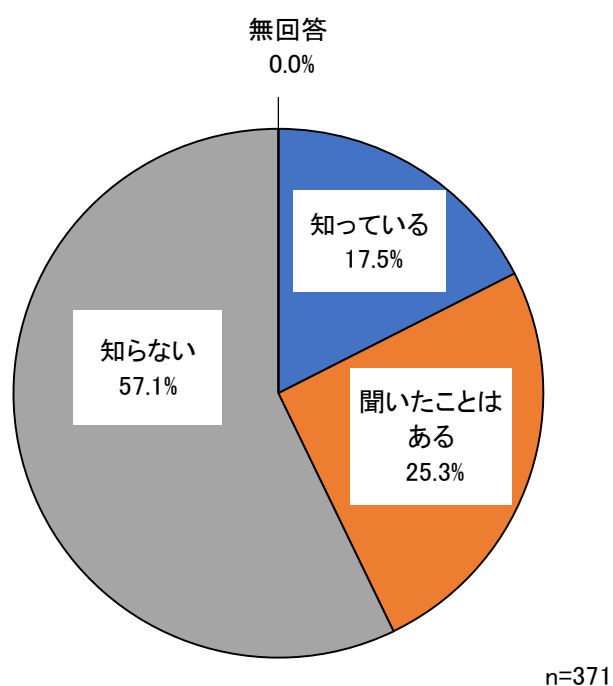
デフリンピックの認知度については、「知っている」が 17.5%、「知らない」が 57.1%、「聞いたことはある」が 25.3%となっている。

性別でみると、「聞いたことはある」は、男性が 26.7%で女性の 23.2%より高くなっている。

年代別でみると、「知らない」は、全ての年代で 5 割以上となっている。

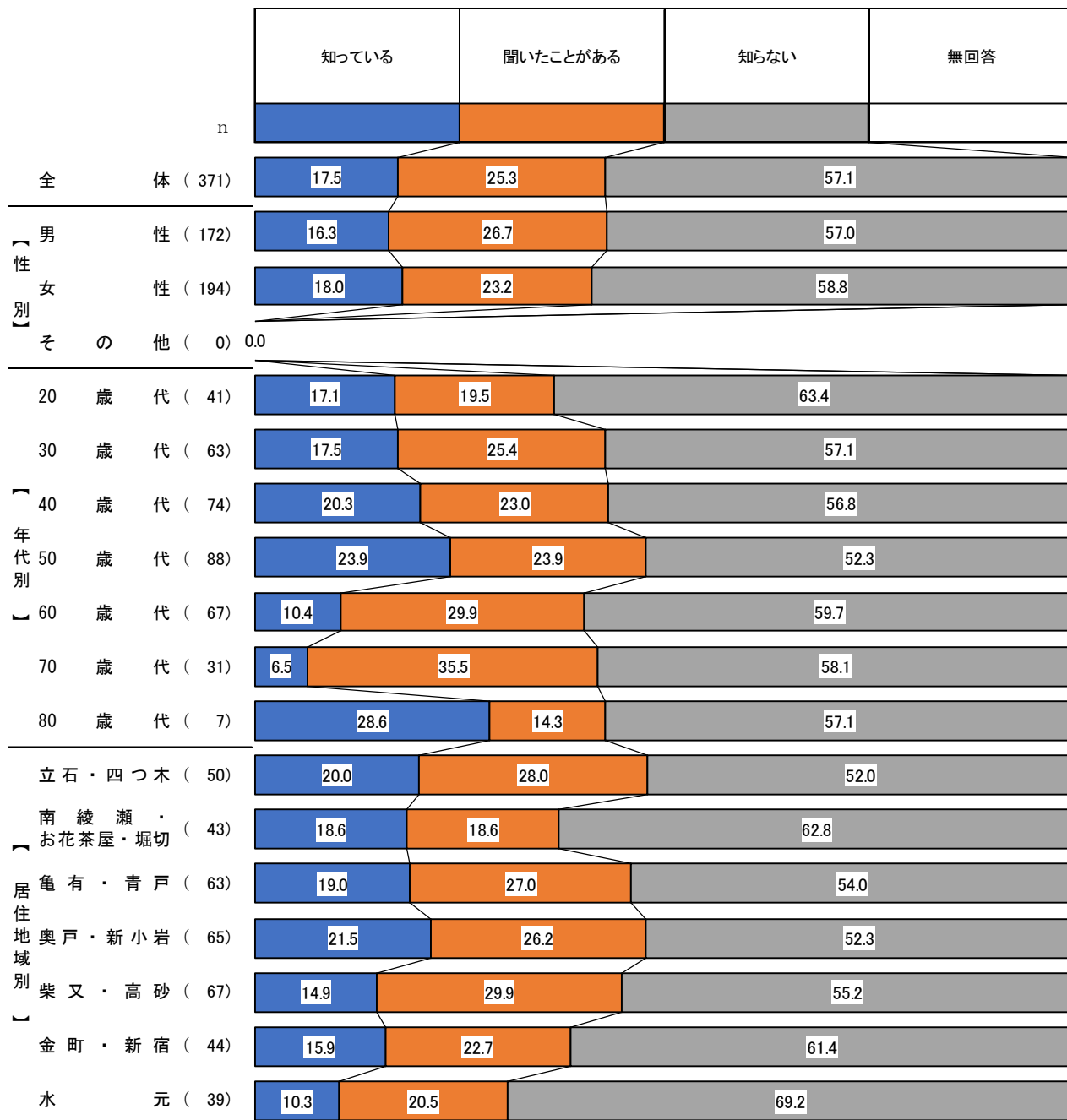
居住地域別でみると、「知っている・聞いたことがある」は、立石・四つ木が 48.0%と最も高く、次いで奥戸・新小岩が 47.7%となっている。一方、水元は 30.8%と最も低くなっている。

図表-73 デフリンピックの認知度（全体）



図表-74 デフリンピックの認知度  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



#### 4. 区民モニター調査について

区では、区民の皆様のご意見を伺い区政運営の参考とするため、区民モニター調査を実施しております。

任期満了にあたり、今後の本調査をより有意義なものにするため、区民モニターの皆様のご意見を伺います。

##### (39) 回答に際してどのような機器を使用しているか

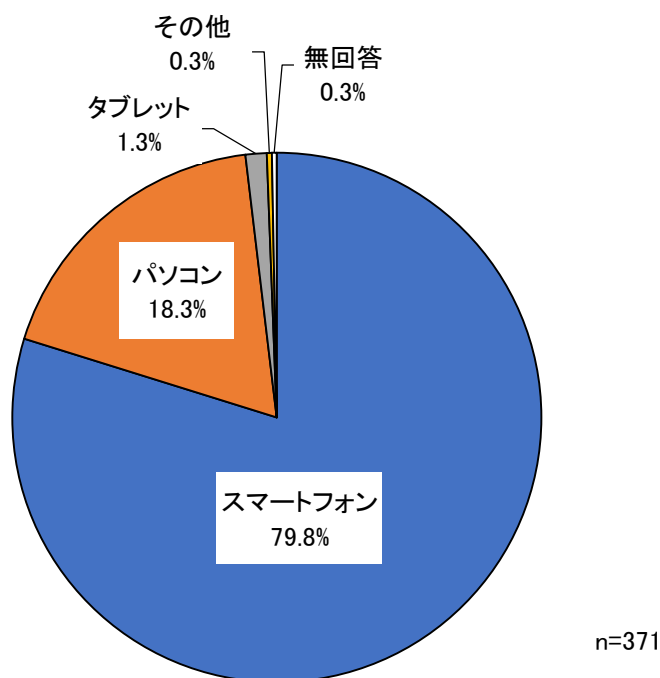
問 39 回答に際しては、主にどのような機器を使用していますか。(1つ選択)

回答に際してどのような機器を使用しているかについては、「スマートフォン」が79.8%で最も高く、次いで「パソコン」が18.3%、「タブレット」が1.3%となっている。

年代別でみると、「スマートフォン」は、40歳代以下の年代で8割以上となっており、50歳代から70歳代までは、年代が上がるにつれてスマートフォンの割合が低くなっている。また、「パソコン」は、50歳代を境に下の年代は1割以下だが、上の年代は2割以上と2倍以上の差となった。

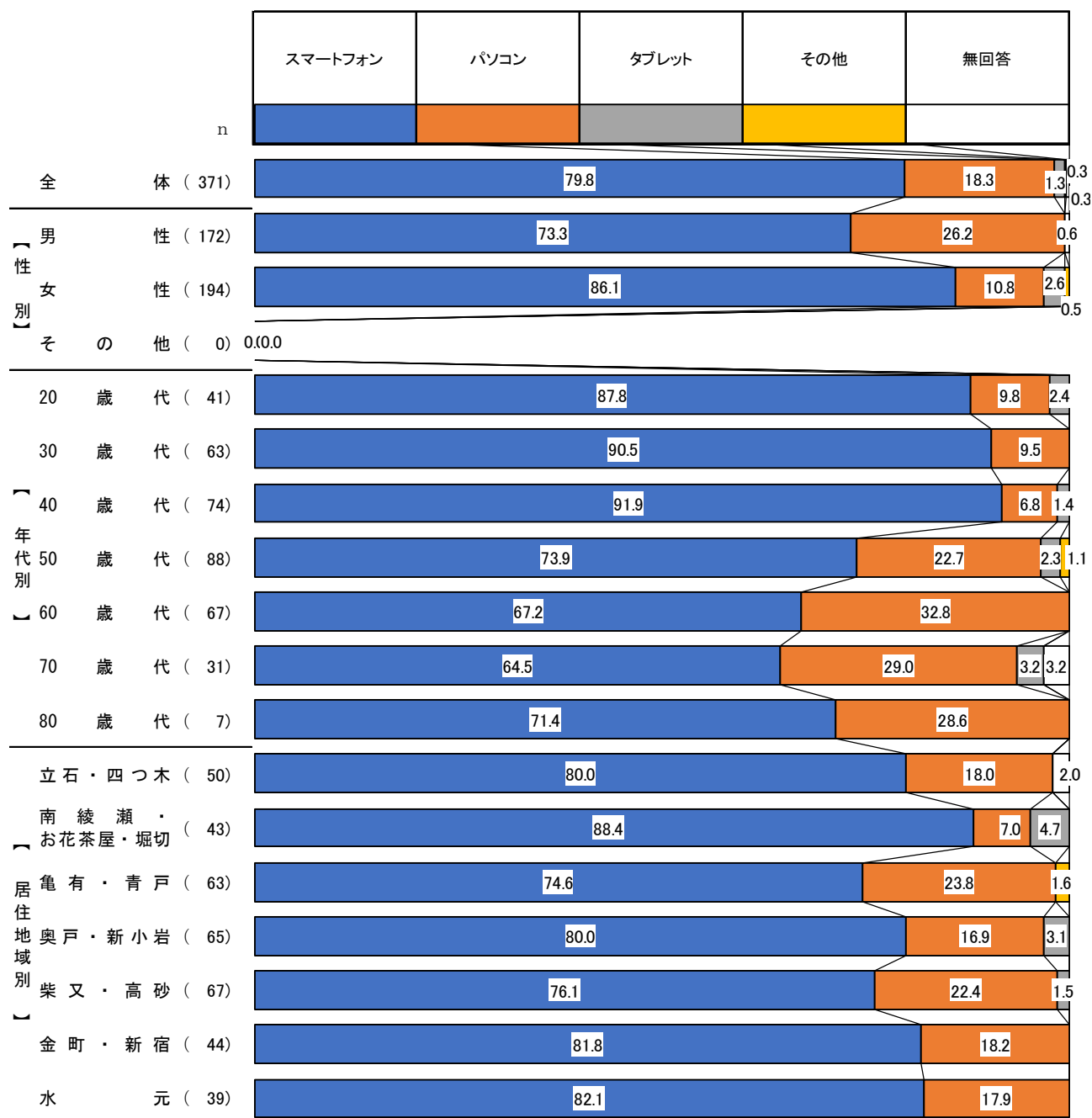
「その他」の内容としては、「PCとスマホのどちらか」があった。

図表-75 回答に際してどのような機器を使用しているか（全体）



図表－76 回答に際してどのような機器を使用しているか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



#### (40) メールアドレスを登録したか

問 40 事前にメールアドレスを登録いただいた方には、各回調査開始時に調査案内をメールにてお送りしました。申込時にメールアドレスを登録しましたか。(1つ選択)

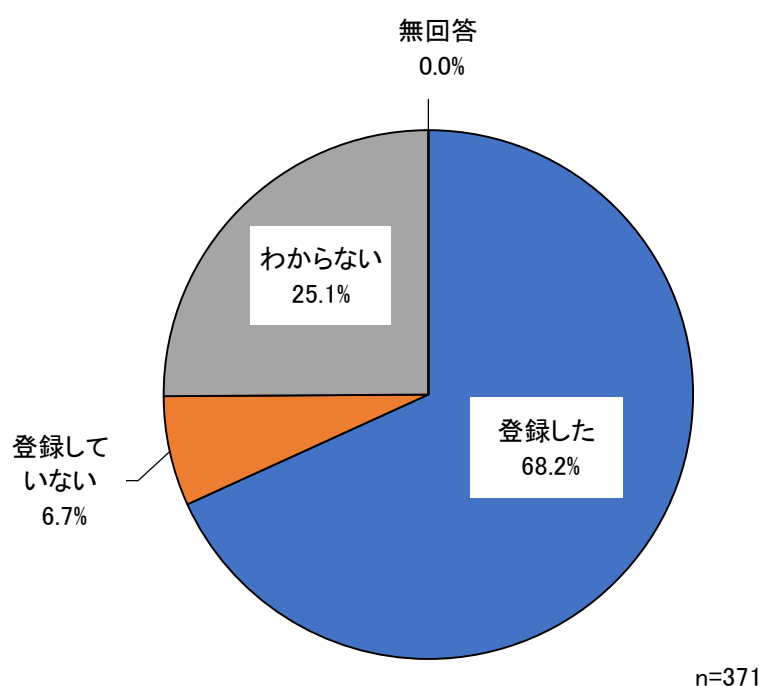
メールアドレスを登録したかについては、「登録した」が 68.2%、「登録していない」が 6.7%、「わからない」が 25.1%となっている。

性別でみると、「登録した」は、男性が 69.2%で女性が 67.0%とほとんど差がみられない。

年代別でみると、「登録した」は、80 歳代を除く全ての年代で 6 割以上となっている。

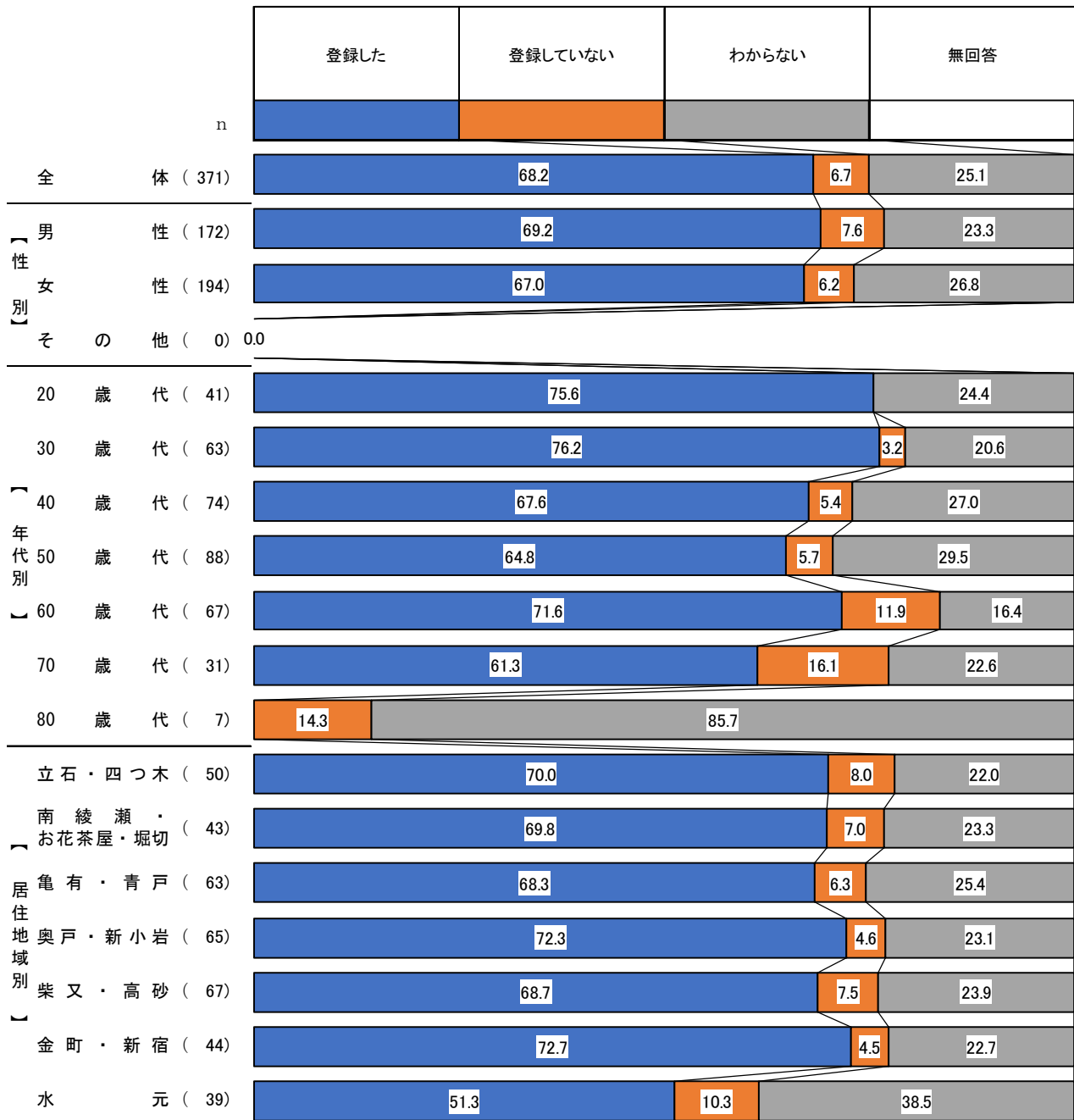
居住地域別でみると、「登録した」は、水元以外の全ての地域で約 7 割と高い一方、水元は 51.3%と最も低くなっている。

図表-77 メールアドレスを登録したか（全体）



図表-78 メールアドレスを登録したか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



#### (41) メールでの調査案内は便利だったか

問 41 問 40 で選択肢 1「登録した」と答えた方に伺います。

メールでの調査案内は便利でしたか。また良かった点や悪かった点があれば具体的に教えてください。(1つ選択)

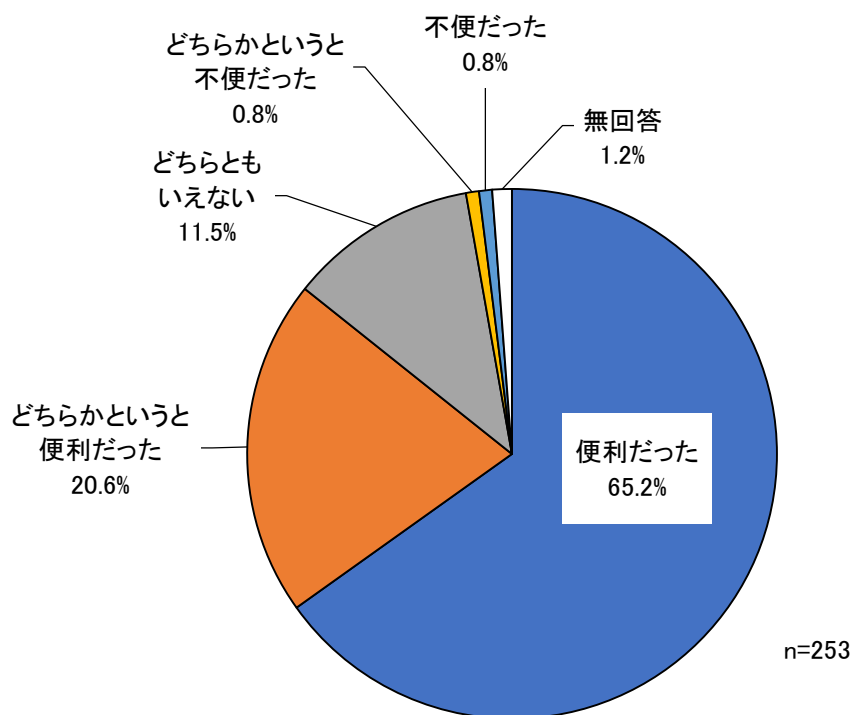
メールでの調査案内は便利だったかについては、「便利だった」と「どちらかという便利だった」を合わせた【便利だった(計)】が85.8%となっている。一方、「どちらかという不便だった」と「不便だった」を合わせた【不便だった(計)】は、1.6%となっている。

性別でみると、【便利だった(計)】は、男性が82.3%で女性が88.5%と女性が高くなっている。

年代別でみると、【便利だった(計)】は、80歳代を除く全ての年代で7割以上となっている。一方、【不便だった(計)】は70歳代が21.1%と最も高く、次いで30歳代16.7%となっている。

居住地域別でみると、【便利だった(計)】は、全ての地域で8割となっている。

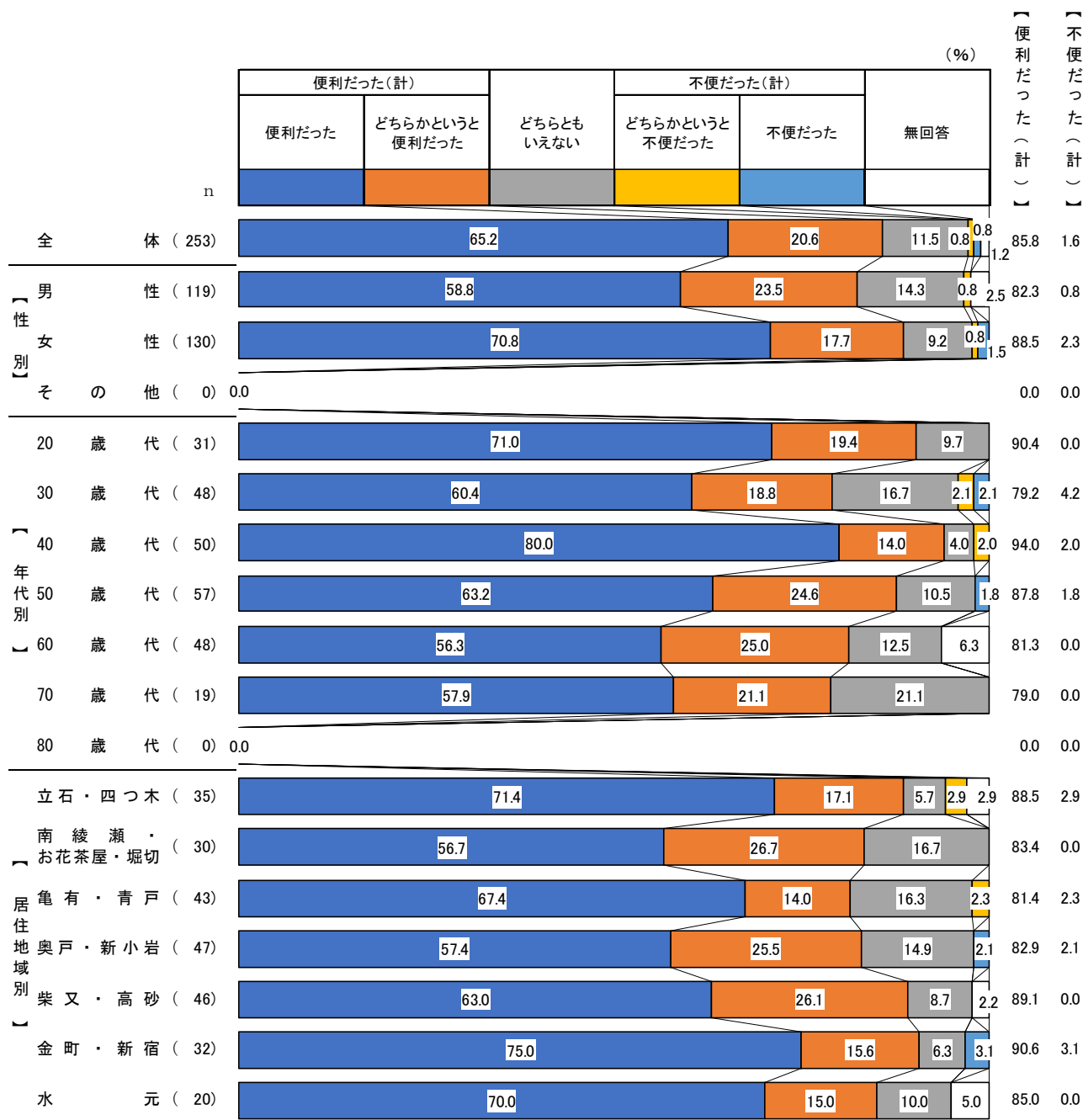
図表-79 メールでの調査案内は便利だったか(全体)



<回答の主な内容>

| 回答                | 具体的な理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 便利だった             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンやPCで回答できるから。</li> <li>・メールで通知されるので、忘れずに回答できるため。</li> <li>・ログインIDとパスワードが表記されているため、ログインが簡単にできる。</li> <li>・アンケートのURLがあるので、そのままアンケートフォームにアクセスできるから。</li> <li>・気軽に回答できるから。</li> <li>・自分の都合のいい時間に回答できるから。</li> <li>・郵便物だけだと見逃していたから。</li> <li>・メールでの通知により、アンケートの期日を忘れずに取り組むことが出来るから。</li> </ul>                                                                                                                |
| どちらかという<br>と便利だった | <ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便だけよりは良かった。</li> <li>・スマートフォンは手軽に参加出来るから。</li> <li>・自分のペースで参加できた。</li> <li>・メールに来るので便利だが、後で入力しようと後回しにして忘れてしまった。</li> <li>・選択式なので回答しやすかった。スマートフォンで回答できるので、スキマ時間に回答できた。選択肢など一部横スクロール必要なのは、少し使いづらかった。</li> <li>・即時に回答できるから。</li> <li>・忘れたころに催促の通知がくるので忘れずに取り組める。</li> <li>・うっかりメールを見逃すこともあった。</li> <li>・その都度IDとパスワードの入力が面倒。</li> <li>・メールから回答ページにアクセス出来て紙媒体を必要としない。</li> <li>・お知らせが来るのでタイミングが分かりやすかった。</li> </ul> |
| どちらとも<br>いえない     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メールを見たまま忘れてしまうことが多かった。結局、封書が来てから送信することが多かった為、我々世代はメールだけでは無く、封書も必要かもしれないと感じた。</li> <li>・PCは毎日開くとは限らないので、確認のためにリマインドの封書が必要だった。</li> <li>・依頼メールが迷惑メールに入ってしまう。</li> <li>・便利か不便かの判断がつかない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                 |
| どちらかという<br>と不便だった | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が多かった。</li> <li>・メールはあまり見ないので、郵送の方が確実に回答できるから。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 不便だった             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答用メールが届く時と届かない時があり、回答できない回があったため。</li> <li>・メールを確認する習慣が無くなったのでLINEの方がありがたいと思った。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

図表－80 メールでの調査案内は便利だったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (42) 調査報告書を読んでいるか

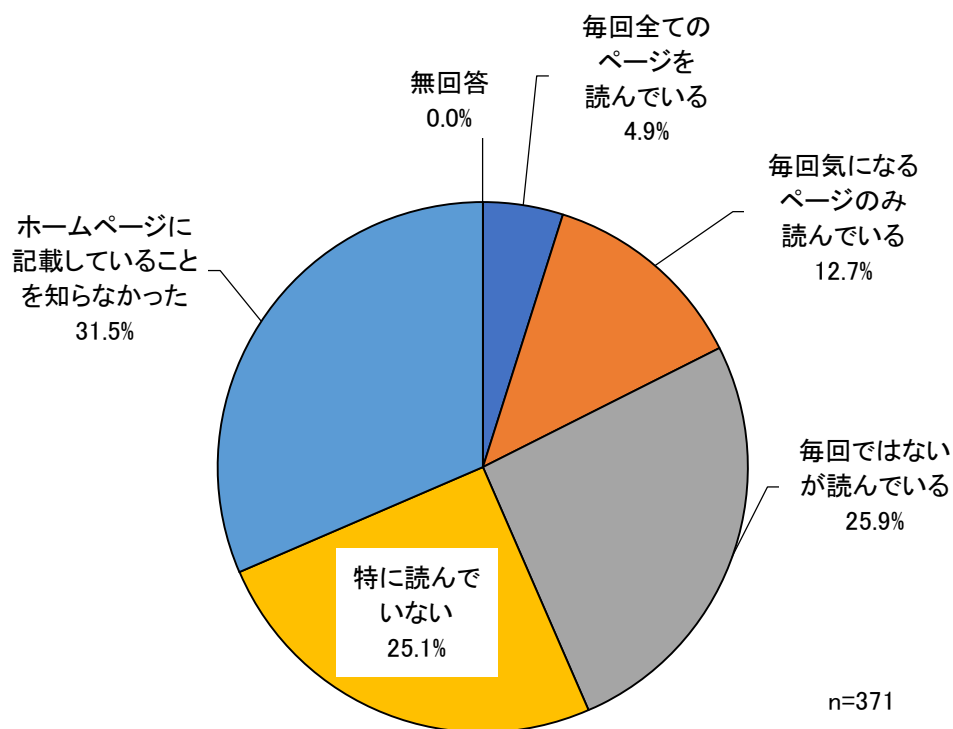
問 42 各回の調査報告書を区ホームページに掲載していますが、読んでいますか。(1つ選択)

調査報告書を読んでいるかについては、「ホームページに記載していることを知らなかった」が31.5%で最も高く、次いで「毎回ではないが読んでいる」が25.9%、「特に読んでいない」が25.1%となっている。

性別でみると、「特に読んでいない」は、男性が27.9%で女性の23.2%より高くなっている。

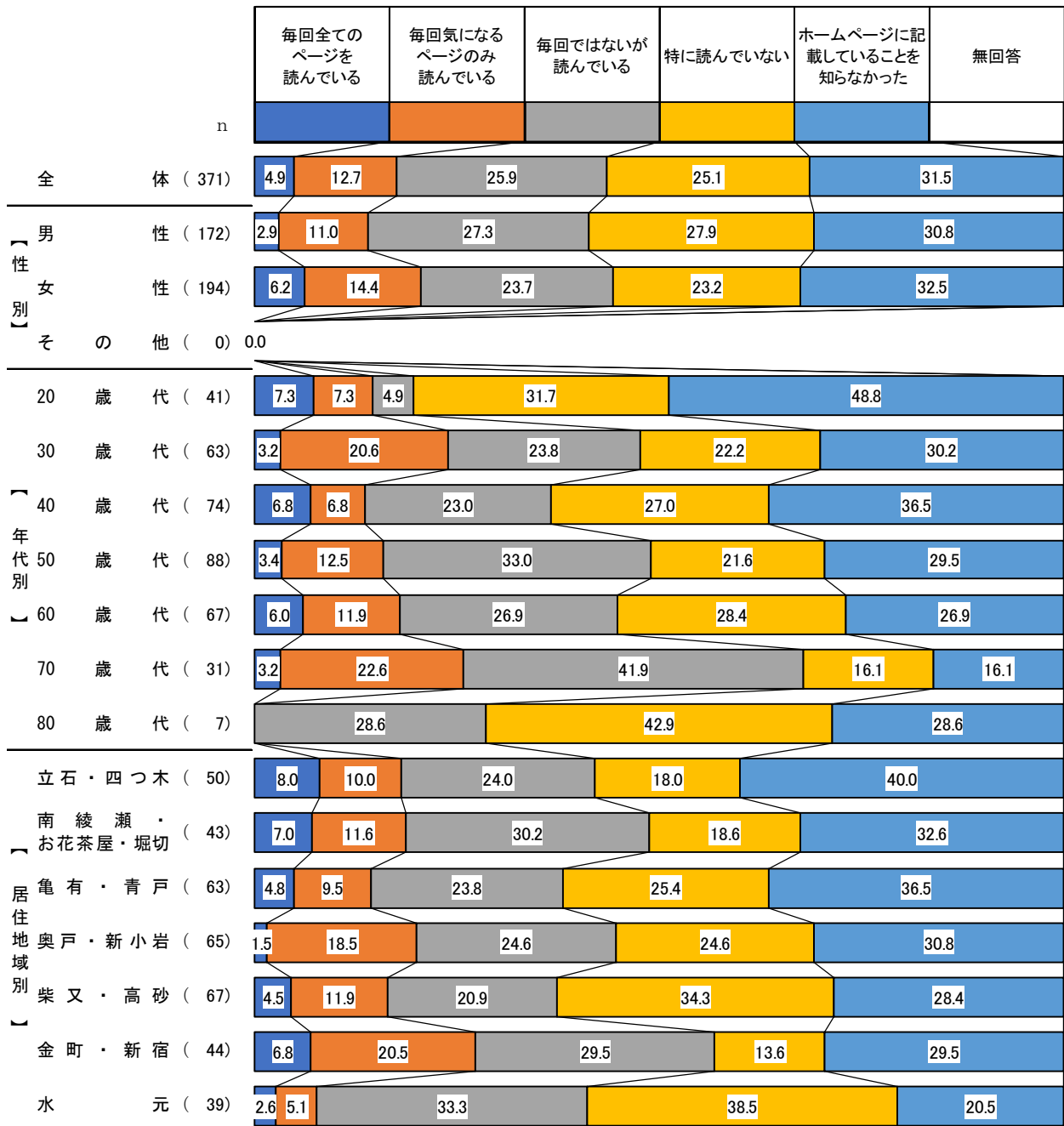
年代別でみると、「ホームページに記載していることを知らなかった」は、20歳代が48.8%で最も高く、次いで40歳代が36.5%、30歳代が30.2%となっており、年代が上がるにつれて低くなる傾向となっている。「毎回ではないが読んでいる」と「毎回気になるページのみ読んでいる」、「毎回全てのページを読んでいる」を合わせた【読んでいる(計)】は、70歳代が67.7%と最も高く、次いで50歳代が48.9%となっている。

図表－81 調査報告書を読んでいるか（全体）



図表－82 調査報告書を読んでいるか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



#### (43) 調査回数は適切だったか

問 43 今年度は初めて同一の方に、年5回の調査（各回45問程度）にご協力いただきました。モニターの皆様のご負担を踏まえて、5回の調査回数はいかがでしたか。（1つ選択）

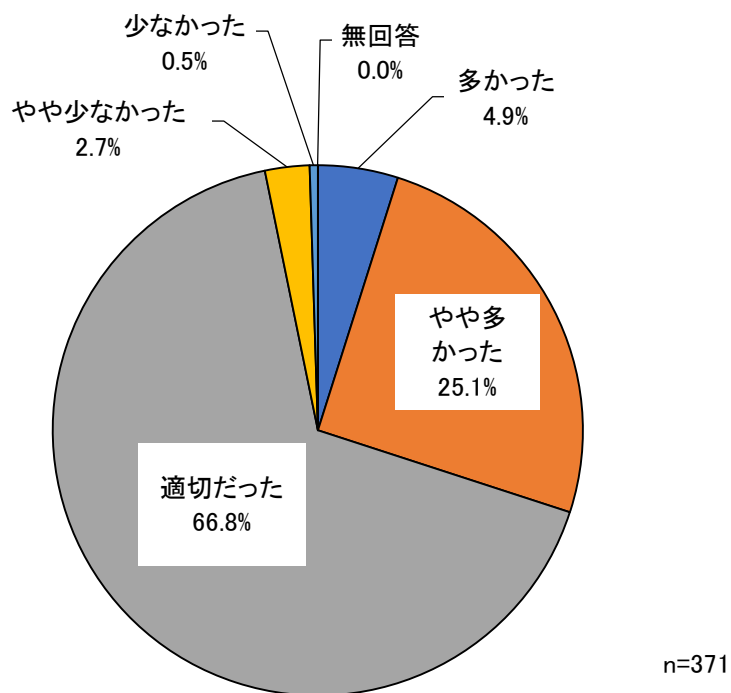
調査回数は適切だったかについては、「適切だった」が66.8%で最も高くなっている。「多かった」と「やや多かった」を合わせた【多かった（計）】が30.0%となっている。一方、「やや少なかった」と「少なかった」を合わせた【少なかった（計）】は、3.2%となっている。

性別でみると、「適切だった」は、女性が67.5%で男性の65.7%でほとんど差がみられない。

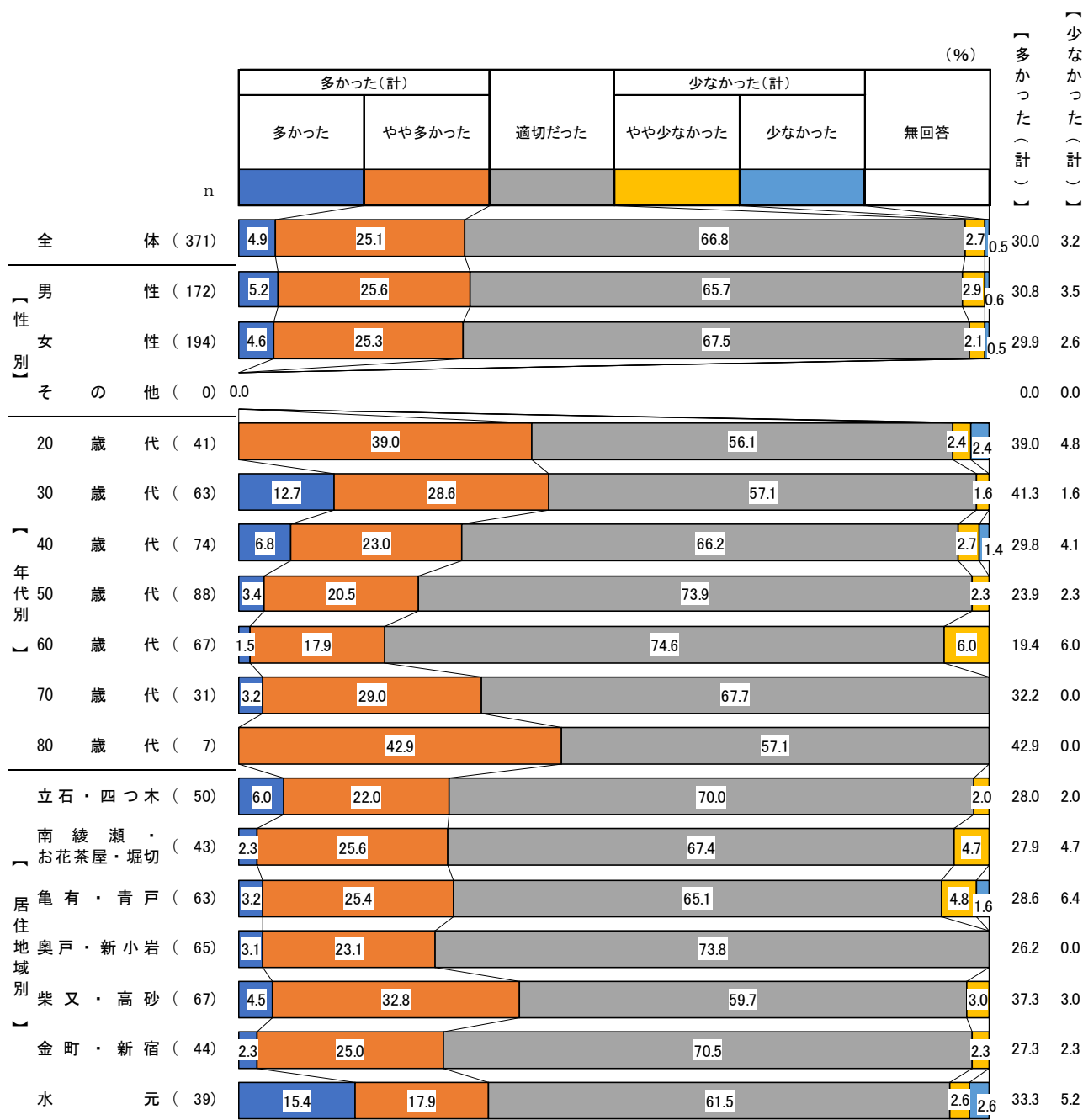
年代別でみると、「適切だった」は、全ての年代で5割以上となっている。「多かった」は80歳代が42.9%最も高く、次いで30歳代が41.3%となっている。

居住地域別でみると、「適切だった」は、全ての地域で5割以上となっている。

図表－83 調査回数は適切だったか（全体）



図表－84 調査回数は適切だったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



#### (44) 区民モニターとして活動してみたの感想

問 44 今年度区民モニターとして活動してみたの感想を教えてください。また、回答の理由もあれば教えてください。(1つ選択)

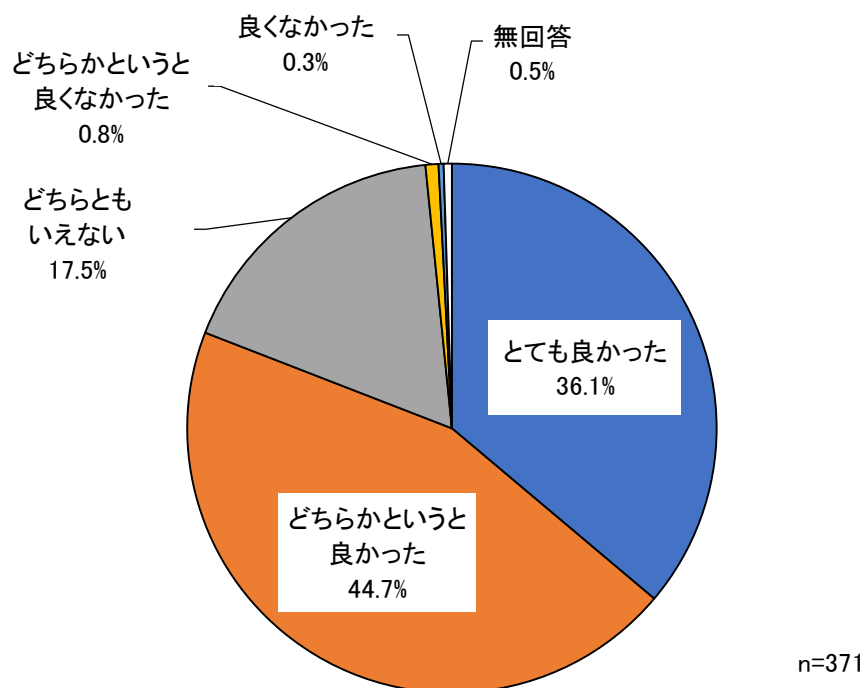
区民モニターとして活動してみたの感想については、「とても良かった」と「どちらかという良かった」を合わせた【良かった(計)】が80.8%となっている。一方、「どちらかという良くなかった」と「良くなかった」を合わせた【良くなかった(計)】は、1.1%となっている。

性別でみると、【良かった(計)】は、女性が84.6%で男性の77.3%より高くなっている。

年代別でみると、【良かった(計)】は、60歳代を除く全ての年代で7割以上となっている。また、「とても良かった」は30歳代が49.2%と最も高く、次いで40歳代が40.5%、50歳代が38.6%となっている。

居住地域別でみると、【良かった(計)】は、全ての地域で7割以上となっている。

図表-85 区民モニターとして活動してみたの感想(全体)

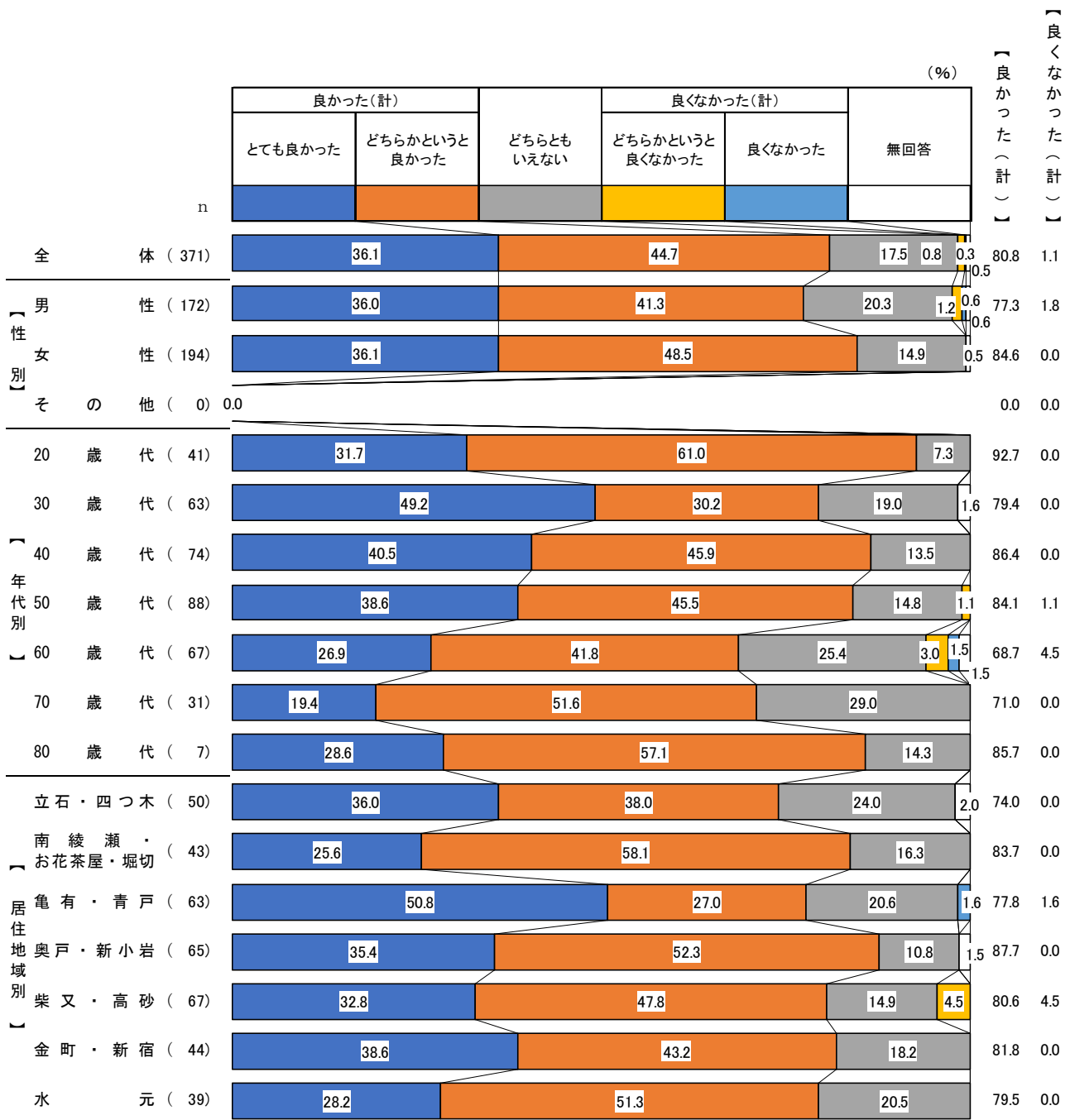


<回答の主な内容>

| 回答          | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| とても良かった     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない制度も多く知るきっかけになった。</li> <li>・区の施策や注力していることが分かって、意見も言えた。</li> <li>・区民としての意識が芽生えた。</li> <li>・関心のあるテーマが多く、区民の意見が反映される可能性も出てくるのではないかと期待が持てる。</li> <li>・葛飾区がどのようなことを行っているのか知る機会となった。</li> <li>・今回の調査を通して葛飾区の取組を知ることができ、同時に葛飾区への愛着も湧いた。今後も何かお役に立てることがあれば協力したい。</li> <li>・知らなかった制度や取組を知ることができた。</li> <li>・生活圏の情報を知ることができるのは有意義だった。</li> <li>・区のことを改めて知る機会が取れた。</li> <li>・知らない情報は学ぶきっかけになった。</li> <li>・自分の知識が浅いことや、自分本位に生きていることを再認識出来た。</li> <li>・アンケートを通して区の取組に関心が持てた。</li> <li>・区政の政策検討に協力できたという満足感、達成感が得られたこと。</li> <li>・今回のような里親制度を知らなかったので検索してみたり、定期的に広報紙の検索もするようになった。</li> <li>・勉強になった。</li> <li>・地域活性のために取組をしている人の存在を感じられ、区政に興味を持つことができた。</li> <li>・自分の意見が反映されていると思うと、とてもいい区だと思う。</li> <li>・自分の意見が読んでもらえるから。</li> </ul> |
| どちらかという良かった | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の様々な取組がわかり、気持ちが引き締まるとともに、何かに自分も参加していると云う充実感があつた。</li> <li>・自分が知らないこと気付くきっかけになった。</li> <li>・区が取り組んでいることを知れてよかった。</li> <li>・知らないことを知ることが出来た。意見を伝えることが出来た。</li> <li>・自分の意見を伝える場が出来て良かった。</li> <li>・区民の声を聞いてくれる姿勢が嬉しかった。</li> <li>・自分の意見が気軽に行政に伝えられる。</li> <li>・手軽に参加できたから。</li> <li>・普段はあまり関心を持たないことについて考える時間になった。</li> <li>・区役所の事業・政策・イベント等に興味を持つようになった。</li> <li>・自分の暮らす自治体で、主体的に区政に参加出来たという印象を持つことができたから。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段は触れない情報が入ってくるから。</li> <li>・ 区民の一人としてモニター参加し意見が言えたこと。</li> <li>・ 知らない取組や制度について知るきっかけになった</li> <li>・ 知らなかった情報が多くあり、更に葛飾区に興味を持つとともに、区の広報紙を隅々まで読むきっかけになった。</li> <li>・ 区の施策で知らないことを学べた。</li> <li>・ モニターの声が活かされれば活動の意味はあると思う。</li> <li>・ 区民の生活向上のために広く意見を取り入れ、実現に向けて行く方向が良いと思った。</li> <li>・ 自分の意見を伝えることができる。但し、あまりにも関係ない設問もあったと思う。</li> <li>・ 自分の意見が行政の参考になるのなら良いと思う。</li> <li>・ 不明な点があった。</li> <li>・ 住んでいるのに知らないことが多いのだという実感と、知らなくても自分自身は困っていない現状を再認識した。ただ、知らないよりは知っている方が良いのだろうとも思った。</li> <li>・ 質問項目も多くな、回答の負担が少ない。</li> <li>・ 思ったほど大変でなかった。</li> </ul> |
| どちらとも<br>いえない          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのように利用されるのかよくわかっていない。</li> <li>・ どう反映されるかわからないから。</li> <li>・ 質問されている内容の意図が不明なものがあった。</li> <li>・ 知らなかった情報もわかったのは良いが、設問数が多く感じて大変だった。</li> <li>・ 興味のあるテーマと興味のないテーマが半々くらいだった。</li> <li>・ 関心のないテーマが多かった。</li> <li>・ 1回の質問が多いので、その分回数を多くしたらどうか。</li> <li>・ 回答はしたが何も手応えを感じていない。</li> <li>・ 回答が掲載されていることを知らなかったので手応えがなかった。ホームページへの掲載される旨を毎回の手紙でお知らせいただけるといいと思う。</li> <li>・ 年齢等で答えられないものもあるので、年齢等を考慮してほしい。</li> <li>・ 区には良いと思うが、モニター側の負担が大きい。</li> <li>・ 自分があまり区政のことを知らないことがわかって、良い意見が言えなかったと思っている。</li> <li>・ 意見が反映されているかわからないから。</li> </ul>                 |
| どちらかという<br>と良くな<br>かった | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールの差出人が委託会社名なので迷惑メールと勘違いしそうになった。葛飾区を差出人にすべきだと思う。</li> <li>・ 少し選択肢が多いと良いと思う。</li> <li>・ 設問がいまいちだった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 良くなかった                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択肢で的外れなものがある。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

図表-86 区民モニターとして活動してみたの感想  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



#### (45) 区政への関心は高まったか

問 45 区民モニター調査を通じて区政への関心は高くなりましたか。(1つ選択)

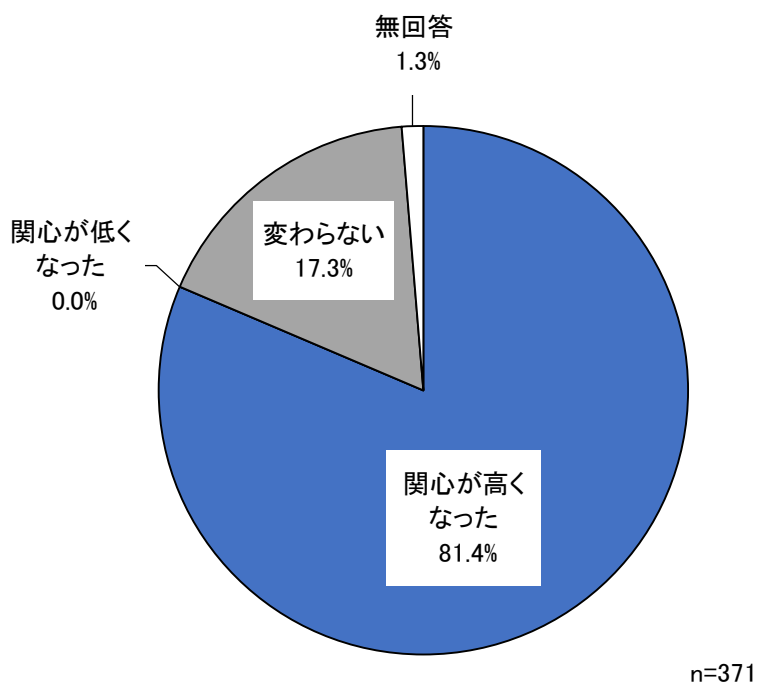
区政への関心は高まったかについては、「関心が高くなった」が81.4%で最も高く、次いで「変わらない」が17.3%となっている。「関心が低くなった」と回答した人は居なかった。

性別でみると、「関心が高くなった」は、女性が86.6%で男性の77.3%より高くなっている。

年代別でみると、「関心が高くなった」は、全ての年代で7割以上となっており、年代が上がるにつれて「関心が高くなった」の割合が低くなる傾向となっている。

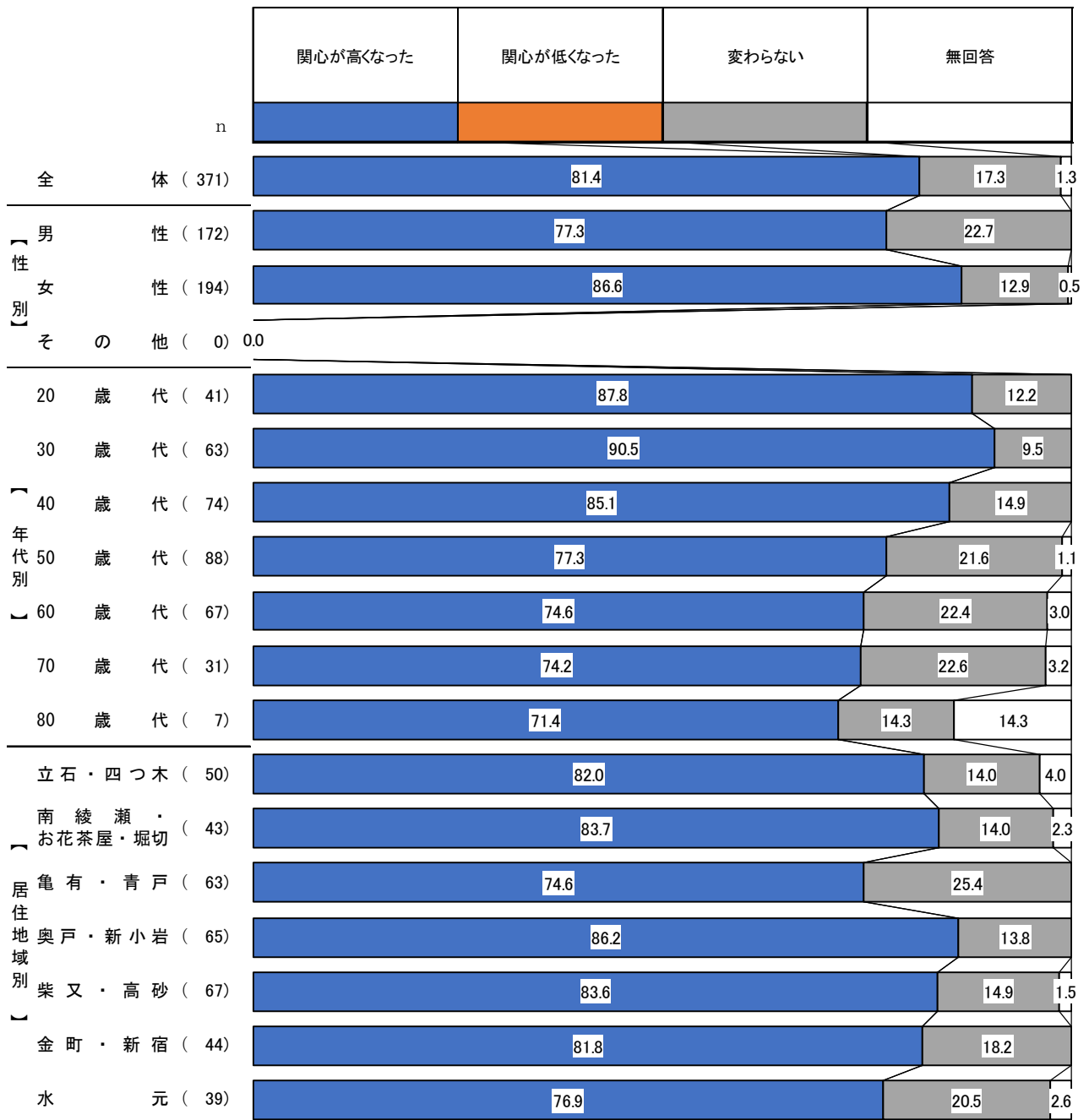
居住地域別でみると、「関心が高くなった」は、全ての地域で7割以上となっている。

図表-87 区政への関心は高まったか（全体）



図表－88 区政への関心は高まったか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



#### (46) またモニターとして活動したいか

問 46 1年間区民モニターとして活動いただきましたが、機会があればまたモニターとして活動したいと思いますか。(1つ選択)

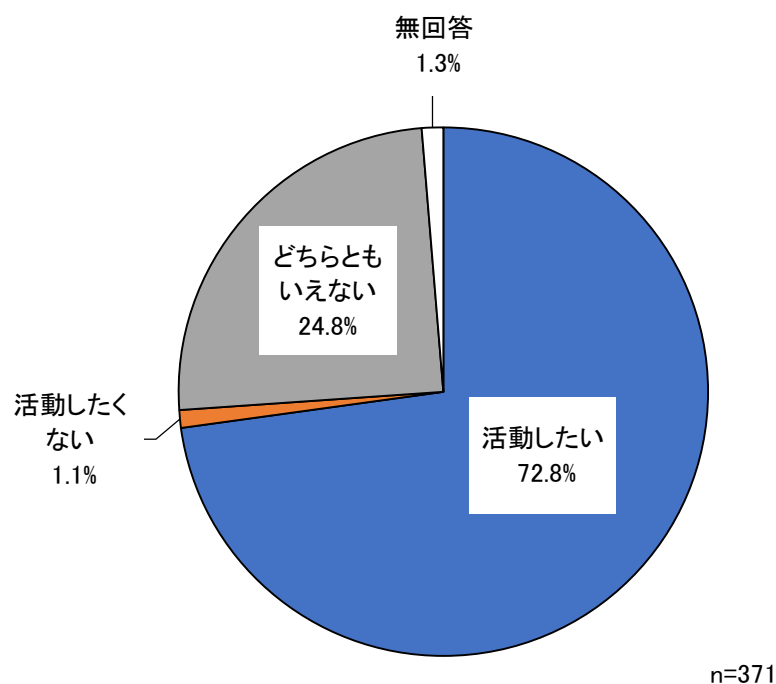
またモニターとして活動したいかについては、「活動したい」が72.8%、「活動したくない」が1.1%、「どちらともいえない」が24.8%となっている。

性別でみると、「活動したい」は、女性が75.3%で男性の71.5%より高くなっている。

年代別でみると、「活動したい」は、60歳代と70歳代を除く全ての年代で7割以上となっており、60歳代と70歳代も含めた全ての年代でも5割以上となっている。

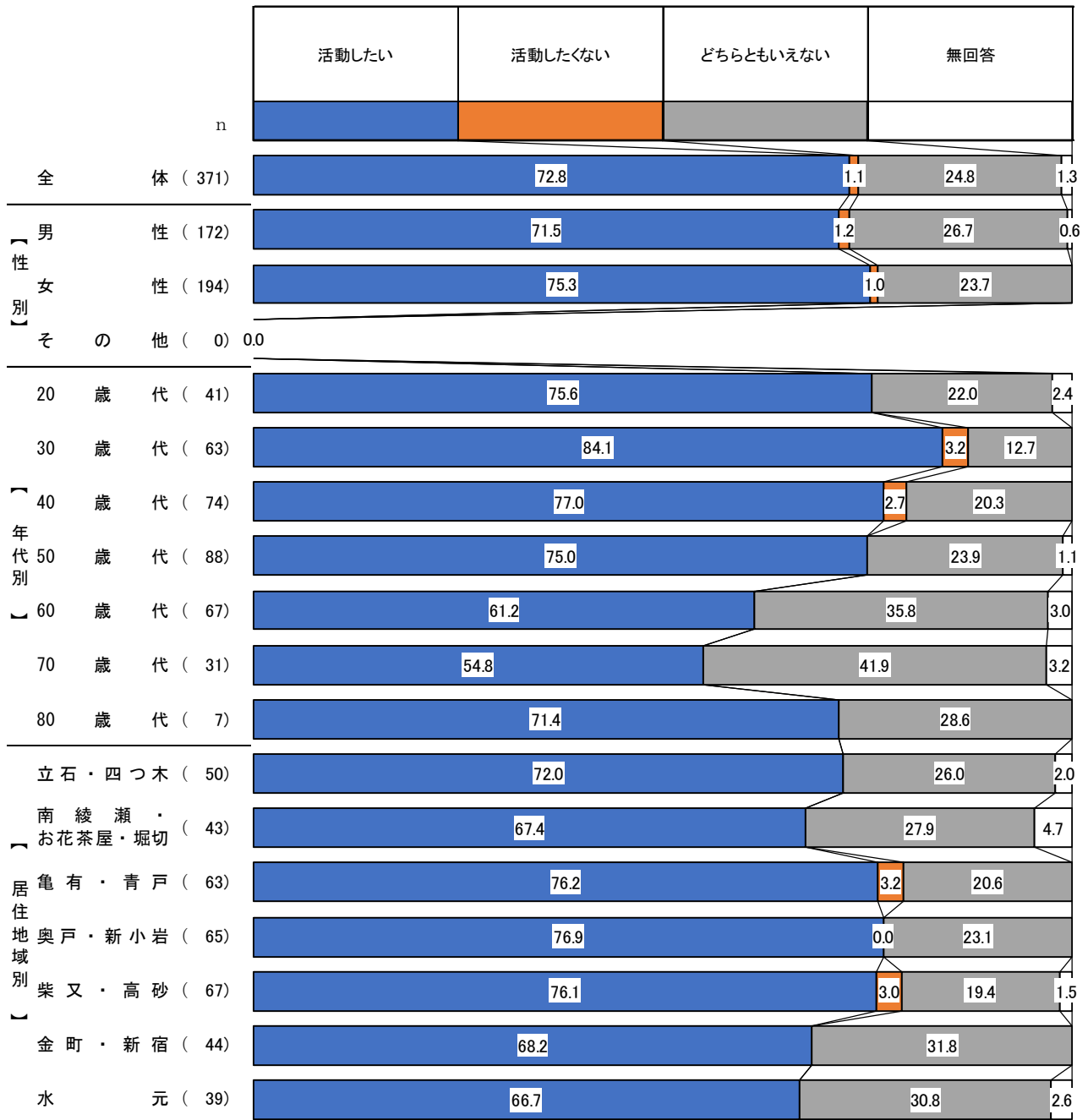
居住地域別でみると、「活動したい」は、全ての地域で6割以上となっている。

図表－89 またモニターとして活動したいか（全体）



図表－90 またモニターとして活動したいか  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



## (47) 改善してほしい点や要望など

問 47 現在回答フォームには、一時保存機能などを設けるほか、調査テーマの参考 URL など  
を挿入しております。実際に回答いただいて、改善してほしい点や要望などがありましたら教えてください。(自由記述)

### 【主な意見】

- ・内容が不明なものは、改めて URL を参考に理解した。URL の挿入は良い方法だと思った。
- ・関心のない分野で専門用語が出てくるとわかりづらかった。
- ・参考 URL だけでなく、できれば簡単に言葉や概念の説明を見られるようにしてほしいと思った。(言葉にマウスを載せると説明が表示される、くらいの簡便さがよいのではないか。)
- ・回答事項を、あれもこれもでは無理があるので、目的を考えるようにしてほしい。
- ・もう少し身近な調査テーマが良い。
- ・答えにくい、見にくいなどの不都合はなかった。
- ・一度に複数テーマを扱わないでほしい。回答に時間がかかるので大変。回数が増えても 1 回のアンケートは短いほうがいい。
- ・何度か読み直さないと理解できないものがあり、選択に迷うことがあった。一時保存は大変便利だった。
- ・とても楽しいアンケートだった。
- ・今回多くの質問に回答したが、最初から最後までとてもわかりやすく、とても扱いやすかったので最後までストレスなく回答することが出来た。
- ・答えやすかった。
- ・毎度毎度、ID とパスワードを入力するのは大変だった。一度登録したら、2 回目以降は、違う形ですぐにアンケートへ進める様な方法があれば良いと感じた。
- ・一度紙で依頼が来た時に ID とパスワードが分からず困った。案内では忘れた際は窓口に電話するようにあったが、それだと手間が多く面倒で諦めた。パスワードリセットなりシステムで対応できるようにしてほしい。
- ・ID やパスワードを保存出来ると良い。
- ・スマホで操作する場合、少し読みにくかった。
- ・スマホだと文章が一行に横に長くなってしまうので、少し読みにくかった。
- ・横に長い項目がたまにあるが、それ以外不満はない。
- ・他のアンケートに比べても操作は良いほうだと思う。音声入力できればもっと良い。
- ・回答しやすいフォームになっていると感じた。
- ・高齢者が操作しやすいようにしてほしい。
- ・とても便利で有効な機能だった。必要十分だと思う。
- ・確かに設問数が多い場合、一時保存機能はほしい。締め切りまでに見返しや修正ができると、あとで「このように答えればよかった」と思ったときに修正が出来てよいと思う。
- ・選択の必要がない間で、間違えて選択してしまったときに、取り消しできないことが不満。
- ・一時保存機能はとても便利だと思う。
- ・一時保存は便利だった。
- ・メールではなく LINE にしてほしい。一時保存だけでなく、修正機能もつけてほしい。

- ・その他の解答欄が長文を書いても一行にしか収まらないので読み返しづらかった。
- ・1 回あたりの対応時間が長くなるので、調査回数を増やして、1 回あたりの回答数を減らしたら、より手軽に回答できると感じた。
- ・毎回設問数が多すぎる。30 問、もしくは 20 問くらいまで厳選すべき。
- ・調査結果は HP 掲載とのことだったが、取りまとまった段階でモニター参加者には URL などをメール連絡してもらえるとよいと思う。
- ・第 5 回調査のメールが届かなかった。メールを 2 回くらい送ってほしい。
- ・WEB に関してではないが、モニター調査の案内がメールでも来るのに、毎回書類で来るのは紙の無駄だと思った。初回のみで良いと思う。

## (48) 取り上げてほしいテーマ、全体を通しての感想

問 48 区民モニター調査に関して、今後取り上げてほしいテーマ、全体を通しての感想などがありましたらご記入ください。(自由記述)

### 【主な意見】

(テーマについて)

- ・税や補助金について。
- ・区内の娯楽について。
- ・区施設の予約方法など。
- ・たばこやごみのポイ捨てをなくし、きれいなまちづくりへの啓蒙活動。
- ・路上喫煙について。
- ・防災や健康増進について。
- ・防災対策及びスポーツを通じた地域振興。
- ・南海トラフ地震など大規模震災が来る可能性があることから、防災意識向上に関するテーマや、災害持出袋の事前準備などの啓蒙を題材にしたものを取り上げてもらえると良いと思う。
- ・ごみの出し方。
- ・葛飾区の高齢者に対する取組も知りたい。
- ・今後の高齢者対応。介護や福祉施設についてなど。
- ・介護の問題（介護保険を受けるほどではないが、助けを必要としている方が頼れる業者さんが、もっと多ければと思う）。
- ・福祉関係の調査（子ども、高齢者）を取り上げてほしい。
- ・医療について。
- ・子どもに関しての内容。道路の歩きやすさなど。
- ・子育て関係について。
- ・ひとり親について。
- ・20歳代向けのイベントについて取り上げてほしい。
- ・若者向けやもっと身近なもの。
- ・駅周辺やスポーツ施設などの都市開発関連。
- ・自転車などの交通マナー向上への取組。外国人観光客に関する取組。
- ・新小岩駅東北広場の活用法について。
- ・区の住宅や住宅補助。若いうちの結婚についてのサポート。区の雇用制度。
- ・区内の交通について。
- ・スクールゾーンやごみの分別、教育支援について。
- ・子どものスマホ使用率や持っている人の割合など。
- ・いじめについて。
- ・小学生に貸与しているタブレットについて。
- ・高齢者スポーツについて。

(モニター調査についての感想や意見)

- ・我々大人だけではなく、ぜひ各世代の子ども達にもモニターに参加してほしいと感じた。
- ・自分が知らないことが多いと感じた。区役所では、様々なことに対応しているのだと思った。
- ・回答するのにやや時間を要するので、回数を増やして1回の設問数を少なくしてほしい。もしくは、1回の調査で1テーマとしてほしい。
- ・全体を通して良い経験をさせていただいたと感じている。
- ・区民モニターで区政の知らないことが多々あると感じた。
- ・葛飾区をより良いまちにしてほしいというのは、区民全員の願いだと思う。その一助になれたのなら幸い。
- ・もっと様々な方がモニターを経験されるといいと思う。謝礼がもう少し魅力的だと嬉しい。(区の施設が利用できる権利など(保養所や健診無料券ほか))
- ・設問の背景がわかると、もっと良いと感じた。
- ・調査を通して初めて知ることが大変多く感じた。普段の生活をしている中で意識して考えたり、記憶に残るものが正直少ないと思ったので、今後より一層区民が注目するようなアピール方法があると良いと思う。
- ・毎年でなければモニターをしても良いと思う。または、1シーズン3回くらいの調査であればあまり負担感がない気がする。区民の声が集計されるのはありがたいと思う。
- ・葛飾区だけの条例とか制度があると、区民の意識が上がると思う。何がほしいか聞いてみるのも面白いかもしれないと思う。
- ・知らないこともあり、勉強になった。
- ・知らなかったことを知ることが出来て、調査前より区政に関心がわいた。
- ・自分が普段思っている以上に、行政の取り組みが多岐であったことでとても喜ばしい気持ちになった。
- ・初めて区民モニターに選ばれたので気を引き締めて熟考して回答した。これまでほとんど区政の制度や課題などは自身に直接関係するもの以外に関心がなかったが、今回の参加を機に視野が広がり有意義だった。今後も地元の環境改善や発展に少しでも関われる機会を増やしていきたいと感じた。

(区政全般に関する意見)

- ・葛飾区が行っている助成制度など、葛飾区のホームページに掲載されている内容を項目ごとに取り上げてほしい。一つ一つ見て把握している人は少ないと思う。
- ・子ども食堂や、自治体での宿題や勉強を見てもらえる施設や教室がもっとたくさんあれば、子どもだけでなく親御さんも安心出来るのではないかなと思う。
- ・子どもの習い事を探すのにいろいろと困るので、広報紙などで取り上げたりしてほしい。
- ・区内を走るバスが廃止や減便になってしまい、高齢者の方が、移動に不便を感じる。
- ・区内で空き家が目立つので防犯や防火、衛生面等の対策を考えてもらいたい。区民からの連絡待ちではなく、定期的な巡回で張り紙やロープ警戒(立ち入り禁止、危険等)樹木伐採等を速やかに実施してほしい。
- ・子どもがもっとスポーツをしやすい環境を作してほしい。

令和6年度  
第5回葛飾区区民モニターアンケート調査報告書

令和7年（2025年）3月  
葛飾区総務部すぐやる課すぐやる係  
東京都葛飾区立石5-13-1  
電話 03-3695-1111（代表）